ヘルマスの牧者

ヘルマス
藤遥　制作

第一の幻　ロダの叱責と、老婦人の朗読

1:0:0 第一の幻

1:1:1 わたしを育てた人は、ローマにいるロダという女に、わたしを売った。何年もたってから、わたしは彼女と再び知り合い、姉妹として愛するようになった。1:1:2 しばらくして、わたしは、彼女がティベリス川で水浴びをしているのを見た。そして手を差し伸べ、彼女を川から引き上げた。そこで、その美しさを見て、わたしは心の中でこう思い巡らした。「このように美しく、人柄もよい女を妻にしていたなら、わたしは幸いだったろうに」わたしが考えたのは、このことだけだった。ほかのことは一つも考えなかった。1:1:3 しばらくして、クマエ[1]へ向かう途中、神の造られたものの偉大さと輝きと力をたたえながら歩くうちに、わたしは眠りに落ちた。すると、霊がわたしを捕らえ、人の通ることのできない、道のないところを通って、わたしを運んで行った。そこは切り立った崖で、水に削られて裂けていた。そこで、その川を渡って、わたしは平らなところに出た。そして、ひざまずいて主に祈り、自分の罪を告白し始めた。1:1:4 祈っていると、天が開けた。そして、わたしが欲したあの女が、天からわたしにあいさつしているのが見えた。彼女は言った。「ヘルマス、ごきげんよう」1:1:5 わたしは彼女を見つめて言った。「奥さま、ここで何をしておられるのですか」彼女はわたしに答えた。「わたしは天に上げられたのです。主の前で、あなたの罪を責めるためです」1:1:6 わたしは彼女に言った。「では、今あなたは、わたしを責める方なのですか」彼女は言った。「いいえ。そうではなく、わたしがこれからあなたに話す言葉を聞きなさい。天に住まわれる神は、無いものから有るものを造り、ご自分の聖なる教会のために、それを増やし、大きくされました。その神が、あなたに怒っておられます。あなたがわたしに対して罪を犯したからです」1:1:7 わたしは彼女に答えて言った。「わたしがあなたに対して罪を犯したのですか。どこで、またいつ、わたしがあなたに恥ずべき言葉を口にしたでしょうか。わたしはいつも、あなたを女神のように思っていたではありませんか。いつも、姉妹のように敬っていたではありませんか。婦人よ、なぜ、このような悪い、汚れたことで、わたしを偽ってお責めになるのですか」1:1:8 彼女は笑って、わたしに言った。「悪の欲望が、あなたの心に上ったのです。それとも、正しい人の心に悪い欲望が上るなら、それはその人にとって悪いことだと、あなたは思わないのですか。それこそ罪です。それも大きな罪です。正しい人は、正しいことを考えるものだからです。ですから、正しいことを考えることで、その人の栄光は天で確かなものとなります。そして、何事においても、主はその人とたやすく和解してくださいます。しかし、心の中で悪いことを考える者たちは、死と、とりこになることを、自分に招きます。とりわけ、この世を自分のものにしようとし、自分の富を誇って、来るべき良いものにすがらない者たちがそうです。1:1:9 彼らの魂は悔い改めるでしょう。彼らは、望みを持たず、かえって自分自身と自分のいのちに見切りをつけた者たちです。けれども、あなたは神に祈りなさい。そうすれば、神は、あなたの罪と、あなたの家全体の罪と、すべての聖徒たちの罪をいやしてくださいます」

1:2:1 彼女がこれらの言葉を語り終えると、天は閉じられた。わたしはすっかり身震いし、悲しんでいた。そして、心の中で言った。「この罪がわたしについて書き記されるのなら、どうしてわたしは救われることができるだろうか。また、わたしのきわまった罪について、どのように神をなだめたらよいのだろうか。また、どんな言葉で主に願えば、主はわたしをあわれんでくださるだろうか」1:2:2 わたしがこうしたことを思い巡らし、心の中であれこれ考えていると、向かいに大きな白い椅子が見えた。雪のように白い羊毛でできた椅子だった。そして、まばゆく輝く衣を着た年老いた婦人が、手に書物を持ってやって来た。彼女は一人で腰を下ろし、わたしにあいさつした。「ヘルマス、ごきげんよう」わたしは悲しんで泣きながら言った。「奥さま、ごきげんよう」1:2:3 彼女はわたしに言った。「ヘルマス、なぜ浮かない顔をしているのですか。辛抱強く、腹を立てず、

いつも笑っているあなたが、なぜそんなに沈んだ顔で、晴れやかでないのですか」わたしは彼女に言った。「このうえなく善良な婦人が、わたしが彼女に対して罪を犯したと言うからです」1:2:4 彼女は言った。「神のしもべに、決してそのようなことがあってはなりません。けれども、彼女のことが、確かにあなたの心に上ったのです。神のしもべたちにとって、そのような思いは罪をもたらします。きわめて尊く、すでに試されて認められた霊にとって、悪い行いを欲するなら、それは悪い、恐ろしい思いだからです。ましてや、自制するヘルマスならなおさらです。あらゆる悪い欲望から離れ、あらゆる素直さと大きな無垢に満ちたヘルマスなのですから。

1:3:1 けれども、神があなたに怒っておられるのは、このためではありません。そうではなく、主に対して、またその親であるあなたがたに対して、不法を行ったあなたの家を、あなたが立ち帰らせるためです。ところが、あなたは子供を愛するあまり、自分の家を諭さず、かえって、それが損なわれるにまかせました。それゆえ、主はあなたに怒っておられるのです。けれども、主は、あなたの家でこれまでに起こった悪いことを、すべていやしてくださいます。あなたが日々の暮らしの営みで損なわれたのは、彼らの罪と不法な行いのゆえなのです。1:3:2 けれども、主の豊かなあわれみが、あなたとあなたの家をあわれみました。主はあなたを強め、ご自分の栄光のうちに、あなたを堅く据えてくださいます。ただ、あなたは怠けてはなりません。かえって、勇気を出して、あなたの家を強めなさい。鍛冶屋は、手がける品を槌で打って、思いどおりの物を作り上げます。それと同じように、日ごとに語られる正しい言葉も、あらゆる悪に打ち勝つからです。ですから、あなたの子供たちを諭すことを、やめてはなりません。彼らが心を尽くして悔い改めるなら、聖徒たちと共に、いのちの書に書き入れられることを、わたしは知っているからです」1:3:3 彼女はこれらの言葉を語り終えると、わたしに言った。「わたしが読むのを聞きたいですか」わたしは言った。「はい、聞きたいです、奥さま」彼女はわたしに言った。「では、聞く者となって、神の栄光を聞きなさい」わたしは、大いなる驚くべきことを聞いた。しかし、それを覚えていることはできなかった。実際、その言葉はどれも恐ろしく、人が耐えられるものではなかった。そこで、最後の言葉は覚えた。それは、わたしたちのためになる、穏やかな言葉だったからだ。1:3:4 『見よ、わたしの愛する[2]万軍の神は、強い力と大いなる悟りによって世界を造られた。栄光あるご計画によって、ご自分の造られたものに麗しさをお与えになった。力あることばによって天を堅く立て、地を水の上に据えられた。ご自身の知恵と摂理によって、ご自分の聖なる教会を造り、これを祝福された。見よ、その方は、天も、山々も、丘も、海もお移しになる。こうして、すべては、ご自分の選ばれた者たちのために平らになる。それは、大いなる栄光と喜びをもってなさった約束を、彼らにお果たしになるためである。彼らが、大いなる信仰をもって受けた神の定めを守るならば』

1:4:1 さて、彼女が読み終えて椅子から立ち上がると、四人の若者が来て、その椅子を担ぎ、東の方へ去って行った。1:4:2 彼女はわたしを呼び寄せ、わたしの胸に触れて言った。「わたしの朗読は気に入りましたか」わたしは彼女に言った。「奥さま、この最後の言葉は気に入りました。けれども、初めの言葉は厳しく、耳に痛いものでした」彼女はわたしに言った。「この最後の言葉は正しい者たちのため、初めの言葉は異邦人と背いた者たちのためのものです」1:4:3 彼女がわたしと話していると、二人の男が現れ、彼女の両肘を支えて、椅子のあるところ、東の方へ去って行った。彼女は晴れやかな顔で去って行き、行きながら、わたしに言った。「ヘルマス、男らしくありなさい」

訳注

1 原語は『村々』とも読め、田舎へ出かけたと取る説もある。

2 『わたしの愛する』がなく、『目に見えない強い力によって』と読む古い訳もある。

第二の幻　書き写した小さな書と、悔い改めの期限

2:0:0 第二の幻

2:1:1 去年と同じ季節にクマエへ向かう途中、わたしは歩きながら、去年の幻を思い出した。すると、再び霊がわたしを捕らえ、去年と同じところへ運んで行った。2:1:2 そこで、そのところに着くと、わたしはひざまずいて主に祈り、その御名をあがめ始めた。主がわたしをふさわしい者とみなしてくださり、わたしの以前の罪を知らせてくださったからだ。2:1:3 祈りを終えて立ち上がると、去年も見たあの年老いた婦人が、向かいで歩きながら小さな書を読んでいるのが見えた。彼女はわたしに言った。「これを、神の選ばれた者たちに告げ知らせることができますか」わたしは彼女に言った。「奥さま、これほど多くのことは覚えていられません。ですが、その小さな書をわたしにお渡しください。書き写すためです」彼女は言った。「受け取りなさい。そして、わたしに返しなさい」2:1:4 わたしはそれを受け取り、畑の中のある場所に退いて、すべてを一字一字書き写した。実際、音節の切れ目が分からなかったのだ。こうして、小さな書の文字を写し終えると、突然、その小さな書がわたしの手から奪い去られた。しかし、だれが取ったのかは見なかった。

2:2:1 それから十五日の後、断食して主にしきりに尋ね求めると、書かれたことの意味が、わたしに明かされた。そこには、次のことが書かれていた。2:2:2 『ヘルマスよ、あなたの子孫は、神を捨て、主を冒涜し、大きな悪をもって自分の親を裏切った。そして、親を裏切る者と呼ばれた。しかし、裏切っても、それで益を得ることはなかった。かえって、自分の罪に、さらに好色と、入り乱れた悪とを加えた。こうして、彼らの不法は満ちた。2:2:3 けれども、これらの言葉を、あなたの子供たち皆と、これから姉妹となるあなたの妻とに知らせよ。彼女もまた、舌を慎まず、その舌で悪を行っているからである。しかし、これらの言葉を聞けば、彼女は舌を慎み、あわれみを受けるであろう。2:2:4 主は、これらの言葉をあなたに啓示するよう、わたしにお命じになった。あなたがこれらの言葉を彼らに知らせた後、そのとき、彼らが以前に犯した罪は、すべて赦される。この日までに罪を犯したすべての聖徒たちの罪も、赦される。ただし、彼らが心を尽くして悔い改め、自分の心から二心を取り除くならばである。2:2:5 主は、ご自分の選ばれた者たちについて、ご自分の栄光にかけてお誓いになったからである。この日が定められた今、なお罪を犯すことがあれば、彼らに救いはない、と。正しい者たちにとって、悔い改めには終わりがあるのである。すべての聖徒たちにとって、悔い改めの日々は満ちた。しかし、異邦人には、終わりの日まで悔い改めがある。2:2:6 だから、教会の指導者たちに言え。義のうちに自分の道をまっすぐにせよ、と。それは、彼らが大いなる栄光をもって、約束のものを余すところなく受けるためである。2:2:7 だから、義を行う者たちよ、堅く立ち続けよ。思い迷ってはならない。それは、あなたがたの行く道が、聖なる御使いたちと共にあるためである。来るべき大きな患難を耐え忍び、自分のいのちを否まないあなたがたは、幸いである。2:2:8 主は、ご自分の御子にかけてお誓いになったからである。自分たちのキリストを否んだ者たちは、自分のいのちから退けられている、と。今、来るべき日々に否もうとしている者たちのことである。しかし、以前に否んだ者たちを、主は、豊かなあわれみのゆえに、あわれんでくださった。

2:3:1 しかし、ヘルマスよ、あなたは、もう子供たちに恨みを抱いてはならない。あなたの姉妹を放っておいてもならない。それは、彼らが以前の罪から清められるためである。あなたが彼らに恨みを抱かなければ、彼らは正しい懲らしめを受けるからである。恨みは死をもたらす。ヘルマスよ、あなたは、家の者たちの背きのゆえに、自分の身に大きな患難をいくつも受けた。あなたが彼らのことを心にかけなかったからである。かえって、あなたはなおざりにし、自分の悪い仕事にまみれていた。2:3:2 しかし、あなたが生ける神から離れなかったこと、あなたの素直さ、大きな自制が、あなたを救う。あなたが堅く立ち続けるなら、これらがあなたを救ったのである。また、これらは、このようなことを行い、無垢

と素直さのうちに歩むすべての者を救う。この人々は、あらゆる悪に打ち勝ち、永遠のいのちに至るまで、とどまり続ける。2:3:3 義を行う者たちは、みな幸いである。彼らはとこしえに滅びることがない。2:3:4 マクシモスには、こう言え。「見よ、患難が来る。よいと思うなら、もう一度否むがよい。主は、立ち帰る者たちに近い。荒野で民に預言したエルダデとメダデの書に、そう書いてあるとおりである」』

2:4:1 兄弟たちよ、わたしが眠っていると、たいへん姿の美しい若者によって、わたしに啓示があった。彼はわたしに言った。「あなたが小さな書を受け取ったあの年老いた婦人を、だれだと思いますか」わたしは言った。「シビュラです」彼は言った。「あなたは思い違いをしています。彼女はそうではありません」わたしは言った。「では、どなたなのですか」彼は言った。「教会です」わたしは彼に言った。「では、なぜ年老いておられるのですか」彼は言った。「すべてのものより先に造られたからです。だから年老いているのです。そして、彼女のゆえに、世界は整えられたのです」2:4:2 その後、わたしは自分の家で幻を見た。あの年老いた婦人が来て、その書物をもう長老たちに渡したかと、わたしに尋ねた。わたしは、まだ渡していないと答えた。彼女は言った。「それでよかったのです。わたしには、付け加える言葉があるからです。ですから、わたしがすべての言葉を仕上げたら、それは、あなたによって、選ばれたすべての者たちに知らされます。2:4:3 それで、あなたは小さな書を二つ書き、一つをクレメンスに、一つをグラプテに送りなさい。そうすれば、クレメンスがそれを外の町々に送ります。それが彼に任されているからです。また、グラプテはやもめたちと孤児たちを諭します。そしてあなたは、教会を治める長老たちと共に、この町の人々にそれを読み聞かせなさい」

第三の幻　1〜3章　左の席と、水の上に建てられる塔

3:0:0 第三の幻

3:1:1 兄弟たちよ、わたしが見た幻は、次のようなものだった。3:1:2 わたしはたびたび断食して、主に願い求めた。あの年老いた婦人によって見せると約束してくださった啓示を、わたしに明らかにしてくださるように、と。すると、まさにその夜、年老いた婦人がわたしに現れて言った。「あなたはそれほどまでに求めてやまず、すべてを知ろうと熱心なのですから、あなたが麦を作っている畑へ行きなさい。午前十一時ごろ、わたしはあなたに現れて、あなたが見なければならないものを見せましょう」3:1:3 わたしは彼女に尋ねた。「奥さま、畑のどの場所へですか」彼女は言った。「あなたの望むところへ」わたしは、人里から離れた、よい場所を選んだ。しかし、わたしが彼女に話してその場所を告げる前に、彼女はわたしに言った。「あなたの望むところへ、わたしは行きます」3:1:4 兄弟たちよ、そこで、わたしは畑へ行き、時間を数えて、彼女に来てもらうよう決めておいた場所に行った。すると、象牙の長椅子が置いてあるのが見えた。長椅子の上には亜麻布の枕が置かれ、その上に、上等な亜麻の布が広げてあった。3:1:5 これらのものが置いてあり、その場所にだれもいないのを見て、わたしは非常に驚いた。震えのようなものがわたしを捕らえ、髪の毛が逆立った。一人きりだったので、身の毛のよだつ恐れのようなものが襲ってきた。そこで、わたしは我に返り、神の栄光を思い起こして勇気を出し、ひざまずいて、以前のように再び主に自分の罪を告白していた。3:1:6 すると、彼女は、以前にも見たことのある六人の若者と共に来た。そして、わたしのそばに立ち、わたしが祈って、主に自分の罪を告白するのを聞いていた。それから、わたしに触れて言った。「ヘルマス、いつも自分の罪のことばかり求めるのは、やめなさい。義についても求めなさい。それは、あなたが義の分け前をいくらかでも受けて、自分の家に持ち帰るためです」3:1:7 彼女はわたしの手を取って起こし、長椅子のところへ連れて行き、若者たちに言った。「行って、建てなさい」3:1:8 若者たちが立ち去った後、わたしたちふたりだけになると、彼女はわたしに言った。「ここに座りなさい」わたしは彼女に言った。「奥さま、年長の方々を先に座らせてください」彼女は言った。「わたしの言うとおり、座りなさい」3:1:9 それで、わたしが右側に座ろうとすると、彼女はそれを許さなかった。かえって、左側に座るよう、手で合図した。そこで、わたしが、右側に座るのを許されなかったことを思い巡らして悲しんでいると、彼女はわたしに言った。「ヘルマス、悲しいのですか。右側の場所は、ほかの人々のものです。すでに神に喜ばれ、御名のために苦しみを受けた人々のものです。あなたが彼らと共に座るには、まだ足りないところが多くあります。けれども、今あなたが素直さにとどまっているように、とどまりなさい。そうすれば、あなたは彼らと共に座ります。彼らの行いを行い、彼らが耐え忍んだことを耐え忍ぶ者も、だれでもそうなります」

3:2:1 わたしは言った。「彼らは何を耐え忍んだのですか」彼女は言った。「聞きなさい。御名のために、むち打ち、牢獄、数々の大きな患難、十字架、獣を耐え忍んだのです。そのため、聖所の右側は彼らのものです。御名のゆえに苦しむ者はだれでも、そうです。残りの人々のものは、左側です。けれども、右に座る者たちにも、左に座る者たちにも、両方に同じ賜物と同じ約束があります。ただ、彼らは右に座り、いくらかの栄光を持っているのです。3:2:2 あなたは、彼らと共に右に座ることをしきりに望んでいます。けれども、あなたの足りないところは多いのです。しかし、あなたは、自分の足りないところから清められます。思い迷わない者もみな、この日までのすべての罪から清められます」3:2:3 こう言うと、彼女は立ち去ろうとした。しかし、わたしは彼女の足もとにひれ伏し、約束した幻をわたしに見せてくれるよう、主にかけて彼女に願った。3:2:4 彼女は再びわたしの手を取って起こし、長椅子の左に座らせた。彼女自身は右に座った。そして、輝く杖を掲げて、わたしに言った。「大いなるものが見えますか」わたしは彼女に言った。「奥さま、何も見えません」彼女はわたしに言った。「ごらんな

さい。あなたの向かいで、水の上に、輝く四角い石で大きな塔が建てられているのが、あなたには見えないのですか」3:2:5 塔は、彼女と共に来た六人の若者によって、四角に建てられていた。また、ほかの幾万もの男たちが石を運んで来ていた。ある者は深みから、ある者は地から運び、六人の若者に手渡していた。若者たちはそれを受け取って、建てていた。3:2:6 若者たちは、深みから引き上げられた石を、みなそのまま建物に積んだ。実際、それらの石は形が整えられていて、継ぎ目がほかの石とよく合っていた。また、互いにぴったりと付いていたので、継ぎ目が見えなかった。そして、塔の建物は、一つの石で建てられたもののように見えた。3:2:7 しかし、陸から運ばれたほかの石については、あるものを捨て、あるものを建物に積んだ。また、ほかのものは砕いて、塔から遠くへ投げた。3:2:8 また、ほかの多くの石が塔の周りに置かれていたが、彼らはそれを建物に使わなかった。実際、そのうちのあるものは、表面が荒れていた。ほかのものはひびが入り、ほかのものは欠けていた。ほかのものは白くて丸く、建物に合わなかった。3:2:9 また、ほかの石が塔から遠くへ投げられ、道に来ても道にとどまらず、かえって道から道のないところへ転がって行くのが見えた。また、ほかの石が火の中に落ちて燃えるのが見えた。また、ほかの石が水の近くに落ち、水の中へ転がって入ろうとしているのに、転がって行けずにいるのが見えた。

3:3:1 これらのものをわたしに見せると、彼女は急いで去ろうとした。わたしは彼女に言った。「奥さま、これらのものを見ても、何なのか分からないのでは、わたしに何の益があるでしょうか」彼女はわたしに答えて言った。「塔のことを知りたいとは、あなたは抜け目のない人です」わたしは言った。「はい、奥さま。兄弟たちに告げ知らせ、彼らがいっそう晴れやかになり、これらのことを聞いて、大いなる栄光のうちに主を知るためです」3:3:2 彼女は言った。「多くの者が聞くでしょう。聞いて、そのうちのある者は喜び、ある者は泣くでしょう。けれども、この人々も、聞いて悔い改めるなら、喜ぶでしょう。だから、塔のたとえを聞きなさい。あなたにすべてを啓示するからです。そして、もう啓示のことでわたしを煩わせてはなりません。これらの啓示には終わりがあるのです。すでに満ちているからです。けれども、あなたは啓示を求めるのをやめないでしょう。あなたは厚かましいからです。3:3:3 あなたが建てられているのを見ている塔は、わたし、すなわち、今も以前もあなたに現れた教会なのです。だから、塔について、何でも望むことを尋ねなさい。わたしはあなたに啓示します。それは、あなたが聖徒たちと共に喜ぶためです」3:3:4 わたしは彼女に言った。「奥さま、すべてを啓示するのにふさわしい者と、一度みなしてくださったのですから、啓示してください」彼女はわたしに言った。「あなたに啓示されてよいことは、何でも啓示されます。ただ、あなたの心を神に向けておきなさい。何を見ても、思い迷ってはなりません」3:3:5 わたしは彼女に尋ねた。「奥さま、なぜ塔は水の上に建てられているのですか」彼女は言った。「以前にも、あなたに言いました。あなたは熱心に探り求めています。だから、探り求めて、真理を見いだすのです。では、なぜ塔が水の上に建てられているのか、聞きなさい。あなたがたのいのちが、水によって救われ、これからも救われるからです。塔は、全能で栄光ある御名のことばによって据えられ、主の見えない力によって保たれているのです」

第三の幻　4〜6章　塔の石の説き明かし

3:4:1 わたしは彼女に答えて言った。「奥さま、このことは大いなる、驚くべきことです。では、建てている六人の若者は、だれなのですか、奥さま」彼女は言った。「彼らは、最初に造られた、神の聖なる御使いたちです。主は、ご自分の造られたものをすべて彼らにお委ねになりました。それを増やし、建て、造られたものすべてを治めるためです。だから、塔の建物は彼らによって完成するのです」 3:4:2 わたしは言った。「では、石を運んで来ているほかの人々は、だれなのですか」彼女は言った。「彼らも神の聖なる御使いたちです。けれども、この六人は彼らにまさる者たちです。だから、塔の建物はすっかり完成します。そして、みな共に塔の周りで喜び祝い、神をあがめるでしょう。塔の建物が完成したからです」 3:4:3 わたしは彼女に尋ねて言った。「奥さま、わたしは、石の行く末と、その力がどのようなものかを知りたいのです」彼女はわたしに答えて言った。「あなたがだれよりもふさわしいから、あなたに啓示されるというのではありません。あなたより先の人々、あなたよりすぐれた人々がほかにいて、これらの幻は彼らに啓示されるべきだったからです。そうではなく、神の御名があがめられるために、あなたに啓示されたのであり、これからも啓示されるのです。これらのことが本当にあるのかないのかと、心の中で思い巡らしている二心の者たちのゆえです。彼らに言いなさい。これらはみな真実で、何一つ真理の外にあるものはなく、かえって、すべては強く、確かで、据えられている、と。

3:5:1 今、建物に入る石について聞きなさい。では、四角で白く、継ぎ目がよく合っている石は、使徒、監督、教師、執事たちです。彼らは神の品位にしたがって歩み、神の選ばれた者たちのために、清く、品位をもって監督し、教え、仕えました。ある者はすでに眠り、ある者はまだ生きています。彼らはいつも互いに心を合わせ、自分たちのあいだに平和を保ち、互いの言うことに耳を傾けました。そのため、塔の建物の中で、彼らの継ぎ目はよく合っているのです」 3:5:2 わたしは言った。「では、深みから引き上げられて建物に積まれる石は、どういう人々なのですか。それらは、すでに建てられたほかの石と継ぎ目がよく合っています」彼女は言った。「主の御名のために苦しみを受けた人々です」 3:5:3 わたしは言った。「陸から運ばれたほかの石は、どういう人々なのか、知りたいのです、奥さま」彼女は言った。「切り整えられずに建物に入る石は、主が試して、よしとなさった人々です。彼らが主の正しさのうちを歩み、主の戒めを全うしたからです」 3:5:4 わたしは言った。「では、運ばれて来て建物に積まれる石は、どういう人々なのですか」彼女は言った。「信仰に入って間もない、忠実な人々です。ただ、善を行うよう、御使いたちに諭されています。彼らのうちに悪が見いだされた[1]からです」 3:5:5 わたしは言った。「では、彼らが捨てたり投げたりしていた石は、どういう人々なのですか」彼女は言った。「罪を犯したが、悔い改めようと望んでいる人々です。そのため、塔の外へ遠くには投げ捨てられなかったのです。悔い改めるなら、建物の役に立つからです。だから、これから悔い改める者たちは、悔い改めるなら、信仰において強くなります。塔が建てられている今のうちに悔い改めるなら、そうなるのです。しかし、建物が完成してしまえば、彼らにはもう場所がありません。かえって、追い出された者となります。彼らにあるのは、ただ、塔のそばに置かれていることだけです。

3:6:1 砕かれて、塔から遠くへ投げられる石のことを知りたいのですか。彼らは不法の子らです。偽って信じ、どの悪も彼らから離れなかったのです。そのため、彼らには救いがありません。その悪のゆえに、建物の役に立たないからです。そのため、主の怒りのゆえに、打ち砕かれて、遠くへ投げ捨てられたのです。主を怒らせたからです。 3:6:2 また、あなたは、建物に入らずに多く置かれているほかの石を見ました。そのうち、表面が荒れている石は、真理を知りながら、そこに居続けていない人々です」 3:6:3 わたしは言った。「では、ひびの入った石は、どういう人々なのですか」彼女は言った。「心の中で互いに恨みを抱き、自分たちのあいだで平和でない人々です。かえって、うわべは平和な顔をし

ていますが、互いに離れると、その悪は心の中に残り続けるのです。だから、これが、石にあるひびなのです。3:6:4 また、欠けている石は、信じてはいて、大部分は義のうちにありますが、不法の部分もいくらか持っている人々です。そのため、欠けていて、完全ではないのです」3:6:5 わたしは言った。「では、白くて丸く、建物に合わない石は、どういう人々なのですか、奥さま」彼女はわたしに答えて言った。「いつまで、あなたは愚かで悟りがなく、何でも尋ねるのに、何も分からないのですか。彼らは信仰を持ってはいますが、この世の富も持っている人々です。患難が起こると、自分の富と商売のゆえに、自分たちの主を否むのです」3:6:6 わたしは彼女に答えて言った。「奥さま、では、彼らはいつ建物の役に立つようになるのですか」彼女は言った。「彼らの心を引きつけている富が削り取られるとき、そのとき、彼らは神の役に立つ者となります。丸い石は、削り取られて、自分から何かを捨てなければ、四角になることができません。それと同じように、この世で富んでいる者たちも、その富が削り取られなければ、主の役に立つ者となることができないからです。3:6:7 まず、あなた自身のことから知りなさい。あなたは富んでいたとき、役に立たない者でした。けれども、今は役に立つ者であり、いのちに益のある者です。あなたがたは、神の役に立つ者となりなさい。あなた自身も、同じ石の中から用いられているからです」

訳注

1 別の写本や古い訳には『悪が見いだされなかった』とある。

第三の幻　7〜9章　残りの石と七人の女、子供たちへの勧め

3:7:1「また、あなたは、ほかの石が塔から遠くへ投げられ、道に落ち、道から道のないところへ転がって行くのを見ました。彼らは、信じてはいますが、二心のゆえに、自分の真の道を見捨てる人々です。だから、もっとよい道を見つけることができると思って、道のないところを歩いて、さまよい、みじめになるのです。3:7:2また、火の中に落ちて燃える石は、生ける神から完全に離れ去った人々です。好色の欲望と、自分の行った悪のゆえに、悔い改めることが、もう心に上らなかったのです。3:7:3水の近くに落ちて、水の中へ転がって入れずにいるほかの石が、どういう人々なのか、知りたいのですか。彼らは、みことばを聞いて、主の御名によってバプテスマを受けたいと望んでいる人々です。ところが、真理の清さが思い起こされると、思い直して、再び自分の悪い欲望に従って行くのです」3:7:4こうして、彼女は塔の説き明かしを終えた。3:7:5わたしは厚かましくも、さらに彼女に尋ねた。捨てられて塔の建物に合わないこれらの石すべてに、悔い改めがありますが、この塔の中に場所があるのか、と。彼女は言った。「彼らには悔い改めがありますが、この塔には合うことができません。3:7:6彼らは、ずっと劣るほかの場所に合うでしょう。それも、苦しめられて、自分の罪の日々を満たし終えたときのことです。また、彼らが移されるのは、義の言葉にあずかったからです。そして、そのとき、彼らは、自分の行った悪い行いのゆえに[1]、苦しみから移されることになります。しかし、彼らの心に上らなければ、心のかたくなさのゆえに、救われません」

3:8:1さて、わたしがこれらのことすべてについて彼女に尋ねるのをやめると、彼女はわたしに言った。「ほかのものを見たいですか」わたしは、ながめることをしきりに望んでいたので、見ることができるのを大いに喜んだ。3:8:2彼女はわたしを見つめて、ほほえみ、わたしに言った。「塔の周りに七人の女が見えますか」わたしは言った。「見えます、奥さま」彼女は言った。「この塔は、主の命令にしたがって、彼女たちに支えられているのです。3:8:3今、彼女たちの働きを聞きなさい。そのうち、手を固く握っている最初の女は、信仰と呼ばれます。この女によって、神の選ばれた者たちは救われるのです。3:8:4もう一人の、帯を締めて雄々しくふるまっている女は、自制と呼ばれます。彼女は信仰の娘です。だから、だれでも彼女に従う者は、生きているうちに幸いな者となります。あらゆる悪い欲望から離れるなら永遠のいのちを受け継ぐ、と信じて、すべての悪い行いから離れるからです」3:8:5わたしは言った。「では、ほかの女たちは、だれなのですか、奥さま」彼女は言った。「彼女たちは、互いの娘です。その名は、素直さ、わきまえ、無垢、品位、愛です。だから、あなたが彼女たちの母の行いをすべて行うとき、あなたは生きることができます」3:8:6わたしは言った。「奥さま、彼女たちのうち、だれがどのような力を持っているのか、知りたいのです」彼女は言った。「彼女たちが持っている力を聞きなさい。3:8:7彼女たちの力は互いに保たれ、彼女たちが生まれた順のとおりに、一つが次の一つに続いています。信仰から自制が生まれ、自制から素直さ、素直さから無垢が生まれます。無垢から品位、品位からわきまえ、わきまえから愛が生まれます。だから、彼女たちの行いは、清く、品位があり、神聖なのです。3:8:8だから、だれでも彼女たちに仕え、その行いを堅く保つことのできる者は、神の聖徒たちと共に、塔の中に住まいを持つでしょう」3:8:9わたしは彼女に、時について、もう終わりの時なのかと尋ねた。すると、彼女は大声で叫んで言った。「悟りのない人よ、塔がまだ建てられている最中なのが見えないのですか。だから、塔が建て終えられると、終わりになるのです。しかし、塔はすぐに建て上げられます。もう何一つ、わたしに尋ねてはなりません。この思い起こさせることと、あなたがたの霊を新たにすることとで、あなたにも聖徒たちにも十分です。3:8:10しかし、これらのことがあなたに啓示されたのは、あなた一人のためではありません。そうではなく、あなたがすべての人にそれを明らかにするためです。3:8:11明らかにするのは、三日の後です。まず、あなたが悟らなければならないからです。ヘルマス、わた

しはまず、これからあなたに話すこれらの言葉を、すべて聖徒たちの耳に語るよう、あなたに命じます。聖徒たちが、それを聞いて行い、自分の悪から清められ、あなたも彼らと共に清められるためです。

3:9:1 子供たちよ、わたしの言うことを聞きなさい。わたしは、大きな素直さと無垢と品位のうちに、あなたがたを育てました。それは、あなたがたの上に義をしたたらせてくださった主の、あわれみのゆえです。あなたがたが、あらゆる悪とあらゆるゆがみから義とされ、きよめられるためです。しかし、あなたがたは、自分の悪をやめようとしません。3:9:2 だから今、わたしの言うことを聞きなさい。自分たちのあいだで平和でありなさい。互いに見舞い、互いに助け合いなさい。神の造られたものに、自分たちだけで、ありあまるほどあずかってはなりません。かえって、乏しい人々にも分け与えなさい。3:9:3 ある人々は、食べ物が多すぎて、自分の肉体に病を招き、その肉体をそこなっているからです。一方、食べ物のない人々は、十分な糧がないために肉体がそこなわれ、からだが衰えていくのです。3:9:4 だから、このように分かち合わないことは、持っていながら乏しい人々に分け与えないあなたがたにとって、害になるのです。3:9:5 やって来る裁きに目を向けなさい。だから、ありあまるほど持っている者たちは、塔がまだ完成しないうちに、飢えている人々を捜し求めなさい。塔が完成した後では、善を行おうと望んでも、もう場所がないからです。3:9:6 だから、自分の富を誇っているあなたがたは、気をつけなさい。乏しい人々がうめき、そのうめきが主のもとに上ることのないようにしなさい。さもないと、あなたがたは、自分の財産と共に、塔の戸の外へ締め出されるでしょう。3:9:7 だから今、教会の指導者たちと、上席に着く者たちよ、あなたがたに言います。まじない師たちのようになってはなりません。つまり、まじない師たちは、自分の薬を箱に入れて持ち運びます。けれども、あなたがたは、自分の薬と毒を心に入れて持ち運んでいるのです。3:9:8 あなたがたはかたくなになっていて、自分の心を清めようとしません。大いなる王からあわれみを受けるために、清い心で思慮を一つに合わせようともしないのです。3:9:9 だから、子供たちよ、気をつけなさい。こうした仲たがいが、あなたがたのいのちを奪うことのないようにしなさい。3:9:10 どうして、あなたがたは、自分では懲らしめを受けていないのに、主の選ばれた者たちを懲らしめようとするのですか。だから、互いに懲らしめ合い、自分たちのあいだで平和でありなさい。わたしも、父の前に晴れやかに立って、あなたがたみなについて、主に申し開きをするためです」

訳注

1 別の写本や古い訳には『その悪い行いが心に上るなら』とある。

第三の幻　10〜13章　老婦人の三つの姿

3:10:1 さて、彼女がわたしと話すのをやめると、建てていた六人の若者が来て、彼女を塔のほうへ連れて行った。ほかの四人は長椅子を担ぎ、それも塔のほうへ運んで行った。この四人の顔は見えなかった。背を向けていたからだ。3:10:2 彼女が去って行くとき、わたしは、彼女がわたしに現れた三つの姿について啓示してくれるよう、彼女に願った。彼女はわたしに答えて言った。「これらのことについては、あなたに啓示されるよう、ほかの者に尋ねなければなりません」3:10:3 兄弟たちよ、去年の第一の幻では、彼女はひどく年老いて、椅子に座った姿で、わたしに現れた。3:10:4 次の幻では、顔つきは若くなっていたが、肉体と髪は年老いていた。そして、立ったまま、わたしに話した。また、前よりも晴れやかだった。3:10:5 第三の幻では、全身が若く、このうえなく美しかった。ただ髪だけが年老いていた。また、完全に晴れやかで、長椅子に座っていた。3:10:6 わたしは、この啓示を知りたいと思って、これらのことでひどく悲しんでいた。すると、夜の幻の中で、あの年老いた婦人がわたしに話しかけるのが見えた。「どんな問いにも、へりくだりが要ります。だから、断食しなさい。そうすれば、求めるものを主から受けるでしょう」3:10:7 そこで、わたしは一日断食した。すると、まさにその夜、一人の若者がわたしに現れて言った。「なぜ、あなたは、願いをささげて、ひっきりなしに啓示を求めるのですか。気をつけなさい。多くを求めて、自分の肉体をそこなうことのないようにしなさい。3:10:8 これらの啓示で、あなたには十分です。あなたがこれまで見たものより力ある啓示を、見ることなどできるのですか」3:10:9 わたしは彼に答えて言った。「主よ、わたしが求めているのは、このことだけです。年老いた婦人の三つの姿について、完全な啓示が与えられることです」彼はわたしに答えて言った。「いつまで、あなたがたは悟りがないのですか。しかし、あなたがたを悟りのない者にしているのは、あなたがたの二心です。また、自分の心を主に向けていないことです」3:10:10 わたしは再び彼に答えて言った。「しかし、主よ、わたしたちは、あなたから、それをもっと詳しく知るでしょう」

3:11:1 彼は言った。「あなたが尋ね求めている姿について、聞きなさい。3:11:2 第一の幻で、なぜ、彼女は年老いて、椅子に座って、あなたに現れたのでしょうか。あなたがたの霊が年老いて、すでにしおれ、あなたがたの弱気と二心のために力がないからです。3:11:3 年老いた人たちは、もう若返る望みがないので、自分が眠りにつくことのほかには、何も待ち望みません。それと同じように、あなたがたも日々の暮らしで弱気になって無気力に身を任せ、自分の思いわずらいを主にゆだねなかったのです。かえって、あなたがたの心はくじけ、悲しみのために老け込んでしまいました」3:11:4 わたしは言った。「では、主よ、彼女がなぜ椅子に座っておられたのか、知りたいのです」彼は言った。「弱った人はみな、自分の弱さのゆえに椅子に腰を下ろして、からだの弱さを支えてもらおうとするからです。これで、あなたは第一の幻のひな型を得ました」

3:12:1 彼は言った。「第二の幻では、あなたは、彼女が立っていて、顔つきは若く、前よりも晴れやかで、肉体と髪は年老いているのを見ました。このたとえも聞きなさい。3:12:2 ある年老いた人が、自分の弱さと貧しさのゆえに、もう自分に見切りをつけていて、人生の最後の日のほかには何も待っていません。そのようなときに、突然、その人に遺産が残されたとします。それを聞くと、彼は起き上がり、大喜びして、強さを身にまといます。そして、もう横たわってはおらず、立っています。以前の行いのためにすでに朽ちていたその人の霊が、若返ります。もう座ってはおらず、雄々しくふるまいます。それと同じように、あなたがたも、主があなたがたに啓示してくださった啓示を聞いて、そうなったのです。3:12:3 主があなたがたを深くあわれんでくださったからです。主は、あなたがたの霊を若返らせてくださいました。あなたがたは自分の弱気を脱ぎ捨て、力強さがあなたがたに加わり、あなたがたは信仰のうちに力づけられました。主

は、あなたがたが強くなったのを見て、お喜びになりました。そのため、主は、塔の建物をあなたがたに明らかにしてくださったのです。また、あなたがたが心を尽くして、自分たちのあいだで平和であるなら、ほかのことも明らかにしてくださるでしょう。

3:13:1 第三の幻では、あなたは、彼女が若く、美しく、晴れやかで、その姿が美しいのを見ました。3:13:2 悲しんでいる人に、何か良い知らせが届くと、その人はすぐに以前の悲しみを忘れ、聞いた知らせのほかには何も受け入れません。そして、それからは善に向かって強くされ、受けた喜びのゆえに、その霊は若返ります。あなたがたも、それと同じように、これらの良いものを見て、自分の霊の若返りを受けたからです。3:13:3 また、あなたは、彼女が長椅子に座っているのを見ました。その据わりは堅固です。長椅子には脚が四本あり、しっかりと立っているからです。世界もまた、四つの元素によって保たれているのです。3:13:4 だから、悔い改めた者たちは、完全に若くなり、堅く据えられるでしょう。心を尽くして悔い改めた者たちのことです。あなたは完全な啓示を受け取りました。もう何一つ、啓示について求めてはなりません。しかし、何か必要があれば、あなたに啓示されるでしょう」

第四の幻　獣と、やって来る患難のひな型

4:0:0 第四の幻

4:1:1 兄弟たちよ、わたしが見た幻は、前の幻があってから二十日の後のもので、やって来る患難のひな型となるものだった。4:1:2 わたしは、カンパナ街道を通って、畑へ向かっていた。そこは公道から二キロメートルほどのところにあるが、その場所へはたやすく行ける。4:1:3 そこで、わたしは一人で歩きながら、主に願った。主は、ご自分の聖なる教会によって、啓示と幻とをわたしに示してくださった。それを成し遂げ、わたしを強め、つまずいたご自分のしもべたちに悔い改めをお与えくださるよう、願ったのである。こうして、主の大いなる栄光ある御名があがめられることを願った。主が、ご自分の驚くべきわざをわたしに示すにふさわしい者と、わたしをみなしてくださったからだ。4:1:4 わたしが主をあがめ、主に感謝していると、声の響きのようなものが、わたしに答えた。「思い迷ってはならない、ヘルマス」わたしは心の中で思い巡らして、こう言い始めた。「主によってこれほど堅く据えられ、栄光ある事柄を見たわたしが、何を思い迷うことがあろうか」4:1:5 兄弟たちよ、わたしが少し先へ進むと、見よ、天にまで届くような砂ぼこりが見えた。わたしは心の中で言い始めた。「家畜の群れが来て、砂ぼこりを上げているのだろうか」それは、わたしから二百メートルほどのところにあった。4:1:6 砂ぼこりがますます大きくなるので、わたしは、何か神から来たものではないかと思った。日が少し照ると、見よ、海の怪物のような、とても大きな獣が見えた。その口からは、火のいなごが出ていた。その獣は、長さが三十メートルほどで、頭は陶器のようだった。4:1:7 わたしは泣きだし、その獣から贖い出してくださるよう、主に願い始めた。そして、聞いていた言葉を思い出した。「思い迷ってはならない、ヘルマス」4:1:8 だから、兄弟たちよ、わたしは主への信仰を身にまとった。そして、主が教えてくださった大いなるわざを思い起こし、勇気を出して、獣に向かって身を進めた。獣は、町一つを荒らすことができるほどの勢いでやって来た。4:1:9 わたしがその近くまで行くと、あれほど大きな海の怪物が、地に身を伸ばした。そして、舌のほかは何も出さず、わたしが通り過ぎるまで、まったく動かなかった。4:1:10 その獣は、頭に四つの色を持っていた。黒、次に火と血のような色、次に金色、次に白だった。

4:2:1 わたしが獣を通り過ぎて、九メートルほど進んだ後、見よ、一人のおとめがわたしを迎えに来た。婚礼の部屋から出て来る者のように飾り、全身を白い衣に包んで、白い履物をはいていた。額まで覆いをかぶっていたが、その覆いは頭巾だった。また、髪は白かった。4:2:2 わたしは、これまでの幻から、それが教会だと分かり、前よりも晴れやかになった。彼女はわたしにあいさつして言った。「人よ、ごきげんよう」わたしも彼女にあいさつを返した。「奥さま、ごきげんよう」4:2:3 彼女はわたしに答えて言った。「何にも出会わなかったのですか」わたしは彼女に言った。「奥さま、もろもろの民を滅ぼすことのできる、あれほど大きな獣に出会いました。しかし、主の力と、その豊かなあわれみによって、それをのがれました」4:2:4 彼女は言った。「よくのがれました。あなたが自分の思いわずらいを神にゆだね、心を主に開いたからです。大いなる栄光ある御名によらなければ、ほかの何によっても救われることはできない、と信じたのです。そのため、主は、獣たちの上に立つご自分の御使いをおつかわしになりました。そして、獣の口を閉ざして、あなたを害することのないようにしてくださったのです。その御使いの名はテグリです。あなたは、自分の信仰のゆえに、また、あれほど大きな獣を見ても思い迷わなかったゆえに、大きな患難をのがれたのです。4:2:5 だから、行って、主の選ばれた者たちに、主の大いなるわざを語り聞かせなさい。そして、この獣は、これから起こる大きな患難のひな型である、と彼らに言いなさい。だから、あなたがたが前もって備え、心を尽くして主に悔い改めるなら、それをのがれることができるでしょう。ただし、あなたがたの心が清く、傷のないものとなり、生涯の残りの日々を、責められるところなく主に仕えるならばのことです。思いわずらいを主にゆだねなさい。そうすれば、主がそれを正

しく整えてくださいます。4:2:6 二心の者たちよ、主を信じなさい。主はすべてのことがおできになり、ご自分の怒りをあなたがたから転じることも、二心のあなたがたにむちを送ることもなさる、と。これらの言葉を聞いて、聞き流す者たちはわざわいです。彼らは、生まれなかったほうがよかったのです」

4:3:1 わたしは、獣が頭に持っていた四つの色について、彼女に尋ねた。彼女はわたしに答えて言った。「あなたはまた、このようなことを詮索しています」わたしは言った。「はい、奥さま。それが何なのか、わたしに知らせてください」4:3:2 彼女は言った。「聞きなさい。黒は、あなたがたが住んでいるこの世です。4:3:3 火と血のような色は、この世が血と火によって滅びなければならないことです。4:3:4 金色の部分は、この世をのがれたあなたがたです。金は火によって試され、役に立つものとなります。それと同じように、火と血のただ中に住むあなたがたも、試されているのです。だから、とどまって、それらによって火で精錬されたあなたがたは、清められます。金は自分のかすを捨てます。それと同じように、あなたがたも、すべての悲しみと苦悩を捨てて、清められ、塔の建物に用いられる者となるでしょう。4:3:5 白い部分は、やって来る世です。そこに、神の選ばれた者たちが住みます。神によって永遠のいのちに選ばれた者たちは、しみのない、清い者となるからです。4:3:6 だから、あなたは、聖徒たちの耳に語ることをやめてはなりません。あなたがたは、来るべき大きな患難のひな型も得ました。しかし、あなたがたが望むなら、それは何事でもなくなるでしょう。前に書かれたことを思い起こしなさい」4:3:7 こう言うと、彼女は去って行った。わたしには、彼女がどこへ去ったのか見えなかった。実際、雲が起こったのだ[1]。わたしは、獣が来るのだと思い、恐れて後ろを振り返った。

訳注

1 『物音がした』と読む写本や古い訳もある。

第五の啓示、第一～第三の戒め　牧者の訪れと、信仰、素直さ、真実

5:0:0 第五の啓示

5:1:1 わたしが家で祈り、寝台に腰を下ろしていると、見るからに栄光ある一人の人が入って来た。牧者の身なりをして、白い山羊の皮をまとい、肩には袋を掛け、手には杖を持っていた。彼はわたしにあいさつし、わたしも彼にあいさつを返した。5:1:2 すると、彼はすぐにわたしのそばに座って、わたしに言った。「わたしは、最も尊い御使いからつかわされました。あなたの生涯の残りの日々を、あなたと共に住むためです」 5:1:3 わたしは、彼がわたしを試みるために来ているのだと思って、彼に言った。「いったい、あなたはどなたですか。わたしは、自分がだれにゆだねられたのかを知っているのです」彼はわたしに言った。「わたしが分からないのですか」わたしは言った。「分かりません」彼は言った。「わたしが、あなたがゆだねられた、その牧者です」 5:1:4 彼がまだ話しているうちに、その姿が変わった。そして、わたしは、彼こそ自分がゆだねられたその人だと分かった。わたしはすぐにうろたえ、恐れに襲われ、悲しみのあまり、すっかり打ち砕かれた。彼に、あれほど悪く、愚かな答え方をしてしまったからだ。 5:1:5 彼はわたしに答えて言った。「うろたえてはなりません。かえって、わたしがこれからあなたに命じる戒めのうちに、強くなりなさい。わたしは、あなたが前に見たことをすべて、もう一度あなたに示すために、つかわされたのです。あなたがたの益となる要点そのものを示すのです。何よりもまず、わたしの戒めとたとえを書きなさい。ほかのことは、わたしが示すとおりに書きなさい。わたしがまず戒めとたとえを書くよう命じるのは、あなたがそれを手もとに置いて読み、守ることができるようにするためです」 5:1:6 そこで、わたしは、彼が命じたとおりに、戒めとたとえを書いた。 5:1:7 だから、これを聞いて守り、そのうちを歩み、清い心で行うなら、主が約束してくださったものを、すべて主から受けるだろう。しかし、あなたがたが聞いても悔い改めず、かえって自分の罪をさらに重ねるなら、主からその反対のものを受けるだろう。牧者、すなわち悔い改めの御使いが、これらすべてをこのように書くよう、わたしに命じたのである。

6:0:0 第一の戒め

6:1:1 「何よりもまず、神はただひとりであると信じなさい。神は、万物を造って整え、無いものから有るものへと万物を造り出された方です。また、すべてのものを包んでおられ、ご自分だけは何ものの内にも収まらない方です。 6:1:2 だから、神を信じ、神を恐れなさい。そして、神を恐れて、自制しなさい。これらのことを守りなさい。そうすれば、あなたはあらゆる悪を自分から捨て、義のあらゆる徳を身にまとい、神に生きるでしょう。ただし、この戒めを守るならばのことです」

7:0:0 第二の戒め

7:1:1 彼はわたしに言った。「素直さを持ち、無垢な者でありなさい。そうすれば、あなたは、人のいのちを滅ぼす悪を知らない幼子たちのようになるでしょう。 7:1:2 まず、だれの悪口も言ってはなりません。悪口を言う者の話を、喜んで聞いてもなりません。さもないと、聞いているあなたも、悪口を言う者の罪に問われます。聞いた悪口を信じるなら、そうなるのです。信じれば、あなた自身も、兄弟に対して責める思いを持つことになるからです。だから、こうして、あなたは悪口を言う者の罪に問われるのです。 7:1:3 悪口は悪いものです。それは落ち着きのない悪霊で、決して平和でなく、かえっていつも仲たがいの中に住んでいます。だから、それから離れなさい。そうすれば、あなたはいつも、すべての人と共に豊かに暮らすでしょう。 7:1:4 また、品位を身にまといなさい。そこには、悪いつまずきは何もなく、かえってすべてが平らかで、晴れやかです。善を行いなさい。そして、神があなたに与えてくださる、あなたの労苦の実から、乏しいすべての人に、素直な心で与えなさい。だれに与え、だれに与えないかと、ためらわずに与えるのです。すべての人に与えなさい。神は、ご自分の賜物がす

べての人に分け与えられることを望んでおられるからです。7:1:5 だから、受ける者たちは、なぜ受けたのか、何のために受けたのかについて、神に申し開きをすることになります。苦しみの中にあって受ける者は、裁かれないのです。しかし、偽善をもって受ける者は、罰を受けます。7:1:6 だから、与える者には、とがめがありません。主から果たすべき奉仕を受けたとおりに、だれに与え、だれに与えないかを少しも選り分けず、素直な心でそれを果たしたからです。こうして、この奉仕は、素直な心で果たされて、神のもとで栄光あるものとなりました。だから、このように素直な心で仕える者は、神に生きるでしょう。7:1:7 だから、わたしがあなたに語ったとおりに、この戒めを守りなさい。あなたとあなたの家の悔い改めが素直さのうちに見いだされ、無垢も清く汚れのないものと見いだされるためです」

8:0:0 第三の戒め

8:1:1 彼はまたわたしに言った。「真実を愛しなさい。あなたの口から出るものは、すべて真実であるようにしなさい。神がこの肉体に住まわせてくださった霊が、すべての人の前で真実なものと見いだされるためです。こうして、あなたのうちに住んでおられる主は、栄光をお受けになるでしょう。主はどのことばにおいても真実であり、主のもとには偽りが何もないからです。8:1:2 だから、偽る者たちは、主をないがしろにし、主のものを奪う者となります。受けた預かり物を、主にお返ししないからです。彼らは、偽りのない霊を主から受けたのです。それを偽りの霊として返すなら、彼らは主の戒めを汚し、奪う者となったのです」8:1:3 そこで、これを聞いて、わたしはひどく泣いた。彼は、わたしが泣いているのを見て言った。「なぜ泣くのですか」わたしは言った。「主よ、自分が救われることができるのか、分からないからです」彼は言った。「なぜですか」わたしは言った。「主よ、わたしは生涯で、まだ一度も真実な言葉を語ったことがないのです。かえって、いつもすべての人とずる賢く語り、自分の偽りを、すべての人の前で真実なものと見せかけてきました。そして、だれ一人わたしに言い返した者はなく、かえってわたしの言葉は信じられてきました。主よ、それなら、こんなことをしてきたわたしが、どうして生きることができるでしょうか」8:1:4 彼は言った。「あなたの考えは正しく、まことにそのとおりです。あなたは、神のしもべとして、真実のうちを歩むべきだったのです。また、悪い良心が真実の霊と共に住んではならず、尊く真実な霊を悲しませてもならなかったのです」わたしは言った。「主よ、このような言葉を、これまではっきりと聞いたことは一度もありませんでした」8:1:5 彼は言った。「では、今あなたは聞いているのですから、これを守りなさい。あなたが以前、商いで語った偽りも、これらのことが真実なものと見いだされれば、信頼できるものとなるようにするためです。それも、信頼できるものとなりうるのです。これを守り、今から真実だけを語るなら、あなたは自分のためにいのちを得ることができるでしょう。この戒めを聞いて、最も悪い偽りから離れる者は、だれでも神に生きるでしょう」

第四の戒め　清さと悔い改め

9:0:0 第四の戒め

9:1:1 彼は言った。「清さを守るよう、わたしはあなたに命じます。他人の妻のことや、何かの不品行のこと、また、それに似た何か悪いことが、あなたの心に上ってはなりません。そうするなら、あなたは大きな罪を行うことになるからです。しかし、いつも自分の妻を覚えていれば、あなたは決して罪に陥らないでしょう。9:1:2 この考えがあなたの心に上るなら、あなたは罪に陥るからです。また、ほかにもこのような悪いことが上るなら、あなたは罪を行うのです。この考えは、神のしもべにとって大きな罪なのです。しかし、だれかがこの悪い行いを行うなら、その人は自分に死をもたらします。9:1:3 だから、あなたは気をつけなさい。この考えから離れなさい。品位が住むところでは、不法が正しい人の心に上るべきではないからです」9:1:4 わたしは彼に言った。「主よ、少しお尋ねすることを、お許しください」彼は言った。「言いなさい」わたしは言った。「主よ、ある人が、主にあって信者である妻を持っていて、その妻が何かの姦淫をしているのを見つけたとします。その夫は、妻と共に暮らすことで、罪を犯すことになるのでしょうか」9:1:5 彼は言った。「知らないでいるうちは、罪を犯しません。しかし、夫が妻の罪を知り、妻が悔い改めず、かえって自分の不品行に居続けるとします。そのうえで夫が妻と共に暮らすなら、夫は妻の罪に問われ、その姦淫を共にする者となります」9:1:6 わたしは言った。「主よ、では、妻がこの情欲に居続けるなら、夫はどうすればよいのでしょうか」彼は言った。「夫は妻を出し、一人でとどまるべきです。しかし、妻を出して、ほかの女をめとるなら、夫自身も姦淫を行うのです」9:1:7 わたしは言った。「主よ、では、出された後に、その妻が悔い改めて、自分の夫のもとに帰りたいと望むなら、受け入れられないのでしょうか」9:1:8 彼は言った。「それどころか、夫が妻を受け入れないなら、夫は罪を犯し、大きな罪を自分に招きます。かえって、罪を犯して悔い改める者は、受け入れられなければなりません。ただし、何度もではありません。神のしもべたちには、悔い改めはただ一度だからです。だから、この悔い改めのゆえに、夫は結婚するべきではありません。このやり方は、妻にも夫にも当てはまります。9:1:9 自分の肉体を汚すことだけが、姦淫なのではありません。異邦人に似たことを行う者も、だれでも姦淫を行うのです。ですから、このような行いにも堅く立ち続けて、悔い改めない者がいるなら、その人から離れなさい。その人と共に暮らしてはなりません。さもないと、あなたもその人の罪にあずかる者となります。9:1:10 そのため、夫であれ妻であれ、あなたがたは一人でとどまるよう命じられたのです。このような場合には、悔い改めがありうるからです。9:1:11 だから、わたしは、このやり方がこのように行われてよいという口実を与えているのではありません。そうではなく、罪を犯した者が、もう罪を犯さないようにするためです。その人の以前の罪については、いやしを与えることのおできになる方がおられます。その方こそ、すべてのものに対する権威を持っておられるからです」

9:2:1 わたしはまた彼に尋ねて言った。「主は、あなたがいつもわたしと共に住んでくださるのにふさわしい者と、わたしをみなしてくださいました。ですから、もう少しわたしの言葉を忍んで聞いてください。わたしは何も悟らず、わたしの心は以前の行いのために鈍くなっているからです。わたしに悟らせてください。わたしはひどく愚かで、まったく何も分からないからです」9:2:2 彼はわたしに答えて言った。「わたしは悔い改めをつかさどっていて、悔い改めるすべての人に悟りを与えます。それとも、悔い改めることそのものが悟りだと、あなたは思わないのですか。悔い改めることは、大きな悟りなのです。罪を犯した者は、自分が主の前に悪を行ったことを悟るからです。そして、自分のした行いが心に上ると、悔い改めて、もう悪を行わず、かえって善を惜しみなく行います。また、罪を犯したので、自分の魂を低くし、苦しめます。だから、悔い改めが大きな悟りであることが、あなたには分かるでしょう」9:2:3 わたしは言った。「主

よ、だから、そのために、わたしはあなたから、すべてを詳しくお尋ねしているのです。まず、わたしは罪人なので、どんな行いをすれば生きられるのかを知るためです。わたしの罪は多く、さまざまだからです」9:2:4 彼は言った。「わたしの戒めを守り、そのうちを歩むなら、あなたは生きるでしょう。また、だれでもこれらの戒めを聞いて守る者は、神に生きるでしょう」

9:3:1 わたしは言った。「主よ、さらに続けてお尋ねします」彼は言った。「言いなさい」わたしは言った。「主よ、わたしはある教師たちから、こう聞きました。わたしたちが水の中に下り、以前の罪の赦しを受けたときの、あの悔い改めのほかに、悔い改めはない、と」9:3:2 彼はわたしに言った。「あなたは正しく聞きました。そのとおりだからです。罪の赦しを受けた者は、もう罪を犯さず、かえって清さのうちに住まなければならないのです。9:3:3 しかし、あなたはすべてを詳しく尋ねるので、このことも、あなたに明らかにしましょう。それも、これから信じようとする人々や、今、主を信じた人々に、口実を与えずにです。今信じた人々や、これから信じようとする人々には、罪の悔い改めはなく、以前の罪の赦しがあるのです。9:3:4 だから、この日々より前に召された人々のために、主は悔い改めをお定めになったのです。主は心をご存じであり、すべてを前もって知っておられて、人間の弱さと悪魔のたくらみを見抜いておられたからです。それは、悪魔が神のしもべたちに何か悪いことをし、彼らに悪をはたらくということです。9:3:5 だから、主はあわれみに富んでおられて、ご自分がお造りになったものを深くあわれみ、この悔い改めをお定めになりました。そして、この悔い改めの権威は、わたしに与えられたのです。9:3:6 けれども、わたしはあなたに言います。あの大いなる尊い召しの後に、だれかが悪魔に試みられて罪を犯すなら、その人には、ただ一度の悔い改めがあります。しかし、たびたび罪を犯しては悔い改めるなら[1]、そのような人には益がありません。その人は、生きることが難しいからです」9:3:7 わたしは彼に言った。「このことを、これほど詳しくあなたから聞いて、わたしは生き返りました。もうこれ以上、自分の罪を重ねなければ、わたしは救われると分かっているからです」彼は言った。「あなたは救われるでしょう。このことを行う人々も、みな救われるでしょう」

9:4:1 わたしはまた彼に尋ねて言った。「主よ、いったんわたしを忍んでくださっているのですから、さらに、このこともわたしに明らかにしてください」彼は言った。「言いなさい」わたしは言った。「主よ、妻が、あるいはまた夫が眠りについて、残された方が結婚するなら、結婚する者は罪を犯すのでしょうか」9:4:2 彼は言った。「罪を犯しません。しかし、一人でとどまるなら、その人は、主のもとで、自分のためにいっそう大きな誉れと大きな栄光を得ます。とはいえ、結婚しても、罪を犯しません。9:4:3 だから、清さと品位を保ちなさい。そうすれば、あなたは神に生きるでしょう。わたしがあなたに語っていることと、これから語ろうとしていることを、今から守りなさい。あなたがわたしにゆだねられた、この日からです。そうすれば、わたしはあなたの家に住むでしょう。9:4:4 わたしの戒めを守るなら、あなたの以前の過ちには赦しがあるでしょう。また、わたしのこれらの戒めを守り、この清さのうちを歩むなら、すべての人に赦しがあるでしょう」

訳注

1 別の写本には『悔い改めないなら』とある。

第五の戒め　辛抱強さと短気

10:0:0 第五の戒め

10:1:1 彼は言った。「辛抱強く、悟りのある者でありなさい。そうすれば、あなたはすべての悪い行いを従わせ、あらゆる義を行うでしょう。10:1:2 あなたが辛抱強くあるなら、あなたのうちに住む聖霊は、ほかの悪い霊に暗くされず、清いままでいるからです。かえって、聖霊は広々としたところに住み、自分の住む器と共に喜びにあふれ、楽しむでしょう。そして、自分のうちに豊かさを持って、大いに晴れやかに神への務めを果たすでしょう。10:1:3 しかし、何かの短気が入ってくると、聖霊はすぐに窮屈になります。聖霊は繊細であって、その場所が清くないからです。そして、その場所から離れようとします。聖霊は、悪い霊に息をふさがれ、短気に汚されて、望むとおりに主への務めを果たす場所を持たないからです。主は辛抱強さのうちに住んでおられ、悪魔は短気のうちに住んでいるのです。10:1:4 だから、二つの霊が同じところに共に住むことは、その霊たちが住むその人にとって、益がなく、悪いことなのです。10:1:5 にがよもぎをごく少し取って、蜜のつぼに注ぐなら、蜜はすべて台なしになるからです。あれほどの蜜が、ごくわずかなにがよもぎによってだめになり、蜜の甘さを失うではありませんか。もはや持ち主に同じように喜ばれないではありませんか。苦くなって、その使い道を失ったからです。しかし、にがよもぎが蜜に入れられなければ、蜜は甘いものと見いだされ、持ち主の役に立つものとなります。10:1:6 辛抱強さが蜜よりもはるかに甘く、主の役に立つことが、あなたには分かります。主はそのうちに住んでおられるのです。しかし、短気は苦く、役に立ちません。だから、短気が辛抱強さに混じると、辛抱強さは汚され、その祈りは、もはや神の役に立たないのです」10:1:7 わたしは言った。「主よ、短気の働きを知りたいのです。それから身を守るためです」彼は言った。「そうです。あなたとあなたの家が、それから身を守らないなら、あなたは自分の望みをすべて失ったことになります。そうではなく、それから身を守りなさい。わたしがあなたと共にいるからです。また、心を尽くして悔い改める者はみな、それから離れるでしょう。わたしが彼らと共にいて、彼らを保つからです。彼らはみな、最も尊い御使いによって義とされたのです」

10:2:1 彼は言った。「今、短気の働きを聞きなさい。それがどれほど悪いのか、ということです。また、短気が自分の働きによって、どのようにわたしのしもべたちを倒し、どのように彼らを義から迷わせるのか、ということです。しかし、短気は、信仰に満ちている者たちを迷わせず、彼らに働きかけることもできません。わたしの力が彼らと共にあるからです。短気が迷わせるのは、うつろで二心の者たちなのです。10:2:2 短気は、このような人々が落ち着いているのを見ると、その人の心に入り込みます。すると、男であれ女であれ、何でもないことから苦々しさに陥ります。暮らしの事柄や食べ物のこと、何かささいなこと、ある友人のこと、やり取りのこと、そのような愚かな事柄のためです。これらはみな、愚かで、むなしく、分別がなく、神のしもべたちにとって益がないものなのです。10:2:3 しかし、辛抱強さは大きく、強いものです。力を持っていて、その力はたくましく、大きな広がりの中で豊かに栄えます。晴れやかで、喜びにあふれ、思いわずらいがなく、いつでも主をあがめます。自分のうちに苦いものを何一つ持たず、いつも柔和で穏やかなまま、とどまり続けます。だから、この辛抱強さは、欠けのない信仰を持つ者たちと共に住むのです。10:2:4 しかし、短気は、まず愚かで、軽はずみで、分別がありません。次に、無分別から苦々しさが生まれ、苦々しさから憤りが、憤りから怒りが、怒りから恨みが生まれます。そして、この恨みは、これほど多くの悪から成り立って、大きな、いやすことのできない罪となるのです。10:2:5 これらの霊が、聖霊も住んでいる一つの入れ物に住むと、その入れ物は収めきれず、かえってあふれてしまうからです。10:2:6 だから、繊細な霊は、悪い霊とも荒々しさとも共に住み慣れていないので、そのような人から立ち去ります。そして、柔和と穏やかさと共に住もうとします。10:2:7

そして、霊が、自分の住んでいたその人から離れると、その人は正しい霊を失って空になります。その後は悪い霊たちに満たされ、悪い霊たちにあちらこちらへ引き回されて、自分のすべての行いにおいて落ち着かなくなります。また、まったく盲目になって、良い心を失います。だから、短気な者たちはみな、このようになるのです。10:2:8 だから、最も悪い霊である短気から離れなさい。そして、辛抱強さを身にまとい、短気と苦々しさに立ち向かいなさい。そうすれば、あなたは、主に愛されている品位と共にいる者と見いだされるでしょう。だから、この戒めをおろそかにすることのないよう、気をつけなさい。この戒めを自分のものとするなら、わたしがこれからあなたに命じようとしている、ほかの戒めも守ることができるからです。それらのうちに強くなり、力づけられなさい。また、それらのうちを歩もうと望む者は、みな力づけられるべきです」

第六の戒め、第七の戒め　二人の御使いと、二つの恐れ

11:0:0 第六の戒め

11:1:1 彼は言った。「わたしは第一の戒めで、信仰と恐れと自制を守るように、あなたに命じました」わたしは言った。「はい、主よ」彼は言った。「しかし今は、それらの力も、あなたに明らかにしたいのです。それらのうち、どれがどんな力と働きを持っているかを、あなたが見分けるためです。それらの働きは二通りあるのです。だから、それらは、正しいものと不正なものとにかかわっています。11:1:2 だから、あなたは、正しいものを信じなさい。不正なものを信じてはなりません。正しいものはまっすぐな道を持ち、不正なものは曲がった道を持つからです。あなたは、そうではなく、まっすぐで平らかな道を行きなさい。曲がった道は放っておきなさい。11:1:3 曲がった道には、踏み固められた道筋がないからです。かえって、道のないところと多くのつまずきがあり、でこぼこで、いばらだらけです。だから、その道は、そこを行く者たちにとって害になるのです。11:1:4 しかし、まっすぐな道を行く者たちは、平らかに、つまずかずに歩みます。その道は、でこぼこでも、いばらだらけでもないからです。だから、この道を行くほうが益になることが、あなたには分かります」11:1:5 わたしは言った。「主よ、この道を行くことが、わたしには気に入ります」彼は言った。「あなたは、その道を行くでしょう。また、心を尽くして主に立ち帰る者はだれでも、その道を行くでしょう」

11:2:1 彼は言った。「今、信仰について聞きなさい。人には、二人の御使いが共にいます。一人は義の御使い、一人は悪の御使いです」11:2:2 わたしは言った。「主よ、では、両方の御使いがわたしと共に住んでいるのですから、どのようにして、その働きを知るのでしょうか」11:2:3 彼は言った。「聞きなさい。そうすれば、その働きを悟るでしょう。義の御使いは、繊細で、恥じらい深く、柔和で、穏やかです。だから、この御使いがあなたの心に上ると、すぐにあなたと語ります。義について、清さについて、品位について、満ち足りることについて語ります。あらゆる正しい行いについて、あらゆる栄光ある徳について語るのです。これらがみなあなたの心に上るとき、義の御使いがあなたと共にいることを知りなさい。つまり、これらが、義の御使いの行いです。だから、この御使いと、その行いを信じなさい。11:2:4 では、悪の御使いの行いも見なさい。何よりもまず、この御使いは短気で、苦々しく、分別がありません。その行いは悪くて、神のしもべたちを倒します。だから、この御使いがあなたの心に上るとき、その行いによって、この御使いを知りなさい」11:2:5 わたしは言った。「主よ、どのようにしてその御使いを見分けるのか、わたしには分かりません」彼は言った。「聞きなさい。何かの短気や苦々しさがあなたに襲いかかるとき、その御使いがあなたのうちにいることを知りなさい。次に、多くの事を手がけようとする欲望があります。多くの料理や酒、たび重なる放縦、さまざまな、要りもしない食べ物のぜいたくがあります。女への欲望と貪欲、ひどい高慢と自慢があります。そのほか、これらに近いもの、似たものがあります。だから、これらがあなたの心に上るとき、悪の御使いがあなたのうちにいることを知りなさい。11:2:6 だから、あなたは、その行いを知って、その御使いから離れなさい。少しもその御使いを信じてはなりません。その行いは悪く、神のしもべたちにとって益がないからです。だから、あなたは、両方の御使いの働きを手にしているのです。それを悟り、義の御使いを信じなさい。11:2:7 しかし、悪の御使いからは離れなさい。その教えは、どんな行いにおいても悪いからです。信者である男でも、この御使いの考えが心に上るなら、その男であれ女であれ、必ず何かの罪を犯してしまうのです。11:2:8 また反対に、どんなに悪い男や女でも、義の御使いの行いが心に上るなら、その人は、どうしても何か善いことをするのです」11:2:9 彼は言った。「だから、義の御使いに従い、悪の御使いには別れを告げるのがよいことが、あなたには分かります。11:2:10 この戒めは、信仰についてのことを明らかにしています。あなたが義の御使いの行いを信じ、それを行って、神に生きるためです。しかし、悪

の御使いの行いは危ういものだと信じなさい。だから、それを行わなければ、あなたは神に生きるでしょう」

12:0:0 第七の戒め

12:1:1 彼は言った。「主を恐れ、その戒めを守りなさい。だから、神の戒めを守るなら、あなたはすべての行いにおいて力ある者となり、あなたの行いは並ぶもののないものとなるでしょう。主を恐れるなら、あなたは何事もよく行うからです。そして、これが、あなたが恐れて、救われなければならない恐れなのです。12:1:2 しかし、悪魔を恐れてはなりません。主を恐れるなら、あなたは悪魔を従わせるからです。悪魔のうちには、力がないのです。力のないところには、恐れもありません。しかし、栄光ある力のあるところには、恐れもあります。力を持つ者はみな、恐れられるからです。しかし、力を持たない者は、すべての人によって侮られます。12:1:3 しかし、悪魔の行いは恐れなさい。それは悪いからです。だから、主を恐れるなら、あなたはそれを行わず、かえって、それから離れるでしょう。12:1:4 だから、恐れには二通りあります。悪を行おうと望むなら、主を恐れなさい。そうすれば、あなたはそれを行わないのです。また反対に、善を行おうと望むなら、主を恐れなさい。そうすれば、あなたはそれを行うのです。このように、主への恐れは、強く、大きく、栄光あるものです。だから、主を恐れなさい。そうすれば、あなたは主に生きるでしょう。また、主を恐れ、その戒めを保つ者はみな、神に生きるでしょう」12:1:5 わたしは言った。「主よ、なぜ、その戒めを保つ者たちについて、『神に生きるでしょう』と言われたのですか」彼は言った。「すべての造られたものは主を恐れますが、その戒めを守らないからです。だから、主を恐れ、その戒めを守る者たち、その人たちのいのちは、神のもとにあります。しかし、その戒めを守らない者たちには、神のうちにいのちもないのです」

第八の戒め、第九の戒め　二つの自制と、二心

13:0:0 第八の戒め

13:1:1 彼は言った。「神の造られたものは二通りある、とわたしはあなたに言いました。自制もまた二通りあるのです。あることについては自制しなければならず、あることについては自制してはならないからです」 13:1:2 わたしは言った。「主よ、何について自制しなければならず、何について自制してはならないのか、わたしに知らせてください」彼は言った。「聞きなさい。悪については自制しなさい。それを行ってはなりません。しかし、善については自制してはなりません。そうではなく、それを行いなさい。善を行わないように自制するなら、あなたは大きな罪を行うことになるからです。しかし、悪を行わないように自制するなら、あなたは大きな義を行うことになるのです。だから、善を行いながら、あらゆる悪について自制しなさい」 13:1:3 わたしは言った。「主よ、わたしたちが自制しなければならない悪とは、どのようなものですか」彼は言った。「聞きなさい。姦淫と不品行、不法な酩酊、悪い享楽、多くの料理と富のぜいたく、誇りと思い上がりと高慢です。また、偽りと悪口と偽善、恨みとあらゆる冒涜です。 13:1:4 これらの行いは、人の生涯において、何よりも悪いものです。だから、神のしもべは、これらの行いについて自制しなければなりません。これらについて自制しない者は、神に生きることができないからです。だから、これらに続くものも聞きなさい」 13:1:5 わたしは言った。「主よ、まだ悪い行いがあるというのですか」彼は言った。「そうです。それも多くあります。神のしもべは、それらについて自制しなければなりません。盗み、偽り、奪い取ること、偽証、貪欲、悪い欲望、欺き、むなしい考え、自慢、そのほか、これらに似たものです。 13:1:6 これらは悪いと思いませんか」わたしは言った。「神のしもべたちにとって、とても悪いものです」彼は言った。「神に仕える者は、これらすべてについて自制しなければなりません。だから、これらすべてについて自制しなさい。あなたが神に生き、それらについて自制する者たちと共に書き記されるためです。だから、あなたが自制しなければならないものは、これらです」 13:1:7 彼は言った。「しかし、あなたが自制してはならず、かえって行わなければならないものを聞きなさい。善については自制してはなりません。そうではなく、それを行いなさい」 13:1:8 わたしは言った。「主よ、善いことの力も、わたしに明らかにしてください。そのうちを歩み、それに仕え、それを行って、救われることができるようになりたいのです」彼は言った。「善いことの行いも聞きなさい。あなたが行わなければならず、自制してはならない行いです。 13:1:9 何よりもまず、信仰、主への恐れ、愛、一致、義の言葉、真実、忍耐です。人の生涯において、これらより善いものは何もありません。これらを守り、これらについて自制しない人は、生きているうちに幸いな者となります。 13:1:10 次に、これらに続くものを聞きなさい。やもめの世話をすること、みなしごと乏しい人々を見舞うこと、神のしもべたちを苦境から贖い出すこと、旅人をもてなすことです。もてなしのうちに、善を行うことが見いだされることもあるからです。だれにも逆らわないこと、穏やかであること、すべての人より低い者となること、年老いた人々を尊ぶことです。義に励み、兄弟の交わりを大切に保ち、侮辱に耐え、辛抱強くあることです。恨みを抱かず、魂の疲れた人々を励ますことです。信仰につまずいた人々を捨てずに、かえって立ち帰らせ、元気づけることです。罪を犯す人々を諭し、負債のある人や貧しい人を苦しめないことです。そのほか、これらに似たことがあれば、それもです」 13:1:11 彼は言った。「これらは善いと思いますか」わたしは言った。「主よ、いったい、これらより善いものがあるでしょうか」彼は言った。「だから、それらのうちを歩みなさい。それらについて自制してはなりません。そうすれば、あなたは神に生きるでしょう。 13:1:12 だから、この戒めを守りなさい。善を行い、それについて自制しないなら、あなたは神に生きるでしょう。このように行う者はみな、神に生きるでしょう。また反対に、悪を行わず、

それについて自制するなら、あなたは神に生きるでしょう。これらの戒めを守り、そのうちを歩む者は、だれでもみな、神に生きるでしょう」

14:0:0 第九の戒め

14:1:1 彼はわたしに言った。「二心を自分から取り除きなさい。神に何かを求めることを、決して少しも思い迷ってはなりません。心の中で、『これほど多くの罪を主に犯したわたしが、どうして主に求めて、受けられるだろうか』と言ってはならないのです。14:1:2 そのように思い巡らしてはなりません。そうではなく、心を尽くして主に立ち帰り、疑わずに主に求めなさい。そうすれば、主の豊かなあわれみを知るでしょう。主は決してあなたを見捨てず、かえって、あなたの魂の求めを満たしてくださることを知るのです。14:1:3 神は、人間たちのように恨みを抱く方ではないからです。かえって、神ご自身は恨みを抱かない方であって、ご自分がお造りになったものを深くあわれんでくださるのです。14:1:4 だから、あなたは、この世のあらゆるむなしいことから、また先にあなたに挙げた言葉から、自分の心を清めなさい。そして、主に求めなさい。そうすれば、あなたはすべてを受け取り、あなたのどの求めにも欠けることがないでしょう。ただし、疑わずに主に求めるならばのことです。14:1:5 しかし、心の中で疑うなら、あなたは自分の求めの何一つ受けないでしょう。神を疑う者たち、彼らこそ二心の者たちであって、自分の求めの何一つ得ることがないからです。14:1:6 しかし、信仰において完全な者たちは、主に寄り頼んで、すべてを求め、そして受けます。疑わずに求め、少しも思い迷わないからです。二心の人はみな、悔い改めなければ、救われることが難しいのです。14:1:7 だから、あなたの心を二心から清めなさい。そして、信仰を身にまといなさい。信仰は力強いからです。また、あなたが求めているすべての求めを受けると、神を信じなさい。ときに主に何かを求めて、受けるのが遅くなっても、魂の求めをすぐに受けなかったからと、思い迷ってはなりません。あなたが求めを受けるのが遅いのは、確かに、何かの試みか、あなたの知らない何かの過ちのゆえなのです。14:1:8 だから、あなたは、自分の魂の求めを求めることをやめてはなりません。そうすれば、それを受けるでしょう。しかし、求めながら気落ちし、思い迷うなら、自分を責めなさい。あなたに与えてくださる方を責めてはなりません。14:1:9 この二心に気をつけなさい。それは悪く、悟りがなく、多くの者を信仰から根こそぎにするからです。とても信仰深く、力強い者たちさえもそうです。この二心は悪魔の娘であって、神のしもべたちに対して、ひどく悪をはたらくのです。14:1:10 だから、二心を軽んじなさい。そして、力強く、力ある信仰を身にまとって、どんな事においても二心を従わせなさい。信仰はすべてを約束し、すべてを成し遂げるからです。しかし、二心は自分を信頼しないので、自分の行うどの行いにおいても、し損じるのです」14:1:11 彼は言った。「だから、信仰が上から、主から来るものであって、大きな力を持っていることが、あなたには分かります。しかし、二心は、悪魔から来る地上の霊であって、力を持っていません。14:1:12 だから、あなたは、力を持つ信仰に仕えなさい。そして、力を持たない二心から離れなさい。そうすれば、あなたは神に生きるでしょう。このように思う者はみな、神に生きるでしょう」

第十の戒め　悲しみと、晴れやかさ

15:0:0 第十の戒め

15:1:1 彼は言った。「悲しみを自分から取り除きなさい。悲しみもまた、二心と短気の姉妹なのです」 15:1:2 わたしは言った。「主よ、どうして悲しみがこれらの姉妹なのですか。短気と二心と悲しみは、それぞれ別のものだと、わたしには思われるからです」彼は言った。「人よ、あなたは悟りがありません。悲しみがあらゆる霊のうちで最も悪く、神のしもべたちにとって最も恐ろしいものであることが、分からないのですか。悲しみは、どの霊にもまさって人を損ない、聖霊を押しつぶし、また救うのです」 15:1:3 わたしは言った。「主よ、わたしは悟りがなく、これらのたとえを悟ることができません。どうして悲しみが押しつぶし、また救うことができるのか、わたしには分からないのです」 15:1:4 彼は言った。「聞きなさい。真実について一度も探らず、神のことを尋ね求めもせず、ただ信じただけの者たちがいます。彼らは、商売や富や異邦人との交わり、またこの世のほかの多くの仕事にまみれています。だから、これらに打ち込んでいる者はみな、神のことのたとえが分からないのです。これらの行いによって暗くされ、損なわれ、荒れ果ててしまうからです。 15:1:5 良いぶどう畑は、手入れを怠られると、いばらやさまざまな草のために荒れ果てます。それと同じように、信じた人々も、先に述べた多くの行いに陥ると、自分の心から迷い出ます。そして、義について何一つ分からなくなります。かえって、神のことや真実について聞くときにも、彼らの知性は自分の行いにかかりきりになっていて、何一つ分からないのです。 15:1:6 しかし、神を恐れ、神のことと真実について探り、心を主に向けている者たちは、言われることをすべて、すぐに分かり、悟ります。自分のうちに主への恐れを持っているからです。主が住んでおられるところには、多くの悟りもあるのです。だから、主に結びつきなさい。そうすれば、あなたはすべてを悟り、分かるでしょう」

15:2:1 彼は言った。「だから、物わかりの悪い人よ、悲しみがどのようにして聖霊を押しつぶし、また救うのかを聞きなさい。 15:2:2 二心の者が何かの行いを企て、自分の二心のゆえにそれをし損じると、この悲しみが人の中に入り込みます。そして、聖霊を悲しませ、これを押しつぶします。 15:2:3 次にまた、何かの事について短気が人に取りつき、その人がひどく苦々しい思いをすることがあります。そのようなときに、短気を起こしたその人の心の中に、また悲しみが入り込みます。そして、その人は、自分のした行いを悲しみ、悪を行ったことを悔い改めるのです。 15:2:4 だから、この悲しみは救いを持っているように見えます。悪を行って、悔い改めたからです。だから、どちらの行いも霊を悲しませるのです。二心は、自分の行いをやり遂げられなかったことで霊を悲しませ、短気は、悪を行ったことで霊を悲しませます。だから、二心と短気は、どちらも聖霊を悲しませるものなのです。 15:2:5 だから、悲しみを自分から取り除きなさい。あなたのうちに住む聖霊を苦しめてはなりません。聖霊が神に願って[1]、あなたから離れることのないようにしなさい。 15:2:6 この肉体に与えられた神の霊は、悲しみにも窮屈さにも耐えられないからです。

15:3:1 だから、晴れやかさを身にまとい、それを存分に味わいなさい。晴れやかさは、いつも神のもとで恵みを得ていて、神に喜んで受け入れられるものです。晴れやかな人はみな、善を行い、善を思い、悲しみを軽んじるからです。 15:3:2 しかし、悲しみに沈む人は、いつも悪をはたらきます。第一に、晴れやかなものとして人に与えられた聖霊を悲しませるので、悪をはたらきます。第二に、聖霊を悲しませて、主に祈りもせず、感謝をささげもせずに、不法を行います。悲しみに沈む人の祈りは、いつも、神の祭壇に上る力を持たないからです」 15:3:3 わたしは言った。「なぜ、悲しんでいる人の祈りは祭壇に上らないのですか」彼は言った。「悲しみがその人の心に居座っているからです。だから、悲しみは、祈りに混じって、祈りが清いまま祭壇に上ることを許さないのです。酢とぶどう酒

も、一つに混ぜられると、もとと同じ味わいを持たないのです。それと同じように、悲しみも、聖霊と混じると、もとと同じ祈りを持たないのです。15:3:4 だから、この悪い悲しみから自分を清めなさい。そうすれば、あなたは神に生きるでしょう。悲しみを自分から捨て、あらゆる晴れやかさを身にまとう者はみな、神に生きるでしょう」

訳注

1 別の写本には『あなたを訴えて』とある。

第十一の戒め　預言者と、偽預言者

16:0:0 第十一の戒め

16:1:1 彼は、長椅子に座っている人々と、椅子に座っているもう一人の人を、わたしに見せた。そして、わたしに言った。「長椅子に座っている人々が見えますか」わたしは言った。「主よ、見えます」彼は言った。「この人々は信者です。椅子に座っている者は偽預言者で、神のしもべたちの心を滅ぼします。ただし、滅ぼすのは二心の者たちの心で、信者たちの心ではありません。16:1:2 だから、これらの二心の者たちは、占い師のもとへ来るように彼のもとへ来て、いったい自分たちに何が起こるのかを尋ねます。すると、あの偽預言者は、自分のうちに神聖な霊の力を少しも持たないまま、彼らの問いと悪の欲望にしたがって、彼らと語ります。そして、彼らが望むとおりに、彼らの魂を満たすのです。16:1:3 彼自身がむなしい者で、むなしい者たちにむなしいことを答えもするからです。何を尋ねられても、彼は、その人のむなしさに合わせて答えるのです。ただし、真実な言葉もいくつか語ります。悪魔が、正しい者たちのだれかを引き裂くことができないかと、自分の霊で彼を満たすからです。16:1:4 だから、主への信仰のうちに強く、真実を身にまとっている者はみな、このような霊に結びつかず、かえって、それから離れます。しかし、二心で、しきりに悔い改める者はみな、異邦人のように占いを求め、偶像を拝んで、自分にいっそう大きな罪を招きます。何かの行いについて偽預言者に尋ねる者は、偶像を拝む者であり、真実を持たないむなしい者であり、分別がないからです。16:1:5 神から与えられた霊は、どれも尋ねられることがないのです。そうではなく、神の力を持っていて、自分からすべてを語ります。上から、神聖な霊の力から来るものだからです。16:1:6 しかし、尋ねられて、人々の欲望にしたがって語る霊は、地上のもので、軽はずみで、力を持っていません。尋ねられなければ、まったく語らないのです」16:1:7 わたしは言った。「では、主よ、彼らのうちのだれが預言者で、だれが偽預言者なのかを、人はどうして知るのでしょうか」彼は言った。「両方の預言者について聞きなさい。わたしがこれからあなたに言うとおりに、預言者と偽預言者を試しなさい。神聖な霊を持っている人を、その生き方によって試しなさい。16:1:8 第一に、上からの霊を持っている者は、柔和で、穏やかで、へりくだっています。あらゆる悪と、この世の空疎な欲望から離れ、自分をすべての人より低い者とします。尋ねられても、だれにも何も答えません。一人で語ることもしません。人が語りたいときに、聖霊が語るのでもありません。そうではなく、神がその人に語らせようとお望みになるとき、そのときに語るのです。16:1:9 だから、神聖な霊を持っている人が、神聖な霊の信仰を持つ正しい人々の集まりに来ることがあります。そして、その人々の集まりが神に祈りをささげます。そのようなときに、その人に付いている預言の霊の御使いが、その人を満たします。そして、その人は聖霊に満たされて、主がお望みになるとおりに、会衆に向かって語るのです。16:1:10 だから、このようにして、神の霊は明らかになります。だから、主の、神の霊の力は、これほどのものなのです」16:1:11 彼は言った。「今度は、地上の、むなしい霊について聞きなさい。その霊は力を持たず、かえって愚かなのです。16:1:12 第一に、霊を持っているように見えるあの人は、自分を高くし、上席に着こうとします。そして、すぐに厚かましく、恥知らずで、口数が多くなります。多くの享楽や、ほかの多くの欺きのうちに暮らし、自分の預言の報酬を受け取ります。報酬を受け取らなければ、預言しません。では、神聖な霊が報酬を受け取って預言することができるでしょうか。神の預言者がそのようなことをするはずはありません。かえって、そのような預言者たちの霊は、地上のものなのです。16:1:13 次に、正しい人々の集まりにはまったく近づかず、かえって、彼らを避けます。そして、二心の者たちやむなしい者たちに結びつき、片隅で彼らに預言します。彼らの欲望にしたがって何でもむなしく語って、彼らを欺くのです。むなしい者たちに答えもするからです。空の器は、空の器と一緒に重ねても割れないのです。かえって、互いに調子が合います。16:1:14 しかし、神の霊を持つ正

しい人々で満ちた集まりに来て、彼らが祈りをささげると、あの人は空になります。そして、地上の霊は恐れて彼から逃げ去ります。あの人は口がきけなくなり、すっかりくじけて、何も語ることができません。16:1:15 あなたが、ぶどう酒か油を倉に積み込み、そのあいだに空の壺を一つ置くとします。そして、また倉から運び出そうとするなら、空のまま置いたその壺を、やはり空のまま見いだすのです。それと同じように、むなしい預言者たちも、正しい人々の霊のところに来ると、来たときのままの者として見いだされるのです。16:1:16 あなたには、両方の預言者の生き方が示されています。だから、自分は霊を宿していると言う人を、その行いと生き方によって試しなさい。16:1:17 しかし、あなたは、神から来て、力を持つ霊を信じなさい。地上のむなしい霊は、少しも信じてはなりません。その霊のうちには力がないからです。それは悪魔から来るものなのです。16:1:18 だから、これからあなたに話すたとえを聞きなさい。石を取って、天に向かって投げなさい。天に届くことができるかどうか、見なさい。あるいはまた、水鉄砲を取って、天に向かって水を噴き上げなさい。天に穴をあけることができるかどうか、見なさい」16:1:19 わたしは言った。「主よ、どうしてそのようなことが起こりうるでしょうか。あなたがおっしゃったことは、二つとも不可能だからです」彼は言った。「だから、これらのことが不可能なのと同じように、地上の霊も、力がなく、無力なのです。16:1:20 だから、上から来る力を考えてみなさい。雹は、ごく小さな粒です。それでも、人の頭の上に落ちると、どれほどの痛みを与えることでしょう。あるいはまた、屋根の瓦から地面に落ちて、石に穴をあけるしずくを考えてみなさい。16:1:21 だから、上から来るものは、ごく小さくても、地に落ちて大きな力を持つことが、あなたには分かります。それと同じように、神聖な霊も、上から来て、力があるのです。だから、この霊を信じなさい。しかし、もう一方の霊からは離れなさい」

第十二の戒め　悪い欲望と、良い欲望

17:0:0 第十二の戒め

17:1:1 彼はわたしに言った。「あらゆる悪い欲望を、自分から取り除きなさい。そして、良い、尊い欲望を身にまといなさい。この欲望を身にまとっていれば、あなたは悪い欲望を憎み、望むとおりに、それにくつわをかけることになるからです。17:1:2 悪い欲望は猛々しく、なかなか飼いならされないのです。恐ろしいもので、その猛々しさで人々をすっかり食い尽くすからです。とくに、神のしもべが、悟りのないまま、それに陥るなら、それにひどく食い尽くされます。それが食い尽くすのは、良い欲望の衣を持たず、かえってこの世にまみれている、そのような者たちです。だから、それはこの者たちを死に渡すのです」17:1:3 わたしは言った。「主よ、人々を死に渡す悪い欲望の行いとは、どのようなものですか。それらから離れることができるように、わたしに知らせてください」彼は言った。「悪い欲望が、どのような行いによって神のしもべたちを殺すのかを、聞きなさい。

17:2:1 何よりも先に立つのは、他人の妻や夫への欲望です。また、富のぜいたく、多くの空疎な料理、酩酊、ほかの多くの愚かな享楽への欲望です。あらゆる享楽は、神のしもべたちにとって、愚かで、むなしいものだからです。17:2:2 だから、これらの欲望は悪いもので、神のしもべたちを殺します。この悪い欲望は、悪魔の娘だからです。だから、悪い欲望から離れなければなりません。離れて、あなたがたが神に生きるためです。17:2:3 それらに従わされて、それらに立ち向かわない者はみな、完全に死にます。これらの欲望は、死をもたらすものだからです。17:2:4 しかし、あなたは、義への欲望を身にまといなさい。そして、主への恐れで身を固めて、それらに立ち向かいなさい。神への恐れは、良い欲望のうちに住んでいるからです。悪い欲望は、あなたが神への恐れで身を固め、それに立ち向かっているのを見るなら、あなたから遠く逃げ去るでしょう。そして、あなたの武具を恐れて、もうあなたに姿を見せないでしょう。17:2:5 だから、あなたは、それに勝って、冠を受けたなら、義への欲望のもとに行きなさい。そして、得た勝利をそれに渡して、それが望むとおりに、それに仕えなさい。良い欲望に仕え、それに服従するなら、あなたは、悪い欲望を従わせ、望むとおりに服従させることができるでしょう」

17:3:1 わたしは言った。「主よ、どのような仕方で良い欲望に仕えなければならないのか、知りたいのです」彼は言った。「聞きなさい。義と徳、真実と主への恐れ、信仰と柔和、またこれらに似た良いことを行いなさい。これらを行えば、あなたは神に喜ばれるしもべとなり、神に生きるでしょう。良い欲望に仕える者はみな、神に生きるのです」17:3:2 そこで、彼は十二の戒めを終えて、わたしに言った。「あなたは、これらの戒めを持っています。これらのうちを歩みなさい。そして、聞く人々に勧めなさい。彼らの悔い改めが、生涯の残りの日々に清くなるためです。17:3:3 わたしがあなたに与えるこの奉仕を、熱心に果たしなさい。そうすれば、多くのことを成し遂げるでしょう。あなたは、これから悔い改めようとする人々のあいだで、恵みを得るからです。そして、彼らはあなたの言葉に聞き従うでしょう。わたしがあなたと共にいて、彼らを強いて、あなたに聞き従わせるのです」17:3:4 わたしは彼に言った。「主よ、これらの戒めは、大いなる、美しい、栄光あるものです。これらを保つことのできる人の心を楽しませることができます。けれども、これらの戒めを人が守ることができるのかどうか、わたしには分かりません。とても厳しいからです」17:3:5 彼は答えて、わたしに言った。「あなたが、これらは守ることができる、と心に定めるなら、たやすく守るでしょう。そして、厳しいものではなくなるでしょう。しかし、人にはこれらを守れない、ということが、もうあなたの心に上っているなら、あなたはこれらを守らないでしょう。17:3:6 けれども今、わたしはあなたに言います。これらを守らず、かえっておろそかにするなら、あなたは救いを得ないでしょう。あな

たの子供たちも、あなたの家も、得ないでしょう。あなたはもう、これらの戒めは人には守ることができない、と自分で決めてしまったからです」

17:4:1 彼はこれらのことを、ひどく怒って、わたしに語った。そのため、わたしはうろたえ、彼をひどく恐れた。実際、彼の姿が変わって、人がその怒りに耐えられないほどになったのである。17:4:2 彼は、わたしがすっかり取り乱し、うろたえているのを見て、前よりも寛容に、晴れやかに、わたしに語り始めた。そして、言った。「分別がなく、悟りのない、二心の人よ。神の栄光がどれほど大きく、力強く、驚くべきものなのか、あなたには分からないのですか。神は、人のために世界をお造りになりました。ご自分がお造りになったものをすべて人の下にお置きになりました。そして、天の下にあるすべてのものを従わせる権威を、すべて人にお与えになったのです。17:4:3 だから、人は、神のすべての被造物の主であって、すべてを従わせています。それなら、これらの戒めをも従わせることができないでしょうか。心のうちに主を持っている人は、すべてのものも、これらのすべての戒めも、従わせることができるのです。17:4:4 しかし、くちびるには主を持っていても、心が鈍くなっていて、主から遠く離れている者たちがいます。その者たちには、これらの戒めは、厳しく、険しいものです。17:4:5 だから、信仰においてむなしく、軽はずみなあなたがたは、あなたがたの主を心に置きなさい。そうすれば、これらの戒めほどたやすく、甘く、優しいものは何もないことを、知るでしょう。17:4:6 悪魔の戒めに従って歩んでいるあなたがたは、立ち帰りなさい。その戒めは、難しく、苦く、猛々しく、好色なものです。悪魔を恐れてはなりません。悪魔には、あなたがたに逆らう力がないからです。17:4:7 悪魔を従わせる、悔い改めの御使い、このわたしが、あなたがたと共にいるのです。悪魔が持っているのは、人を恐れさせることだけです。そして、その恐れには張りがありません。だから、悪魔を恐れてはなりません。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去るでしょう」

17:5:1 わたしは彼に言った。「主よ、わたしの言葉を少し聞いてください」彼は言った。「望むことを言いなさい」わたしは言った。「主よ、人は神の戒めを守ろうと、熱心に望んでいます。主の戒めのうちに力づけられ、それらに服従することができるようにと、主に求めない者は、だれもいません。けれども、悪魔は手ごわく、人々を押さえつけるのです」17:5:2 彼は言った。「心を尽くして神に望みをかける神のしもべたちを、悪魔は押さえつけることができません。悪魔は組みつくことはできても、組み伏せることはできないのです。だから、あなたがたが悪魔に立ち向かうなら、悪魔は負けて、恥じ入って、あなたがたから逃げ去るでしょう。しかし、うつろな者たちはみな、悪魔を、力を持つ者のように恐れるのです。17:5:3 人が、上等なぶどう酒を、とても多くの壺に満たすことがあります。そして、それらの壺のうちのいくつかには、空きがあります。そのようなときに、その人は壺のところに来て、満ちている壺は調べません。満ちていることを知っているからです。しかし、酸っぱくなってしまったのではないかと恐れて、空きのある壺は調べます。空きのある壺は、すぐに酸っぱくなって、ぶどう酒の味わいが失われるのです。17:5:4 それと同じように、悪魔も、神のしもべたちみなのところに来て、彼らを試みます。だから、信仰に満ちている者はみな、悪魔に力強く立ち向かいます。すると、悪魔は、入り込む場所がないので、彼らから立ち去ります。だから、悪魔はそのとき、うつろな者たちのところに来ます。そして、場所があるので、彼らの中に入り込み、彼らのうちで望むことを行います。こうして、彼らは悪魔に隷属する者となるのです。

17:6:1 けれども、悔い改めの御使いであるわたしは、あなたがたに言います。悪魔を恐れてはなりません。わたしは、心を尽くして悔い改めるあなたがたと共にいて、信仰のうちに強めるために、遣わされたからです。17:6:2 自分の罪のゆえに自分のいのちに望みを失い、罪に罪を加えて、自分のいのちを重くしているあなたがたよ。あなたがたが、心を尽くして主に立ち帰り、生涯の残りの日々に義を行うとします。そして、主のみこころにしたがって、まっすぐに主に仕えるなら、主はあなたがたの以前の罪をいやしてくださいます。そして、あなたがたは、悪魔の行いを従わせる力を持つでしょう。だから、このことについて、神を信じなさい。悪魔の脅しを、少しも恐れてはなりません。それは、死人の筋のように、張りがないからです。17:6:3 だから、わたしに聞きなさい。すべてのことができ、救うことも滅ぼすこともできる方を恐れなさい。そして、これらの戒めを保ちなさい。そうすれば、あなたがたは神に生きるでしょう」17:6:4 わたしは彼に言った。「主よ、今、わたしは、主のすべての定めのうちに力づけられまし

た。あなたがわたしと共におられるからです。そして、わたしは知っています。あなたが悪魔の力をことごとく打ち砕いてくださり、わたしたちが悪魔を従わせ、そのすべての行いに打ち勝つのです。主よ、わたしは、主が力づけてくださるので、あなたがお命じになったこれらの戒めを守ることができると、望んでいます」17:6:5彼は言った。「あなたの心が主に向かって清くなるなら、あなたは守るでしょう。また、この世の空疎な欲望から自分の心を清める者はみな、守るでしょう。そして、神に生きるでしょう」

第一のたとえ、第二のたとえ　異国の町と自分の町、にれの木とぶどうの木

18:0:0 彼がわたしに語ったたとえ

18:1:1 彼はわたしに言った。「神のしもべであるあなたがたは、自分が異国に住んでいることを知っています。あなたがたの町は、この町から遠く離れているからです。だから、あなたがたが、これから住むことになる自分の町を知っているとします。それなら、どうして、あなたがたはここで、畑や、ぜいたくな調度や、建物や、空疎な住まいを備えるのですか。18:1:2 だから、これらのものをこの町のために備える者は、自分の町に戻ることができません。18:1:3 分別がなく、二心の、みじめな人よ。これらのものはみな他人のもので、ほかの者の権威の下にあることが、あなたには分からないのですか。この町の主が、こう言うことになるからです。『わたしは、あなたがわたしの町に住むことを望まない。そうではなく、この町から出て行け。あなたはわたしの法に従わないからだ』18:1:4 だから、あなたが、畑や住まいや、ほかの多くの財産を持っていて、彼に追い出されるとします。そのとき、自分の畑や家や、自分のために備えたほかのすべてのものを、どうするのですか。この国の主は、あなたに、正当にこう言うからです。『わたしの法に従うか、わたしの国から立ち去るかにせよ』18:1:5 だから、あなたは、自分の町に法を持っていながら、どうするつもりですか。自分の畑や、ほかの財産のために、自分の法をすっかり否んで、この町の法に従って歩むのですか。自分の法を否むのは、ためにならないのではないか、よく考えなさい。もし自分の町に戻りたいと思っても、自分の町の法を否んだので、決して受け入れられないのです。そして、あなたはそこから締め出されるでしょう。18:1:6 だから、あなたは、よく考えなさい。異国に住む者として、自分に足りるだけのものほかは、何も備えてはなりません。そして、用意をしていなさい。この町の主人は、あなたがその法に逆らったとして、あなたを追い出そうとすることがあります。そのようなときに、あなたがその町から出て、自分の町に帰り、辱められることなく、喜びにあふれて、自分の法に従うためです。18:1:7 だから、主に仕え、主を心に持っているあなたがたは、よく考えなさい。神の戒めと、神が約束なさった約束とを覚えて、神のわざを行いなさい。そして、神の戒めが守られるなら、神がその約束を果たしてくださることについて、神を信じなさい。18:1:8 だから、畑の代わりに、苦しめられている魂を、それぞれができるだけ買い取りなさい。また、やもめとみなしごを見舞いなさい。そして、彼らを見過ごしてはなりません。富と、神から受けたすべての調度とを、そのような畑と家のために費やしなさい。18:1:9 主があなたがたを富ませてくださったのは、あなたがたが主のためにこれらの奉仕を果たすためなのです。そのような畑や地所や家を買い取るほうが、はるかに良いことです。あなたは、自分の町に帰って住むとき、それらをそこに見いだすでしょう。18:1:10 このぜいたくは、良い、聖なるもので、悲しみも恐れもなく、喜びがあります。だから、異邦人のぜいたくをしてはなりません。神のしもべであるあなたがたには、ためにならないからです。18:1:11 あなたがたは、自分のぜいたくをしなさい。そのうちに喜ぶことができるのです。まがい物を作ってはなりません。他人のものに触れてはなりません。それを欲してもなりません。他人のものを欲するのは悪いことだからです。あなたは自分のわざを行いなさい。そうすれば、救われるでしょう」

19:0:0 第二のたとえ

19:1:1 わたしは畑を歩きながら、にれの木とぶどうの木に目を留め、それらとその実について、あれこれ考えていた。すると、牧者がわたしに現れて、言った。「あなたは、にれの木とぶどうの木について、心の中で何を探っているのですか」わたしは言った。「主よ、これらが互いにとてもよく似合っていることを、考え合わせているのです」19:1:2 彼は言った。「この二本の木は、神のしもべたちのために、ひな型として置かれているのです」わたしは言った。「あなたのおっしゃるこれらの木のひな型を、知りたいのですが」彼は言った。「にれの木とぶどうの木が見えますか」わたしは言った。「主よ、見えます」19:1:3 彼は言った。

「このぶどうの木は実を結びますが、にれの木は実を結ばない木です。けれども、このぶどうの木は、にれの木に這い上がらなければ、地に投げ出されたままで、多くの実を結ぶことができません。結ぶ実も、にれの木に掛かっていないので、腐っているのです。だから、ぶどうの木がにれの木に掛けられると、自分からも、にれの木からも、実を結ぶのです。19:1:4 だから、にれの木もまた多くの実を、ぶどうの木に劣らず、むしろもっと多く出すことが、あなたには分かります」わたしは言った。「主よ、どうして、もっと多いのですか」彼は言った。「ぶどうの木は、にれの木に掛かっていると、多くの良い実を出すからです。けれども、地に投げ出されていると、わずかな、腐った実しか結びません。だから、このたとえは、神のしもべたちのため、貧しい人と富む人のために置かれているのです」19:1:5 わたしは言った。「主よ、どのようにですか。わたしに知らせてください」彼は言った。「聞きなさい。富む人は金銭を持っていますが、自分の富に心を奪われていて、主に対することでは貧しいのです。そして、主への祈りと感謝はとても小さく、持っている祈りも、弱く、小さく、ほかの力を持たないものです。だから、富む人が貧しい人に寄りかかり、必要なものをまかなうことがあります。そのようなときに、富む人は、貧しい人のために働けば、神のもとで報いを得ることができると信じています。貧しい人は祈りと感謝において富んでいて、その祈りは神のもとで大きな力を持っているからです。だから、富む人は、貧しい人に、ためらわずにすべてをまかなうのです。19:1:6 貧しい人は、富む人にまかなわれて、自分に与えてくれる人のために神に祈り、神に感謝します。そして、富む人は、貧しい人がその生活に欠けることがないように、なおいっそう貧しい人のことに心を配ります。貧しい人の祈りが受け入れられるもので、主に対して富んでいることを、知っているからです。19:1:7 だから、二人とも、わざを果たすのです。貧しい人は、自分が富んでいる祈りによって働きます。その祈りは、主から受けたものです。それを、自分の必要をまかなってくださる主にお返しするのです。富む人も同じように、主から受けた富を、ためらわずに貧しい人に差し出します。これは大きなわざで、神に受け入れられるものです。富む人は、自分の富について悟って、主の賜物から貧しい人のために働き、奉仕を正しく果たしたからです。19:1:8 だから、人々には、にれの木は実を結ばないように見えます。そして、人々は、次のことを知らず、分かりもしません。日照りになると、にれの木は水を持っていて、ぶどうの木を養います。そして、ぶどうの木は、絶えず水を得て、自分のためにも、にれの木のためにも、二倍の実を出すのです。それと同じように、貧しい人々も、富む人々のために主に祈って、その富を満たします。また、富む人々も、貧しい人々に必要なものをまかなって、その祈願[1]を満たすのです。19:1:9 だから、二人とも、義のわざにあずかる者となります。だから、これらのことを行う者は、神に見捨てられることがありません。そうではなく、生きている者たちの書に書き記されるでしょう。19:1:10 富を持ち、自分が主によって富んでいることを悟っている人々は、幸いです。これを悟る者は、何か良いことをして仕えることもできるからです」

訳注

1 写本には『祈願』ではなく『魂』とある。

第三のたとえ、第四のたとえ、第五のたとえ　1〜2章　冬の木と夏の木、断食とぶどう園のしもべ

20:0:0 第三のたとえ

20:1:1 彼はわたしに、多くの木を見せた。それらは葉がなく、かえって、枯れているかのように、わたしには見えた。実際、どれもみな同じようだった。彼はわたしに言った。「この木々が見えますか」わたしは言った。「主よ、同じようで、枯れているのが見えます」彼はわたしに答えて言った。「あなたが見ているこれらの木は、この世に住んでいる者たちです」 20:1:2 わたしは言った。「主よ、では、どうして、それらは枯れているかのようで、同じようなのですか」彼は言った。「この世では、正しい者たちも罪人たちも見分けがつかず、かえって、同じようだからです。この世は、正しい者たちにとって冬であって、彼らは罪人たちと共に住んでいて、見分けがつかないのです。 20:1:3 冬には、木々は葉を落としてどれも同じようであり、どれが枯れていて、どれが生きているのか、見分けがつきません。それと同じように、この世では、正しい者たちも罪人たちも見分けがつかず、かえって、みな同じようなのです」

21:0:0 第四のたとえ

21:1:1 彼はまた、多くの木をわたしに見せた。あるものは芽を出していて、あるものは枯れていた。そして、わたしに言った。「この木々が見えますか」わたしは言った。「主よ、あるものは芽を出していて、あるものは枯れているのが見えます」 21:1:2 彼は言った。「芽を出しているこれらの木は、来るべき世に住むことになる正しい者たちです。来るべき世は、正しい者たちにとっては夏で、罪人たちにとっては冬だからです。だから、主のあわれみが照り輝くとき、そのとき、神に仕えている者たちが明らかにされ、すべての者が明らかにされるでしょう。 21:1:3 夏には、一本一本の木の実が明らかにされ、それがどのような実なのかが知られます。それと同じように、正しい者たちの実も明らかになり、彼らがみな、その世で生き生きとしていることが知られるのです。 21:1:4 けれども、異邦人と罪人たちは、あなたが見た枯れた木です。彼らは、その世で、そのように枯れて実のない者として見いだされ、たきぎのように焼き尽くされるでしょう。そして、生きている間の彼らの行いが悪かったので、彼らのことが明らかになるでしょう。罪人たちは、罪を犯して悔い改めなかったので、焼かれるのです。異邦人は、自分たちをお造りになった方を知らなかったので、焼かれるのです。 21:1:5 だから、あなたは、その夏にあなたの実が知られるように、実を結びなさい。そして、多くの事業から離れなさい。そうすれば、少しも罪に陥ることはないでしょう。多くのことを行う者は、自分の事業に心を奪われていて、自分の主に少しも仕えず、多くの罪も犯すのです。 21:1:6 だから、そのような者は、主に仕えていないのに、どうして主に何かを求めて、受けることができるでしょうか。主に仕える者たち、彼らこそ、自分の求めを受けるでしょう。けれども、主に仕えない者たち、彼らは何も受けないでしょう。 21:1:7 けれども、人が一つの事業に携わるなら、主にも仕えることができます。その人の心は、堕落して主から離れることがなく、かえって、その人は清い心を持って主に仕えるからです。 21:1:8 だから、あなたがこれらのことを行うなら、来るべき世のために実を結ぶことができます。また、これらのことを行う者はだれでも、実を結ぶでしょう」

22:0:0 第五のたとえ

22:1:1 わたしは断食して、ある山の上に座り、主がわたしにしてくださったすべてのことについて、主に感謝していた。すると、牧者がわたしのそばに座って、こう言うのが見えた。「どうして、朝早く、ここに来たのですか」わたしは言った。「主よ、見張りの勤めをしているからです」 22:1:2 彼は言った。「見張りの勤めとは何ですか」わたしは言った。「主よ、断食をしているのです」彼は言った。「では、あなたがたがしているこの断食とは、何なのですか」わたしは言った。「主よ、いつもしていたとおりに、断食をしているのです」 22:1:3 彼は言っ

た。「あなたがたは、主のために断食するすべを知りません。また、あなたがたが主のためにしている、この益のない断食は、断食ではありません」わたしは言った。「主よ、どうして、そのようにおっしゃるのですか」彼は言った。「あなたに言います。あなたがたがしているつもりのこの断食は、断食ではありません。そうではなく、主に受け入れられる、欠けのない断食とは何かを、わたしがあなたに教えましょう。聞きなさい。22:1:4 神は、そのような空疎な断食を望んでおられません。そのように神のために断食しても、あなたは義のために何も行うことにならないからです。神のためには、次のような断食をしなさい。22:1:5 生きている間、少しも悪をはたらいてはなりません。かえって、清い心で主に仕えなさい。主の命令のうちを歩んで、主の戒めを保ちなさい。あなたの心には、どんな悪い欲望も上るべきではありません。そして、このことについて、神を信じなさい。あなたがこれらのことを行い、神を恐れ、あらゆる悪い事について自制するなら、神に生きるのです。また、これらのことを行うなら、あなたは、神に受け入れられる大きな断食をすることになるでしょう。

22:2:1 わたしがあなたに話そうとしている、断食にかかわるたとえを聞きなさい。22:2:2 ある人が、畑と多くのしもべを持っていて、畑の一部にぶどう園を造った。そして、忠実で、主人の気に入る、重んじられていた一人のしもべを選び、呼び寄せて言った。『わたしが造ったこのぶどう園を引き受けて、わたしが来るまで、これに支柱を立てよ。ぶどう園には、ほかのことをしてはならない。わたしのこの戒めを守れ。そうすれば、あなたはわたしのもとで自由の身となるだろう』そして、しもべの主人は旅に出て行った。22:2:3 主人が出て行った後、しもべはそれを引き受けて、ぶどう園に支柱を立てた。そして、ぶどう園の支柱を立て終えると、ぶどう園が雑草でいっぱいになっているのを見た。22:2:4 そこで、彼は心の中で考えて言った。『主人のこの戒めを、わたしは果たした。これからは、このぶどう園を掘り起こそう。掘り起こせば、もっと見栄えがよくなるだろう。雑草がなければ、ふさがれず、もっと実を結ぶだろう』彼は取りかかって、ぶどう園を掘り起こし、そこの雑草をみな抜き取った。すると、そのぶどう園は、ふさぐ雑草がなくなって、とても見栄えがよく、生き生きとしたものになった。22:2:5 しばらくして、しもべと畑の主人が来て、ぶどう園に入った。主人は、ぶどう園に見栄えよく支柱が立てられているのを見た。そのうえ、ぶどう園は掘り起こされて、雑草がみな抜き取られ、ぶどうの木が生き生きとしていた。それを見て、主人はしもべのわざをたいへん喜んだ。22:2:6 そこで、彼は、自分の相続人である愛する子と、自分の相談相手である友人たちとを呼び寄せた。そして、自分のしもべに命じたことと、なされているのを見いだしたこととを、みな彼らに話した。彼らもまた、主人がしもべについてしたあかしを、しもべと共に喜んだ。22:2:7 そして、主人は彼らに言った。『わたしは、わたしが命じた戒めをこのしもべが守るなら、彼に自由を与えると約束した。そして、彼はわたしの戒めを守り、そのうえ、ぶどう園に良いわざを加えて、たいへんわたしの気に入った。だから、彼が行ったこのわざに報いて、わたしは彼を、わたしの子と共同の相続人にしたい。彼は良いことを思いついて、それをなおざりにせず、かえって、それを果たしたからだ』22:2:8 主人の子は、しもべが自分と共同の相続人になるという、父のこの思いに同意した。22:2:9 数日の後、彼は宴会を開き、その宴会から多くの料理をしもべに送った。しもべは、主人から自分に送られてきた料理を受け取ると、自分に足りるだけを取り、残りを仲間のしもべたちに分け与えた。22:2:10 仲間のしもべたちは、料理を受け取って喜んだ。そして、彼が自分たちにこのようにしてくれたので、彼が主人のもとでもっと大きな恵みを得るようにと、彼のために祈り始めた。22:2:11 主人は、これらのことがみな起こったのを聞いて、再び、彼の行いをたいへん喜んだ。主人は再び友人たちと自分の子を呼び集め、主人から受け取った料理についてしもべがした行いを、彼らに知らせた。彼らは、しもべが主人の子と共同の相続人になることに、なおいっそう同意した」

第五のたとえ　3〜7章　断食の守り方とぶどう園のたとえの解き明かし

22:3:1 わたしは言った。「主よ、わたしは、これらのたとえを知りません。あなたがわたしに解き明かしてくださらなければ、分かることもできません」 22:3:2 彼は言った。「すべてを、あなたに解き明かしましょう。わたしがあなたと語ることも、みな解き明かします。 22:3:3 主の戒めを、あなたに示しましょう。また、神の戒めの外に何か善いことを行うなら、あなたは、もっと多くの栄光を自分のために得ます。そして、神のもとで、なるはずだったよりも栄光ある者となるでしょう。だから、神の戒めを守りながら、これらの務めをも加えるなら、あなたは喜ぶでしょう。ただし、わたしの戒めにしたがって、それらを保つならばのことです」 22:3:4 わたしは彼に言った。「主よ、あなたがわたしにお命じになることは、何でも守ります。あなたがわたしと共におられることを、知っているからです」彼は言った。「あなたは善を行うことにこれほどの熱意を持っているので、わたしはあなたと共にいましょう。また、この熱意を持っている者たちすべてと共にいましょう。 22:3:5 主の戒めが保たれているなら、この断食はたいへん良いものです。だから、あなたがこれから保とうとしているこの断食を、次のように守りなさい。 22:3:6 何よりもまず、あらゆる悪い言葉と、あらゆる悪い欲望から身を守りなさい。そして、この世のあらゆる空疎なことから、あなたの心を清めなさい。これらを守るなら、この断食は、あなたにとって完全なものとなるでしょう。 22:3:7 次のようにしなさい。書かれたことを成し遂げたうえで、断食するその日には、パンと水のほかは何も口にしてはなりません。そして、あなたが食べるはずだった料理から、その日に使うはずだった費用の額を計算しなさい。それを、やもめか、みなしごか、乏しい人に与えなさい。こうして、へりくだりなさい。あなたのへりくだりによって、受け取った人が自分の魂を満たし、あなたのために主に祈るためです。 22:3:8 だから、このように、わたしがあなたに命じたとおりに断食を果たすなら、あなたのいけにえは神のもとで受け入れられるでしょう。そして、この断食は書き記されるでしょう。また、このように行われる務めは、良く、晴れやかで、主に喜んで受け入れられるものです。 22:3:9 あなたは、あなたの子供たちと家の者すべてと共に、これらのことをこのように保ちなさい。それらを保つなら、あなたは幸いな者となるでしょう。また、これらを聞いて保つ者はみな、幸いな者となり、主に求めるものは何でも受けるでしょう」

22:4:1 わたしは彼に、そのたとえをわたしに明らかにしてくれるよう、しきりに願った。畑と主人とぶどう園のこと、ぶどう園に支柱を立てたしもべと支柱のこと、ぶどう園から抜き取られた雑草のことである。また、子と、相談相手である友人たちのことである。実際、これらはみな、何かのたとえであると、わたしは悟ったのである。 22:4:2 彼はわたしに答えて言った。「あなたは、尋ねることにかけて、ひどく身勝手です。あなたは、何一つ尋ねるべきではありません。あなたに明らかにされる必要があるなら、明らかにされるからです」わたしは彼に言った。「主よ、あなたがわたしに示してくださっても、明らかにしてくださらないものがあるとします。わたしはそれを無駄に見たことになり、それが何なのか分からないでしょう。同じように、たとえを語ってくださっても、解き明かしてくださらなければ、あなたから何かを聞いたのも無駄になるでしょう」 22:4:3 彼はまた、わたしに答えて言った。「神のしもべであって、自分の主を心のうちに持っている者はだれでも、主に悟りを求めて受け、どんなたとえも解き明かします。そして、たとえによって語られる主のことばが、その人に知られるようになります。けれども、祈ることに弱く、怠けている者たち、彼らは、疑って、主に求めようとしないのです。 22:4:4 けれども、主はあわれみに富んでおられて、ご自分に求めるすべての者に、絶えずお与えになります。あなたは、聖なる御使いによって力づけられ、その方からこのような祈りを受けていて、怠けてもいません。それなのに、どうして、主に悟りを求めて、主から受けないのですか」 22:4:5 わたしは彼に言った。「主よ、わたしは、あなたが共にいてくださるので、あな

たに求め、あなたに尋ねなければなりません。あなたが、わたしにすべてを示し、わたしと語ってくださるからです。もし、あなたなしにそれらを見たり聞いたりしていたなら、わたしは、明らかにされるよう、主に尋ねたことでしょう」

22:5:1 彼は言った。「あなたは、たとえの解き明かしを尋ねていて、ずる賢く、身勝手だと、先ほども、あなたに言いました。けれども、あなたはこれほど粘り強いので、畑のたとえと、それに続くほかのすべてのことを、あなたに解き明かしましょう。あなたがそれらを、すべての人に知らせるためです。では今、聞いて、それらを悟りなさい。 22:5:2 畑は、この世界です。畑の主人は、万物を造り、それを完成させ、力をお与えになった方です[1]。しもべは、神の子です。ぶどうの木は、その方がお植えになったこの民です。 22:5:3 支柱は、主の民を支えている、主の聖なる御使いたちです。ぶどう園から抜き取られた雑草は、神のしもべたちの不法です。主人が宴会からしもべに送った料理は、主がご自分の子によってご自分の民にお与えになった戒めです。相談相手である友人たちは、最初に造られた聖なる御使いたちです。主人の旅は、その方の来臨までに残っている時です」 22:5:4 わたしは彼に言った。「主よ、すべては大いなる、驚くべきもので、すべては栄光に満ちています。だから、どうしてわたしに、これらのことが分かったでしょうか。ほかのどんな人も、たとえたいへん悟りのある人であっても、これらのことは分かりようがありません。主よ、さらに、わたしがこれからお尋ねすることを、明らかにしてください」 22:5:5 彼は言った。「何か望むことがあるなら、言いなさい」わたしは言った。「主よ、どうして、神の子は、たとえの中で、しもべの姿で置かれているのですか」

22:6:1 彼は言った。「聞きなさい。神の子は、しもべの姿で置かれているのではありません。そうではなく、大きな権威と主権をもって置かれているのです」わたしは言った。「主よ、どのようにですか。わたしには分かりません」 22:6:2 彼は言った。「神がぶどう園をお造りになった、つまり民をお造りになって、ご自分の子にお委ねになったからです。そして、子は、彼らを守り保つために、御使いたちを彼らの上にお立てになりました。また、子ご自身が、多く労し、多くの労苦を忍んで、彼らの罪をお清めになりました。労苦や骨折りなしに掘り起こせるぶどう園は、一つもないからです。 22:6:3 だから、子ご自身が、民の罪をお清めになって、いのちの小道を彼らにお示しになりました。ご自分の父からお受けになった律法を、彼らにお与えになったのです。 22:6:4 では、主が、しもべの相続について、ご自分の子と栄光ある御使いたちを相談相手となさったことを、聞きなさい。 22:6:5 神は、先にあって、すべての造られたものを造った聖霊を、お望みになった肉体にお住まわせになりました[2]。だから、聖霊が住んだこの肉体は、品位と清さのうちを歩み、霊を少しも汚さずに、霊によく仕えたのです。 22:6:6 この肉体は、よく、清く生き、霊と共に労し、あらゆる事において霊と共に働いて、力強く雄々しくふるまいました。だから、神は、この肉体を、聖霊と共にある仲間としてお選びになったのです。この肉体が、地上で聖霊を持っている間、汚されなかったので、その歩みがお気に召したのです。 22:6:7 だから、神は、子と栄光ある御使いたちを相談相手となさいました。それは、この肉体もまた、霊に責められることなく仕えて、どこか宿る場所を得、仕えたことの報いを失ったと思われないためです。聖霊が住んだ肉体は、汚れもしみもないと見いだされるなら、みな報いを受けるのです。 22:6:8 これで、あなたは、このたとえの解き明かしも得たのです」

22:7:1 わたしは言った。「主よ、この解き明かしを聞いて、わたしは心が楽しくなりました」彼は言った。「では今、聞きなさい。あなたのこの肉体を、清く汚れのないものとして守りなさい。それは、肉体に住んでいる霊が肉体のためにあかしをし、あなたの肉体が義とされるためです。 22:7:2 あなたのこの肉体は朽ちるものだという考えが心に上って、何かの汚れのうちに肉体を悪用することのないよう、気をつけなさい。あなたの肉体を汚すなら、聖霊をも汚すことになります。また、肉体を汚すなら、あなたは生きることがないでしょう」 22:7:3 わたしは言った。「主よ、では、これらの言葉を聞く前に、以前に何かの無知があったとします。自分の肉体を汚したその人は、どうしたら救われるのでしょうか」彼は言った。「以前に知らずに犯したことについては、神だけが、いやしを与えることがおできになります。すべての権威は神のものだからです。 22:7:4 ただし、あなたがこれから先、自分の肉体も霊も汚さないならばのことです。どちらも共にあるもので、互いに離れて汚されることはありえないのです。だから、どちらも清く守りなさい。そうすれば、あなたは神に生きるでしょう」

訳注

1 古い訳の一つは、ここに『子は聖霊である』を加える。

2 古い訳には『万物に先立って造られた聖霊』とあるものがある。

第六のたとえ　享楽の御使いと罰の御使い

23:0:0 第六のたとえ

23:1:1 わたしは家に座って、自分が見たすべてのことについて主をあがめ、戒めについてあれこれと考えていた。戒めが美しく、力があり、晴れやかで、栄光あるもので、人の魂を救うことができる、ということである。そうしながら、わたしは心の中で言っていた。「これらの戒めのうちを歩むなら、わたしは幸いな者となるだろう。また、だれでもこれらのうちを歩む者は、幸いな者となるだろう」 23:1:2 わたしがこれらのことを心の中で語っていると、突然、彼がわたしのそばに座って、こう言うのが見えた。「わたしがあなたに命じた戒めについて、どうして思い迷うのですか。それは美しいものです。少しも思い迷ってはなりません。かえって、主への信仰を身にまといなさい。そうすれば、あなたは戒めのうちを歩むでしょう。わたしが、戒めのうちに、あなたを力づけるからです。23:1:3 これらの戒めは、これから悔い改めようとする者たちの益となります。彼らがそのうちを歩まないなら、その悔い改めは無駄になるからです。 23:1:4 だから、悔い改める者たちよ、あなたがたを押しつぶす、この世の悪を捨てなさい。あらゆる義の徳を身にまとえば、あなたがたは、これらの戒めを保つことができ、もう自分の罪を増し加えずにいられるでしょう。だから、わたしのこれらの戒めのうちを歩みなさい。そうすれば、あなたがたは神に生きるでしょう。これらのことはみな、わたしからあなたがたに語られたのです」 23:1:5 彼は、これらのことをわたしと語った後、わたしに言った。「野に行きましょう。羊の牧者たちを、あなたに見せましょう」わたしは言った。「主よ、行きましょう」そして、わたしたちはある平原に来た。すると、彼は若い牧者をわたしに見せた。その牧者は、サフラン色のひとそろいの衣を着ていた。 23:1:6 彼は、たいへん多くの羊を飼っていた。この羊たちは、享楽にふけって、ひどくほしいままに暮らしているかのようだった。そして、晴れやかに、あちらこちらと跳ね回っていた。牧者自身も、自分の群れのことで、とても晴れやかだった。牧者の顔つきそのものが、たいへん晴れやかで、彼は羊のあいだを走り回っていた[1]。

23:2:1 彼はわたしに言った。「この牧者が見えますか」わたしは言った。「主よ、見えます」彼は言った。「これは、享楽と欺きの御使いです。この御使いは、神のしもべたちの魂を押しつぶします。また、悪い欲望で彼らを欺いて、彼らを倒し、真実から離れさせるのです。彼らは、その欲望のうちに滅びます。 23:2:2 彼らは、生ける神の戒めを忘れ、欺きと空疎な享楽のうちを歩み、この御使いによって滅ぼされるのです。ある者は死に至り、ある者は損なわれるに至ります」 23:2:3 わたしは彼に言った。「主よ、死に至るとは何か、損なわれるに至るとは何か、わたしは知りません」彼は言った。「聞きなさい。あなたが見た、晴れやかで跳ね回っている羊は、神から完全に引き離され、この世の欲望に自分を引き渡した者たちです。だから、彼らには、いのちの悔い改めがありません。自分の罪を増し加え、神の御名を冒涜したからです。だから、このような者たちには死があるのです。 23:2:4 また、あなたは、跳ね回らず、一つの所で草を食べている羊を見ました。それは、享楽と欺きに自分を引き渡しはしたものの、主を少しも冒涜しなかった者たちです。だから、彼らは、真実から損なわれているのです。彼らには、悔い改めの望みがあり、そのうちに生きることができます。だから、損なわれることには、いくらかの若返りの望みがあります。しかし、死には永遠の滅びがあるのです」 23:2:5 わたしはまた少し進んだ。すると、彼は、大きな牧者をわたしに見せた。その牧者は、猛々しいような顔つきで、白い山羊の皮をまとっていた。肩には何かの袋を掛け、節のある、ひどく堅い杖と、大きなむちを持っていた。そして、ひどく苦々しい目つきをしていた。それで、わたしは彼を恐れたほどだった。そのような目つきをしていたのである。 23:2:6 そこで、この牧者は、若い牧者から羊を受け取っていった。ほしいままに暮らし、享楽にふけってはいたが、跳ね回ってはいなかった、あの羊である。そして、羊をある所

へ投げ入れた。そこは、崖が多く、いばらとあざみだらけの所だった。それで、羊はいばらとあざみから抜け出すことができず、かえって、いばらとあざみに絡まった。23:2:7 そこで、羊は絡まったまま、いばらとあざみの中で草を食べていた。そして、彼に打たれて、ひどくみじめになっていた。彼は、羊をあちらこちらと追い回し、休みを与えなかった。その羊は、少しも落ち着いていられなかった。

23:3:1 そこで、わたしは、羊がこのようにむちで打たれ、みじめになっているのを見て、羊のことで悲しんでいた。羊がこのように責め苦を受け、少しも息つく暇がなかったからである。23:3:2 わたしは、わたしと語っている牧者に言った。「主よ、これほど無慈悲で苦々しく、この羊を少しも深くあわれまない、この牧者はだれなのですか」彼は言った。「これは、罰の御使いです。正しい御使いたちの一人ですが、罰の役に就いているのです。23:3:3 だから、この御使いは、神から迷い出て、この世の欲望と欺きのうちを歩んだ者たちを受け取ります。そして、恐ろしいさまざまな罰で、彼らをそのふさわしいとおりに罰するのです」23:3:4 わたしは言った。「主よ、このさまざまな罰がどのようなものなのか、知りたいのです」彼は言った。「さまざまな責め苦と罰を聞きなさい。その責め苦は、暮らしの中で受けるものです。ある者は損失で、ある者は乏しさで、ある者はさまざまな弱さで、ある者はあらゆる落ち着きのなさで罰せられるからです。また、ある者は、ふさわしくない者たちから辱められ、ほかの多くの事業で苦しみを受けるのです。23:3:5 多くの者は、自分の思いが落ち着かず、多くのことに手を出しますが、何一つはかどらないのです。そして、自分たちは事業がうまくいかない、と言います。自分が悪い行いをしたことは心に上らず、かえって主を責めるのです。23:3:6 だから、彼らは、あらゆる患難に苦しめられると、良い懲らしめのために、わたしに引き渡されます。そして、主への信仰のうちに強められ、残りの生涯の日々、清い心で主に仕えます。彼らが悔い改めるなら、そのとき、自分の行った悪い行いが心に上ります。そして、そのとき、神をあがめて、神は正しい審判者だと言います。自分たちはそれぞれ、自分の行いにしたがって、正しく苦しみを受けたと言うのです。そして、それから後は、自分の清い心で主に仕えます。また、あらゆる事業がうまくいき、求めるものは何でも、主から受けます。そして、そのとき、自分がわたしに引き渡されたことについて、主をあがめます。そして、もう悪いことは何一つ受けないのです」

23:4:1 わたしは彼に言った。「主よ、さらに、このことをわたしに明らかにしてください」彼は言った。「何を尋ね求めているのですか」わたしは言った。「主よ、享楽にふけって欺かれている者たちは、その享楽と欺きと同じ時間だけ、責め苦を受けるのですか」彼はわたしに言った。「同じ時間だけ、責め苦を受けます」23:4:2 わたしは言った。「主よ、それでは、ごくわずかしか責め苦を受けません。このように享楽にふけって神を忘れる者たちは、七倍の責め苦を受けるべきだからです」23:4:3 彼はわたしに言った。「あなたは分別がなく、責め苦の力が分かっていません」わたしは言った。「主よ、分かっていたなら、明らかにしてくださるよう、お尋ねしたりはしなかったのです」彼は言った。「両方の力を聞きなさい。23:4:4 享楽と欺きの時間は、一時間です。しかし、責め苦の一時間は、三十日の力を持っています。だから、だれかが一日、享楽にふけって欺かれ、一日、責め苦を受けるなら、その責め苦の一日は、まる一年に当たります。だから、だれかが享楽にふけった日の数だけの年数、その人は責め苦を受けるのです。だから、享楽と欺きの時間はごくわずかで、罰と責め苦の時間は長いことが、あなたには分かります」

23:5:1 わたしは言った。「主よ、欺きと享楽と責め苦の時間について、わたしはまだ少しも分かっていません。もっとはっきりと、わたしに明らかにしてください」23:5:2 彼はわたしに答えて言った。「あなたの無分別は粘り強いのです。あなたは、自分の心を清めて神に仕えようとしません。時が満ちて、あなたが分別のない者と見いだされることのないよう、気をつけなさい。では、あなたが望むとおり、それが分かるように聞きなさい。23:5:3 一日、享楽にふけって欺かれ、自分の望むことを行う者は、多くの無分別を身にまとっていて、自分のしている行いが分かりません。次の日には、前の日に自分が何をしたかを忘れるからです。享楽と欺きは、身にまとった無分別のゆえに、記憶を残さないのです。しかし、罰と責め苦が一日、人に取りつくと、その人は一年に至るまで罰せられ、責め苦を受けます。罰と責め苦は、大きな記憶を残すからです。23:5:4 だから、その人は、まる一年、責め苦を受けて罰せられると、そのとき、享楽と欺きを思い起こ

します。そして、それらのゆえに悪いことを受けているのだと知ります。だから、享楽にふけって欺かれる人はみな、このように責め苦を受けるのです。いのちを持っていながら、自分を死に引き渡したからです」23:5:5 わたしは言った。「主よ、どのような享楽が害になるのですか」彼は言った。「人が喜んですることは、どんな行いも、その人にとって享楽です。短気な人も、自分の情欲を満たして、享楽にふけっているのです。姦淫する者、酒に酔う者、悪口を言う者、偽る者、貪欲な者、奪う者、これらに似たことをする者も、自分の病を満たしています。だから、その人は、自分の行いに享楽を覚えているのです。23:5:6 これらの享楽はみな、神のしもべたちにとって害になります。だから、罰せられ、責め苦を受けている者たちは、これらの欺きのゆえに苦しみを受けているのです。23:5:7 しかし、人を救う享楽もあります。多くの者が、善を行いながら、自分の快さに運ばれて、享楽を覚えているからです。だから、この享楽は、神のしもべたちの益となり、そのような人にいのちをもたらします。しかし、先に述べた害になる享楽は、彼らに責め苦と罰をもたらします。そして、そこに居続けて悔い改めないなら、自分に死をもたらすのです」

訳注

1 古い引用は、ここに『一つの所にいて跳ね回らない羊も見た』を加える。

第七のたとえ　悔い改めた者の苦しみ

24:0:0 第七のたとえ

24:1:1 数日の後、わたしは、前に牧者たちを見たのと同じ平原で、彼を見た。彼はわたしに言った。「何を尋ね求めているのですか」わたしは言った。「主よ、罰する牧者に、わたしの家から出て行くようお命じいただくために、参りました。その牧者が、わたしをひどく苦しめるからです」彼は言った。「あなたは苦しめられなければなりません。栄光ある御使いが、あなたのことをそのように命じたからです。御使いは、あなたが試みられることを望んでいるのです」わたしは言った。「主よ、いったい、わたしは、この御使いに引き渡されるほどの、どんな悪いことをしたのですか」24:1:2 彼は言った。「聞きなさい。あなたの罪は多いのですが、この御使いに引き渡されるほど多くはありません。そうではなく、あなたの家の者たちが、大きな不法と罪を行ったのです。そして、栄光ある御使いは、彼らの行いを苦々しく思いました。そのため、あなたがしばらくのあいだ苦しめられるよう命じたのです。彼らもまた悔い改めて、この世のあらゆる欲望から自分を清めるためです。だから、彼らが悔い改めて清められると、そのとき、罰の御使いはあなたから離れます」24:1:3 わたしは彼に言った。「主よ、栄光ある御使いが苦々しくお思いになるほどのことを、彼らが行ったのなら、わたしは何をしたのですか」彼は言った。「彼らは、家のかしらであるあなたが苦しめられる以外のしかたでは、苦しめられることができません。あなたが苦しめられると、どうしても彼らも苦しめられるからです。しかし、あなたが落ち着いているなら、彼らは何の患難も受けることができません」24:1:4 わたしは言った。「けれども、主よ、ご覧ください。彼らは心を尽くして悔い改めました」彼は言った。「彼らが心を尽くして悔い改めたことは、わたしも知っています。それでは、悔い改める者たちの罪がすぐに赦されると、あなたは思うのですか。決してそうではありません。かえって、悔い改める者は、自分の魂に責め苦を与え、自分のすべての行いにおいて力強くへりくだらなければなりません。また、あらゆるさまざまな患難のうちに苦しめられなければならないのです。そして、自分にやって来る患難に耐えるなら、万物を造り、お力づけになった方は、必ず深くあわれんでくださいます。そして、その人に何かのいやしをお与えになります。24:1:5 このことは必ずそうなります。ただし、悔い改める者の心が、あらゆる悪い事から清いのを、その方がご覧になるならばのことです。あなたとあなたの家にとっては、今苦しめられることがためになります。しかし、どうして、あなたに多くのことを言いましょうか。あなたは苦しめられなければなりません。あなたをわたしにゆだねた、主のあの御使いが命じたとおりです。そして、このことについて主に感謝しなさい。主が、あなたに患難を前もって明らかにするのにふさわしい者と、あなたをみなしてくださったからです。あなたが前もって患難を知って、力強く耐えるためです」24:1:6 わたしは彼に言った。「主よ、あなたがわたしと共にいてください。そうすれば、わたしはあらゆる患難に耐えることができるでしょう」彼は言った。「わたしは、あなたと共にいます。また、罰する御使いにも、あなたをもっと軽く苦しめるよう頼みましょう。しかし、あなたはわずかのあいだ苦しめられ、また元どおり、あなたの家に戻されます。ただ、へりくだって、まったく清い心で主への務めを果たしながら、とどまり続けなさい。あなたの子供たちも、あなたの家の者たちもです。また、わたしがあなたに命じる、わたしの戒めのうちを歩みなさい。そうすれば、あなたの悔い改めは、力強く、清いものとなることができるでしょう。24:1:7 そして、あなたが家の者たちと共にこれらの戒めを守るなら、あらゆる患難があなたから離れます。また、わたしのこれらの戒めのうちを歩む者がだれであれ、そのすべての者から、患難は離れます」

第八のたとえ　1〜3章　大きな柳の木と小枝

25:0:0 第八のたとえ

25:1:1 彼はわたしに、平原と山々を覆う、大きな柳の木を見せた。そして、主の名によって召された者たちがみな、柳の陰に来ていた。25:1:2 柳のそばには、主の御使いが立っていた。栄光ある、たいへん背の高い御使いで、大きな鎌を持っていた。そして、柳から枝を切っては、柳に覆われている民に渡していた。御使いが彼らに渡したのは、五十センチほどの短い小枝だった。25:1:3 みなが小枝を受け取った後、御使いは鎌を置いた。そして、あの木は、わたしが前に見たとおり、無傷だった。25:1:4 わたしは心の中で驚いて言った。「これほど多くの枝が切られたのに、どうして木は無傷なのだろうか」牧者はわたしに言った。「これほど多くの枝が切られたのに、この木が無傷のままだったことに、驚いてはなりません。すべてを見るなら、それが何なのかが、あなたに明らかにされるでしょう」25:1:5 民に小枝を渡した御使いは、今度は、それを返すよう彼らに求めた。彼らは、受け取ったときと同じ順に、御使いのもとへ呼ばれ、一人一人が小枝を返した。主の御使いはそれを受け取って、調べた。25:1:6 ある者たちからは、枯れて、虫に食われたような小枝を受け取った。御使いは、そのような小枝を渡した者たちに、分かれて立つよう命じた。25:1:7 ほかの者たちは、枯れてはいたが、虫に食われてはいない小枝を渡した。御使いは、この人たちにも分かれて立つよう命じた。25:1:8 ほかの者たちは、半分枯れた小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。25:1:9 ほかの者たちは、半分枯れて、ひびの入った小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。25:1:10 ほかの者たちは、緑で、ひびの入った小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。25:1:11 ほかの者たちは、半分が枯れ、半分が緑の小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。25:1:12 ほかの者たちは、三分の二が緑で、三分の一が枯れた小枝を持って来た。この人たちも分かれて立った。25:1:13 ほかの者たちは、三分の二が枯れ、三分の一が緑の小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。25:1:14 ほかの者たちは、ほとんど全体が緑の小枝を渡した。小枝のごくわずかな部分、つまり先端だけが枯れていた。また、小枝にはひびが入っていた。この人たちも分かれて立った。25:1:15 ほかの者たちの小枝は、ごくわずかな部分が緑で、残りは枯れていた。この人たちも分かれて立った。25:1:16 ほかの者たちは、御使いから受け取ったときのままの、緑の小枝を持ってやって来た。群衆の大部分は、そのような小枝を渡した。御使いはこの人たちをたいへん喜んだ。この人たちも分かれて立った。25:1:17 ほかの者たちは、緑で、芽の出た小枝を渡した。この人たちも分かれて立った。御使いはこの人たちをたいへん喜んだ。25:1:18 ほかの者たちは、緑で、芽の出た小枝を渡した。その芽には、何か実のようなものがついていた。小枝がそのようなものと見いだされた人々は、たいへん晴れやかだった。御使いはこの人たちのことで喜びにあふれ、牧者もこの人たちのことでたいへん晴れやかだった。

25:2:1 主の御使いは、冠を持って来るよう命じた。すると、しゅろで作られたような冠が運ばれて来た。御使いは、芽と、いくらかの実のある小枝を渡した人たちに冠をかぶせ、彼らを塔へ行かせた。25:2:2 また、緑で、芽の出た小枝を渡したが、その芽に実のなかったほかの人たちをも、印を与えて、塔へ送った。25:2:3 塔へ行く者たちはみな、雪のように白い、同じ衣を着ていた。25:2:4 また、受け取ったときのままの緑の小枝を渡した人たちにも、衣と印を与えて、行かせた。25:2:5 これらのことを終えた後、御使いは牧者に言った。「わたしは行きます。あなたは、この人たちを、一人一人が住むのにふさわしいとおりに、城壁へ行かせなさい。彼らの小枝を注意深く調べてから、行かせなさい。注意深く調べなさい。だれもあなたを素通りすることのないよう、気をつけなさい。だれかがあなたを素通りするなら、わたしが祭壇のところで彼らを試します」こう牧者に言って、御使いは去って行った。25:2:6 御使いが去った後、牧者はわたしに言った。「みなの小枝を取って、植えましょう。そのうちのいくつかが生きることができるかどうか、見るためです」わたしは彼に言った。「主よ、これらの枯れたもの

が、どうして生きることができるのでしょうか」 25:2:7 彼はわたしに答えて言った。「この木は柳で、生きることを好む種類です。だから、植えられて、小枝が少しでも湿り気を受けるなら、そのうちの多くは生きるでしょう。それから、それらに水を注いでもみましょう。そのうちのどれかが生きることができれば、わたしはそれらと共に喜びます。しかし、生きなくても、わたしが怠慢な者と見いだされることはないでしょう」 25:2:8 牧者は、彼らをそれぞれが立ったとおりに呼ぶよう、わたしに命じた。彼らは組ごとにやって来て、牧者に小枝を渡した。牧者は小枝を受け取って、組ごとにそれを植えた。そして、植えた後、たくさんの水をそれに注いだ。水のために小枝が見えなくなるほどだった。 25:2:9 小枝に水を与えた後、彼はわたしに言った。「行きましょう。そして、数日の後に戻って来て、すべての小枝を見回りましょう。この木をお造りになった方は、この木から枝を受け取った者たちがみな、生きることを望んでおられるからです。わたしも、これらの小枝が湿り気を受け、水を与えられて、その大部分が生きるだろうと、望みを抱いています」

25:3:1 わたしは彼に言った。「主よ、この木が何なのか、わたしにお知らせください。この木のことで当惑しているからです。これほど多くの枝が切られたのに、木は無傷で、そこから切られたものは何も見えません。だから、このことで当惑しているのです」 25:3:2 彼は言った。「聞きなさい。平原と山々と全地を覆っているこの大きな木は、全世界に与えられた神の律法です。そして、この律法は、地の果てまで宣べ伝えられた神の子です。その陰にいる民は、宣教を聞いて、その方を信じた者たちです。 25:3:3 大いなる、栄光ある御使いは、この民に対する権威を持ち、彼らを治めているミカエルです。この御使いこそ、信じる者たちの心に律法を与える者だからです。だから、御使いは、自分が律法を与えた者たちが、はたしてそれを保ったかどうか、彼らのもとを見回ります。 25:3:4 あなたは、一人一人の小枝を見ています。小枝は律法だからです。だから、あなたは、役に立たなくなった多くの小枝を見ています。そして、その人たちがみな、律法を保たなかった者たちだと知るでしょう。また、一人一人の住まいを見るでしょう」 25:3:5 わたしは彼に言った。「主よ、なぜ御使いは、ある人たちを塔へ行かせ、ある人たちをあなたのもとにお残しになったのですか」彼は言った。「御使いは、自分から受けた律法を破った者たちをみな、悔い改めのために、わたしの権威の下に残しました。しかし、すでに律法に喜ばれ、律法を保ってきた者たちはみな、自分の権威の下に置いています」 25:3:6 わたしは言った。「主よ、では、冠をかぶって塔へ行く人たちは、どういう人たちなのですか」彼は言った。「悪魔と格闘して、これに勝った者はみな、冠をかぶっています。この人たちは、律法のために苦しみを受けた者たちです。 25:3:7 ほかの者たちは、自分たちも緑で芽の出た小枝を渡しましたが、その芽には実がありませんでした。この人たちは、律法のために苦しめられはしたが、苦しみを受けはせず、自分たちの律法を否みもしなかった者たちです。 25:3:8 受け取ったときのままの緑の小枝を渡した者たちは、品位があって正しい者たちです。彼らは、清い心でたいへんよく歩み、主の戒めを守ってきました。そのほかのことは、植えられて水を与えられたこれらの小枝を、わたしが調べるときに、あなたは知るでしょう」

第八のたとえ　4〜7章　植えた小枝の調べと、その解き明かし

25:4:1 数日の後、わたしたちはその場所に来た。牧者は御使いの場所に座り、わたしは彼のそばに立った。彼はわたしに言った。「前掛けを締めて、わたしに仕えなさい」わたしは、荒布で作られた、清い前掛けを締めた。25:4:2 彼は、わたしが前掛けを締めて、彼に仕える用意ができているのを見て、言った。「小枝が植えられている人たちを呼びなさい。組にしたがって、それぞれが小枝を渡したとおりに呼ぶのです」わたしは平原へ出て行き、みなを呼んだ。そして、みなが組ごとに立った。25:4:3 彼は彼らに言った。「一人一人が、自分の小枝を引き抜いて、わたしのところへ持って来なさい」25:4:4 最初に、枯れて、虫に食われた小枝を持っていた者たちが渡した。それらの小枝は、枯れて、虫に食われたままだと見いだされたので、彼は彼らに、分かれて立つよう命じた。25:4:5 次に、枯れてはいたが、虫に食われてはいない小枝を持っていた者たちが渡した。そのうちのある者たちは、緑の小枝を渡した。ある者たちは、枯れて、虫に食われたような小枝を渡した。そこで、彼は、緑の小枝を渡した者たちには、分かれて立つよう命じた。枯れて、虫に食われた小枝を渡した者たちには、最初の者たちと一緒に立つよう命じた。25:4:6 次に、半分枯れて、ひびの入った小枝を持っていた者たちが渡した。そのうちの多くは、緑で、ひびの入っていない小枝を渡した。ある者たちは、緑で、芽の出た小枝を渡した。その芽には、冠をかぶって塔へ行った者たちが持っていたような実がついていた。ある者たちは、枯れて、虫に食われた小枝を渡した。ある者たちは、枯れてはいたが、虫に食われていない小枝を渡した。ある者たちは、もとのままの、半分枯れて、ひびの入った小枝を渡した。彼は彼らに、一人一人分かれて、ある者たちは自分の組へ、ある者たちは別に立つよう命じた。

25:5:1 次に、緑ではあるが、ひびの入った小枝を持っていた者たちが渡した。この人たちはみな、緑の小枝を渡し、自分の組に立った。牧者はこの人たちを喜んだ。みなが変わって、自分たちのひびを捨て去ったからだ。25:5:2 半分が緑で、半分が枯れた小枝を持っていた者たちも渡した。すると、ある者たちの小枝は、完全に緑と見いだされた。ある者たちのは半分枯れていた。ある者たちのは、枯れて、虫に食われていた。ある者たちのは、緑で、芽が出ていた。この人たちはみな、それぞれ自分の組へ行かされた。25:5:3 次に、三分の二が緑で、三分の一が枯れた小枝を持っていた者たちが渡した。そのうちの多くは、緑の小枝を渡した。多くは半分枯れた小枝を渡し、ほかの者たちは、枯れて、虫に食われた小枝を渡した。この人たちはみな、自分の組に立った。25:5:4 次に、三分の二が枯れ、三分の一が緑の小枝を持っていた者たちが渡した。そのうちの多くは、半分枯れた小枝を渡した。ある者たちは、枯れて、虫に食われた小枝を渡し、ほかの者たちは、半分枯れて、ひびの入った小枝を渡した。緑の小枝を渡した者はわずかだった。この人たちはみな、自分の組に立った。25:5:5 緑で、ごくわずかな部分が枯れ、ひびの入った小枝を持っていた者たちが渡した。そのうちのある者たちは、緑の小枝を渡した。ある者たちは、緑で、芽の出た小枝を渡した。この人たちも、自分たちの組へ行った。25:5:6 次に、ごくわずかな部分が緑で、残りの部分が枯れた小枝を持っていた者たちが渡した。この人たちの小枝は、その大部分が、緑で芽が出ていて、芽には実がついていると見いだされた。ほかの小枝は、全体が緑だった。これらの小枝を、牧者はたいへん大いに喜んだ。小枝がそのように見いだされたからだ。この人たちは、それぞれ自分の組へ行った。

25:6:1 牧者はみなの小枝を調べた後、わたしに言った。「この木は生きることを好む、とあなたに言いました。どれほど多くの者が悔い改めて救われたか、分かりますか」わたしは言った。「主よ、分かります」彼は言った。「主の豊かなあわれみが大いなる、栄光あるものであることを、あなたが見るためです。そして、主は、悔い改めにふさわしい者たちに、霊をお与えになりました」25:6:2 わたしは言った。「主よ、では、なぜ、みなが悔い改めたわけではないのですか」彼は言った。「主は、ある人たちの心が清くなり、心を尽くして主に仕えようとして

いるのをご覧になりました。その人たちには、悔い改めをお与えになりました。しかし、偽って悔い改めようとしている人たちの、腹黒さと悪をご覧になりました。その人たちには、悔い改めをお与えになりませんでした。彼らがまた主の御名を汚すことのないためです」 25:6:3 わたしは彼に言った。「主よ、では今、小枝を渡した者たちが、それぞれどういう人たちなのか、また彼らの住まいを、わたしに明らかにしてください。信じて印を受けながら、それを壊して、無傷に保たなかった者たちが、これを聞いて、自分の行いを知り、悔い改めるためです。そして、あなたから印を受けて、主をあがめるためです。主が彼らを深くあわれんで、彼らの霊を新たにするために、あなたを遣わしてくださったからです」 25:6:4 彼は言った。「聞きなさい。小枝が枯れて、虫に食われていると見いだされた者たちは、背いた者たち、また教会を裏切った者たちです。自分たちの罪のうちに主を冒涜し、そのうえ、自分たちの上に唱えられた主の御名を恥じた者たちです。だから、この人たちは、神に対して、完全に滅びたのです。彼らは、あなたが彼らに語った言葉を聞きました。それは、わたしがあなたに命じた言葉です。それなのに、彼らのうちのだれ一人として悔い改めなかったことが、あなたには分かります。このような者たちから、いのちは離れたのです。 25:6:5 枯れてはいたが、虫に食われていない小枝を渡した者たちも、彼らに近い者たちです。彼らは偽善者で、異なる教えを持ち込み、神のしもべたちを誤らせていたからです。特に、罪を犯した者たちを誤らせ、彼らが悔い改めることを許さず、かえって愚かな教えによって彼らを説き伏せていました。だから、この人たちには、悔い改める望みがあります。 25:6:6 彼らのうちの多くが、すでに悔い改めているのを、あなたは見ています。わたしが彼らに自分の戒めを語ったときからです。そして、彼らはこれからも悔い改めるでしょう。しかし、悔い改めない者たちはみな、自分のいのちを失いました。彼らのうち悔い改めた者たちはみな、善い者となり、彼らの住まいは第一の城壁の中となりました。ある者たちは、塔にまで上りました。だから、罪の悔い改めにはいのちがあり、悔い改めないことには死があることが、あなたには分かります。

25:7:1 半分枯れた小枝を渡し、その小枝にひびがあった者たちについても聞きなさい。小枝が半分枯れていた者たちは、二心の者です。生きてもおらず、死んでもいないからです。 25:7:2 半分枯れて、そこにひびの入った小枝を持っていた者たちは、二心の者であり、悪口を言う者でもあります。決して自分たちのあいだで平和でなく、かえっていつも仲たがいしています。しかし、この人たちにも悔い改めが残されています。彼らのうちのある者たちが、すでに悔い改めているのを、あなたは見ています。そして、彼らには、まだ悔い改めの望みがあります。 25:7:3 彼らのうち悔い改めた者たちはみな、塔に住まいを持つでしょう。彼らのうち、より遅く悔い改めた者たちはみな、城壁の中に住むでしょう。しかし、悔い改めず、かえって自分の行いに堅く立ち続ける者たちはみな、必ず死ぬでしょう。 25:7:4 緑で、ひびの入った小枝を渡した者たちは、いつも忠実で、善い者でした。しかし、第一の地位と、何かの誉れについて、互いのあいだにいくらかのねたみを持っていました。けれども、この人たちはみな愚かです。第一の地位について、互いのあいだでねたみを持っているからです。 25:7:5 しかし、この人たちも、善い者だったので、わたしの戒めを聞いて、自分を清め、すぐに悔い改めました。だから、彼らの住まいは塔の中となりました。しかし、だれかがまた仲たがいに戻るなら、塔から追い出され、自分のいのちを失うでしょう。 25:7:6 いのちは、主の戒めを守る者たちみなのものです。戒めの中には、第一の地位や何かの誉れについてのことはなく、辛抱強さと、人のへりくだりについてのことがあるのです。だから、このような者たちのうちに主のいのちがあり、仲たがいする者たちと律法に背く者たちのうちには死があります」

第八のたとえ　8～11章　残りの小枝の解き明かしと、悔い改めを告げる命令

25:8:1「半分が緑で、半分が枯れた小枝を渡した者たちは、商売にまみれ、聖徒たちに結びつかない者たちです。そのため、彼らの半分は生きていて、半分は死んでいるのです。25:8:2だから、多くの者が、わたしの戒めを聞いて、悔い改めました。ともかく、悔い改めた者たちはみな、その住まいが塔の中にあります。しかし、彼らのうちのある者たちは、完全に離れてしまいました。だから、この人たちには悔い改めがありません。自分の商売のゆえに、主を冒涜し、否んだからです。だから、彼らは、自分の行った悪のゆえに、自分のいのちを失いました。25:8:3また、彼らのうちの多くは、思い迷いました。この人たちには、すぐに悔い改めるなら、まだ悔い改めがあります。そして、彼らの住まいは塔の中となるでしょう。しかし、より遅く悔い改めるなら、城壁の中に住むでしょう。悔い改めないなら、この人たちも、自分のいのちを失ったことになります。25:8:4三分の二が緑で、三分の一が枯れた小枝を渡した者たちは、さまざまな否み方で否んだ者たちです。25:8:5だから、彼らのうちの多くは、悔い改めて、塔に住むために去って行きました。しかし、多くは、神から完全に離れました。この人たちは、生きることを完全に失いました。また、彼らのうちのある者たちは、思い迷い、仲たがいしました。だから、この人たちには、すぐに悔い改めて、自分の快楽に居続けないなら、悔い改めがあります。しかし、自分の行いに居続けるなら、この人たちも、自分に死をもたらします。

25:9:1三分の二が枯れ、三分の一が緑の小枝を渡した者たちは、信者になった者たちです。しかし、富んで、異邦人のあいだで誉れある者となりました。彼らは、大きな高慢を身にまとい、思い上がる者となりました。そして、真実を置き去りにし、正しい者たちに結びつかず、かえって異邦人と共に暮らしました。そして、この道のほうが、彼らには快いものとなりました。けれども、神から離れはせず、かえって、信仰の行いを行わずに、信仰に堅く立ち続けました。25:9:2だから、彼らのうちの多くは悔い改め、彼らの住まいは塔の中となりました。25:9:3しかし、ほかの者たちは、完全に異邦人と共に暮らし、異邦人のむなしい考えに損なわれて、神から離れました。そして、異邦人の行いを行いました。この人たちは、異邦人と共に数えられたのです。25:9:4また、彼らのうちのほかの者たちは、自分のした行いのゆえに、救われることを望めずに、思い迷いました。ほかの者たちは、思い迷って、自分たちのあいだに分裂を起こしました。だから、自分の行いのゆえに思い迷ったこの人たちには、まだ悔い改めがあります。ただし、彼らの悔い改めは、すぐでなければなりません。彼らの住まいが塔の中となるためです。しかし、悔い改めず、かえって快楽に居続ける者たちには、死が近いのです。

25:10:1緑で、先端だけが枯れて、ひびの入った小枝を渡した者たちは、いつも善い者で、忠実で、神のもとで栄光ある者でした。しかし、小さな欲望のゆえに、また互いに対して小さな責める思いを持っていたので、ごくわずかに罪を犯してしまいました。けれども、わたしの言葉を聞いて、その大部分がすぐに悔い改めました。そして、彼らの住まいは塔の中となりました。25:10:2しかし、彼らのうちのある者たちは思い迷い、ある者たちは、思い迷って、より大きな仲たがいを起こしました。だから、この人たちのうちには、悔い改めの望みがあります。いつも善い者だったからです。彼らのうちで死ぬ者は、めったにいないでしょう。25:10:3枯れていて、ごくわずかな部分が緑の小枝を渡した者たちは、ただ信じただけで、不法の行いを行った者たちです。しかし、決して神から離れず、喜んで御名を負いました。そして、神のしもべたちを、喜んで自分の家に迎え入れました。だから、この悔い改めのことを聞いて、ためらわずに悔い改めました。そして、あらゆる徳と義を行っています。25:10:4彼らのうちのある者たちは、自分のした行いを知っているので、恐れてもいます[1]。だから、この人たちみなの住まいは、塔の中となるでしょう」

25:11:1 彼は、すべての小枝の解き明かしを終えた後、わたしに言った。「行って、悔い改めて神に生きるよう、みなに告げなさい。主は、深くあわれんで、みなに悔い改めを与えるために、わたしをお遣わしになったからです。もっとも、ある者たちは、自分の行いのゆえに、ふさわしくありません。けれども、主は辛抱強くあって、ご自分の御子によって召された者たちが救われることを望んでおられるのです」 25:11:2 わたしは彼に言った。「主よ、これを聞いて、みなが悔い改めることを、わたしは望んでいます。一人一人が、自分の行いを知り、神を恐れて、悔い改めると、わたしは確信しているからです」 25:11:3 彼はわたしに答えて言った。「心を尽くして悔い改め、先に述べた自分の悪から自分を清め、もう自分の罪を少しも重ねない者たちがいます。彼らはみな、主から以前の罪のいやしを受け、神に生きるでしょう。ただし、これらの戒めについて思い迷わないならばのことです。しかし、自分の罪を重ね、この世の欲望のうちを歩む者はみな、自分を死に定めるでしょう。 25:11:4 あなたは、わたしの戒めのうちを歩みなさい。そうすれば、神に生きるでしょう。また、これらの戒めのうちを歩み、正しく行う者はみな、神に生きるでしょう」 25:11:5 彼は、これらのことをすべてわたしに示し、語った後、わたしに言った。「残りのことは、数日の後に示しましょう」

訳注

1 ここは本文が欠けているらしく、古い訳には『喜んで苦しみを受ける』とある。

第九のたとえ　1〜3章　十二の山と、岩の上に建てられ始める塔

26:0:0 第九のたとえ

26:1:1 わたしが、牧者、すなわち悔い改めの御使いの戒めとたとえを書いた後、彼がわたしのところに来て、わたしに言った。「教会の姿であなたと語った聖霊があなたに見せたものを、ことごとく、あなたに見せたいのです。その霊は、神の子だからです。26:1:2 あなたは、肉体がまだ弱かったので、御使いによっては示されなかったのです。だから、あなたは、霊によって力づけられ、自分の力において強くなって、御使いをも見ることができるほどになりました。そこで、そのときには、塔の建物が、教会によってあなたに明らかにされたのです。あなたは、すべてを、おとめから見せられるかのように、よく、品位をもって見たのです。しかし今は、同じ霊によってではありますが、御使いから見せられて見ています。26:1:3 ただ、あなたは、すべてのことを、わたしからもっと詳しく学ばなければなりません。わたしは、栄光ある御使いによって、あなたの家に住むよう与えられもしたのです。それは、あなたが、以前のように少しもおびえることなく、すべてを力強く見るためです」26:1:4 彼は、わたしをアルカディアに、乳房のような形をしたある山に連れて行った。そして、わたしを山の頂に座らせ、大きな平原を見せた。平原の周りには、十二の山があった。山々は、それぞれ違う姿をしていた。26:1:5 第一の山は、すすのように黒かった。第二の山は、はげていて、草がなかった。第三の山は、いばらとあざみで満ちていた。26:1:6 第四の山には、半分枯れた草があった。草の上の方は緑で、根もとの方は枯れていた。また、ある草は、日が照りつけると、枯れてしまうのだった。26:1:7 第五の山には、緑の草があったが、でこぼこだった。第六の山は、すっかりひびだらけだった。小さなひびもあれば、大きなひびもあった。ひびには草が生えていたが、その草はあまり生き生きとしてはおらず、むしろ、しおれているかのようだった。26:1:8 第七の山には晴れやかな草があり、山全体が豊かだった。そして、あらゆる種類の家畜と鳥が、その山で草を食んでいた。家畜と鳥が草を食べれば食べるほど、その山の草はますます茂った。第八の山は、泉に満ちていた。そして、主がお造りになったあらゆる種類のものが、その山の泉から水を与えられていた。26:1:9 第九の山には、水がまったくなく、全体が荒れ野のようだった。また、そこには、人を滅ぼす、死をもたらす獣と這うものがいた。第十の山には、たいへん大きな木々があり、全体が陰に覆われていた。そして、木々の陰に、羊が横たわって休み、反芻していた。26:1:10 第十一の山は、木がたいへん生い茂っていた。その木々は実をたわわにつけ、さまざまな実で飾られていた。それを見た者が、その実を食べたいと欲するほどだった。第十二の山は、全体が白く、その見た目は晴れやかだった。そして、その山は、それ自体で、このうえなく見栄えがよかった。

26:2:1 また、彼は、平原の真ん中に、平原からそそり立つ、大きな白い岩をわたしに見せた。その岩は山々よりも高く、四角で、全世界を収めることができるほどだった。26:2:2 その岩は古く、切り抜かれた門があった。けれども、門の彫り込みは、新しいもののように、わたしには思えた。その門は、太陽にまさってきらめいていたので、わたしは門のきらめきに驚いた。26:2:3 門の周りには、十二人のおとめが立っていた。さて、隅に立っている四人は、いっそう栄光ある者のように、わたしには思えた。もっとも、ほかのおとめたちも栄光ある者だった。彼女たちは門の四方に立ち、隅のおとめたちのあいだに、二人ずつおとめがいた。26:2:4 彼女たちは亜麻布の衣を着て、見栄えよく帯を締めていた。そして、何か荷を担おうとしているかのように、右の肩を出していた。そのように、用意ができていた。実際、彼女たちはたいへん晴れやかで、熱心だった。26:2:5 これらを見た後、わたしは、大いなる、栄光ある事を見ているので、心の中で驚いていた。また、おとめたちのことで、さらに当惑した。あれほど繊細なのに、天全体を担おうとしているかのように、雄々しく立っていたからだ。26:2:6 すると、牧者はわたしに言った。「なぜ、心の中で思い巡らし、当惑して、自分に悲しみ

を招くのですか。悟りのある者なら、分かることのできないことに、手を出してはならないのです。そうではなく、主に願い求めなさい。悟りを受けて、それらが分かるようになるためです。26:2:7 あなたは、自分の後ろにあるものを見ることはできず、前にあるものを見ています。だから、見ることのできないものは、放っておきなさい。自分を責めさいなんではなりません。見ているものは、しっかりとつかみなさい。残りのものについて、あれこれ詮索してはなりません。けれども、わたしがあなたに見せるものは、すべて、わたしがあなたに明らかにします。だから、残りのものに目を向けなさい」

26:3:1 わたしは、六人の男が来たのを見た。背が高く、栄光ある、互いに姿の似た男たちだった。彼らは、大勢の男たちを呼んだ。来たその男たちも、背が高く、美しく、力強い男たちだった。六人の男は、彼らに、岩の上に一つの塔を建てるよう命じた。塔を建てるために来たその男たちは、門の周りをあちらこちらと走り回り、大きな騒ぎになっていた。26:3:2 おとめたちは、門の周りに立って、塔が建てられるのを急ぐよう、男たちに言っていた。また、おとめたちは、男たちから何かを受け取ろうとしているかのように、両手を広げていた。26:3:3 六人の男は、ある深みから石が上って来て、塔の建物に入るよう命じた。すると、四角く輝く、切り整えられていない石が、十個上って来た。26:3:4 六人の男はおとめたちを呼んで、塔の建物に入ることになっている石を、みな担うよう命じた。また、門を通り抜けて、塔を建てることになっている男たちにそれを渡すよう命じた。26:3:5 おとめたちは、深みから上って来た最初の十個の石を、互いに載せ合った。そして、一つの石ずつ、一緒に担った。

第九のたとえ　4～6章　塔の土台と、建物を調べに来る塔の主

26:4:1 おとめたちは、門の周りに一緒に立っていたとおりの並びで担った。力があると思われるおとめたちは、石の隅の下に身を入れていた。ほかのおとめたちは、石の側面の下に身を入れていた。こうして、彼女たちは、すべての石を担った。そして、命じられたとおり、石を門を通して運び、塔のために男たちに渡した。男たちは石を手にして、建てた。26:4:2 塔の建物は、大きな岩の上、門の上に建てられた。そこで、その十個の石がはめ込まれ、岩全体を満たした。そして、それらの石が、塔の建物の土台となった。岩と門とが、塔全体を担っていた。26:4:3 十個の石の後に、ほかの石が二十個[1]、深みから上って来た。これらの石も、前の石と同じように、おとめたちに担われて、塔の建物にはめ込まれた。その後に、三十五個が上って来た。これらの石も、同じように、塔にはめ込まれた。その後に、ほかの石が四十個上って来た。これらの石もみな、塔の建物に入れられた。こうして、塔の土台に、四つの段ができた。26:4:4 そして、石は深みから上って来なくなった。建てる者たちも、しばらく手を止めた。そして、六人の男は再び、大勢の群衆に、塔の建物のために山々から石を運んで来るよう言いつけた。26:4:5 そこで、さまざまな色の石が、男たちに切り整えられて、すべての山から運ばれて来た。そして、おとめたちに渡された。おとめたちは、その石を門を通して運び、塔の建物のために渡した。さまざまな色の石は、建物に積まれると、みな同じように白くなり、そのさまざまな色を変えた。26:4:6 しかし、ある石は、男たちによって建物のために渡され、輝くようにならなかった。そうではなく、積まれたときのままに見いだされた。実際、それらの石は、おとめたちによって渡されたのでも、門を通して運ばれて来たのでもなかった。だから、これらの石は、塔の建物の中で見栄えが悪かった。26:4:7 六人の男は、建物の中の見栄えの悪い石を見て、それらの石を取り除き、運ばれて来たもとの場所へ運び下ろすよう命じた。26:4:8 そして、彼らは、石を運んで来ている男たちに言った。「あなたがたは、建物のために石を決して渡してはなりません。石は塔のそばに置きなさい。おとめたちが、門を通して石を運んで来て、建物のために渡すためです。このおとめたちの手によって門を通して運ばれて来なければ、石はその色を変えることができないからです。だから、無駄に労してはなりません」

26:5:1 その日、建物の工事は終わった。しかし、塔は仕上がらなかった。実際、塔は、再び建て上げられることになっていた。そして、工事は中休みとなった。六人の男は、建てる者たちに、みなしばらく退いて休むよう命じた。しかし、おとめたちには、塔から退かないよう言いつけた。おとめたちは、塔を守るために残されたのだと、わたしには思えた。26:5:2 みなが退いて休んだ後、わたしは牧者に言った。「主よ、なぜ、塔の建物は完成しなかったのですか」彼は言った。「塔の主がおいでになって、この建物をお試しにならなければ、塔はまだ仕上がることができません。朽ちた石が見いだされれば、主がそれをお取り替えになるためです。塔は、その方のみこころに沿って建てられているからです」26:5:3 わたしは言った。「主よ、この塔の、この建物が何なのかを知りたいのです。また、岩と門、山々とおとめたちについても知りたいのです。深みから上って来て、切り整えられたのではなく、そのまま建物に入って行った石についてもです。26:5:4 また、なぜ土台に、まず十個の石が積まれ、次に二十個、次に三十五個、次に四十個が積まれたのかも知りたいのです。建物に入って行ったのに、また取り除かれて、もとの場所に片づけられた石についてもです。主よ、これらすべてについて、わたしの魂を休ませてください。そして、それをわたしに知らせてください」26:5:5 彼は言った。「あなたが、無駄なことに熱を上げる者と見いだされなければ、すべてを知るでしょう。数日の後に、わたしたちはここへ来るからです。そして、あなたは、この塔にやって来る残りのことを見るでしょう。また、すべてのたとえを詳しく知るでしょう」26:5:6 そして、数日の後、わたしたちは、前に座っていた場所に来た。彼はわたしに言った。「塔のところへ行きましょう。塔の主人が、塔を調べにおいでになるからです」そして、わたしたちは

塔のところに来た。塔のそばには、おとめたちのほかは、まったくだれもいなかった。26:5:7 牧者は、塔の主がもうおいでになったのかと、おとめたちに尋ねた。彼女たちは、主が建物を調べに、これからおいでになると言った。

26:6:1 すると、見よ、しばらくして、多くの男たちの行列が来るのが見えた。その真ん中に、ある背の高い男がいた。塔よりも抜きん出るほどだった。26:6:2 建物を指図していた六人の男は、右に左に、その方と共に歩いた。建物のために働いたすべての者も、その方と共にいた。また、栄光あるほかの多くの者が、その方の周りにいた。塔の番をしていたおとめたちは、駆け寄って、その方に口づけした。そして、その方のそばで、塔の周りを歩き始めた。26:6:3 その方は、建物を詳しくお調べになり、石を一つ一つ手でおさわりになるほどだった。また、手に一本の杖をお持ちになって、建てられた石を一つずつおたたきになった。26:6:4 その方がお打ちになると、石のうちのあるものは、すすのように黒くなった。あるものは表面が荒れ、あるものはひびが入り、あるものは欠けた。あるものは白くも黒くもなくなった。あるものはでこぼこになり、ほかの石とよく合わなくなった。あるものは多くのしみを帯びた。これが、建物の中で見いだされた朽ちた石の、さまざまな姿だった。26:6:5 そこで、その方は、これらの石をみな塔から移して、塔のそばに置くようお命じになった。また、ほかの石を運んで来て、その場所に入れるようお命じになった。26:6:6 建てる者たちは、どの山から石を運んで来てその場所に入れることをお望みなのかと、その方に尋ねた。その方は、山々から運んで来るようにはお命じにならず、近くにある、ある平原から運んで来るようお命じになった。26:6:7 そして、その平原が掘られると、輝く四角い石が見いだされた。また、丸い石もいくつか見いだされた。その平原にあった石は、どれもみな運ばれて来て、おとめたちに担われ、門を通された。26:6:8 四角い石は切り整えられて、取り除かれた石の場所に積まれた。しかし、丸い石は建物に積まれなかった。切り整えるには硬く、手間取ったからだ。丸い石は、これから切り整えられて建物に積まれることになっているものとして、塔のそばに置かれた。実際、それらはたいへん輝いていた。

訳注

1 古い訳には『二十五』とするものがあり、十五章の説明と合う。

第九のたとえ　7～9章　石の検分と、一枚岩のように見える塔

26:7:1 そこで、栄光ある男、塔全体の主であるその方は、これらのことをお済ませになると、牧者をお呼び寄せになった。そして、塔のそばに置かれているすべての石、建物から捨てられた石を、牧者におゆだねになった。そして、彼におっしゃった。26:7:2「注意深く、これらの石を清めなさい。そして、残りの石に合うことのできる石を、塔の建物に積みなさい。しかし、合わない石は、塔から遠くへ投げなさい」26:7:3 その方は、これらを牧者にお命じになると、一緒に来たすべての者と共に、塔から去って行かれた。おとめたちは、塔の周りに立って、塔の番をしていた。26:7:4 わたしは牧者に言った。「これらの石は、不合格とされたのに、どうして塔の建物に入って行くことができるのですか」彼はわたしに答えて言った。「これらの石が見えますか」わたしは言った。「主よ、見えます」彼は言った。「わたしが、これらの石の大部分を切り整えて、建物に入れます。そうすれば、残りの石と合うでしょう」26:7:5 わたしは言った。「主よ、どうして、削り取られて、同じ場所を満たすことができるのですか」彼はわたしに答えて言った。「小さいと見いだされる石は、建物の真ん中に入れられます。それより大きい石は、外側に積まれて、それらをまとめて押さえます」26:7:6 彼は、わたしにこれらのことを話すと、わたしに言った。「行きましょう。そして、二日の後に来て、これらの石を清め、建物に入れましょう。塔の周りのものは、すべて清められなければならないからです。さもないと、主が突然おいでになって、塔の周りが汚れているのをお見いだしになり、いきどおられるかもしれません。そうなれば、これらの石は塔の建物に入って行かず、わたしも主の前で怠慢な者と思われるでしょう」26:7:7 そして、二日の後、わたしたちは塔のところに来た。彼はわたしに言った。「すべての石を調べて、建物に入って行くことのできる石を見ましょう」わたしは彼に言った。「主よ、調べましょう」

26:8:1 そして、わたしたちは、まず黒い石から調べ始めた。それらの石は、建物から外されて置かれたときのままに見いだされた。牧者は、それらを塔から移して、分けておくよう命じた。26:8:2 次に、彼は表面の荒れた石を調べた。そして、それを手に取って、その多くを切り整えた。そして、おとめたちに、それを取り上げて建物に入れるよう命じた。おとめたちは、それを取り上げて、塔の建物の真ん中に積んだ。残りの石は、黒い石と一緒に置くよう命じた。実際、これらの石も、黒いと見いだされた。26:8:3 次に、彼はひびの入った石を調べた。そして、そのうちの多くを切り整えて、おとめたちによって建物に運ばれて行くよう命じた。それらの石は、外側に積まれた。ほかより無傷だと見いだされたからだ。残りの石は、ひびの多さのゆえに、切り整えられることができなかった。だから、この理由のゆえに、塔の建物から捨てられた。26:8:4 次に、彼は欠けた石を調べた。その中には、黒いものが多く見いだされた。あるものには、大きなひびができていた。これらの石も、捨てられた石と一緒に置くよう命じた。余った石は、清めて切り整えると、建物に積むよう命じた。おとめたちは、それを取り上げて、塔の建物の真ん中にはめ込んだ。実際、それらの石は、ほかより弱かった。26:8:5 次に、彼は半分白く、半分黒い石を調べた。そのうちの多くが、黒いと見いだされた。これらの石も、捨てられた石と一緒に取り除くよう命じた。残りの石は、みなおとめたちに取り上げられた。実際、それらは白かったので、おとめたち自身によって建物にはめ込まれた。そして、外側に積まれた。無傷だと見いだされ、真ん中に積まれた石を押さえることができるほどだったからだ。実際、それらの石のうちには、欠けたものがまったくなかった。26:8:6 次に、彼はでこぼこで硬い石を調べた。そのうちの少しは、切り整えられることができないゆえに、捨てられた。実際、それらはひどく硬いと見いだされた。残りの石は、切り整えられ、おとめたちに取り上げられて、塔の建物の真ん中にはめ込まれた。実際、それらの石は、ほかより弱かった。26:8:7 次に、彼はしみのある石を調べた。そのうちのごくわずかは黒くなって、ほかの石のところへ捨てられた。

余った石は、輝いていて無傷だと見いだされた。これらの石は、おとめたちによって建物にはめ込まれた。そして、その力強さのゆえに、外側に積まれた。

26:9:1 次に、彼は白くて丸い石を調べに来た。そして、わたしに言った。「これらの石について、わたしたちはどうしましょうか」わたしは言った。「主よ、わたしが何を知っているでしょうか」彼は言った。「では、それらについて、何も思いつかないのですか」26:9:2 わたしは言った。「主よ、わたしはこの技術を持っていません。石切りでもなく、分かることもできません」彼は言った。「これらの石が、たいへん丸いのが見えないのですか。もしわたしがそれを四角にしようと思えば、多くを切り落とさなければなりません。しかし、そのうちのいくつかは、どうしても建物に積まなければならないのです」26:9:3 わたしは言った。「主よ、では、どうしてもそうしなければならないのなら、なぜ、ご自分を悩ませておられるのですか。なぜ、お望みの石を建物のためにお選びになって、そこにおはめ込みにならないのですか」彼は、ほかより大きくて輝く石を選んだ。そして、それを切り整えた。おとめたちは、それを取り上げて、建物の外側の部分にはめ込んだ。26:9:4 残りの、余った石は、取り除かれて、運ばれて来た平原に片づけられた。しかし、捨てられはしなかった。彼は言った。「塔には、まだ少し、建てる部分が残っているからです。これらの石はたいへん輝いているので、塔の主は、そのすべてが建物にはめ込まれることを望んでおられます」26:9:5 そして、十二人の女が呼ばれた。姿のきわめて美しい女たちで、黒い衣を着て、帯を締め、肩を出し、髪をほどいていた。この女たちは、猛々しいように、わたしには思えた。牧者は、彼女たちに、建物から捨てられた石を取り除いて、それが運ばれて来た山々へ運んで行くよう命じた。26:9:6 彼女たちは晴れやかに、すべての石を取り除いて運んで行き、それが取られた場所に置いた。すべての石が取り除かれ、塔の周りにもう一つの石も置かれていなくなった後、牧者はわたしに言った。「塔の周りを回って、何か足りないところがないか見ましょう」そして、わたしは彼と一緒に回った。26:9:7 牧者は、塔の建物が見栄えよいのを見て、たいへん晴れやかだった。実際、塔は、わたしが見て、その建物を欲するほどに建てられていた。実際、それは、一つの石でできていて、その中に継ぎ目を一つも持たないもののように建てられていた。その石は、岩から彫り出されたもののように見えた。実際、わたしには、一枚岩のように思えた。

第九のたとえ　10〜12章　おとめたちと過ごした夜と、岩と門の解き明かし

26:10:1 わたしも、彼と一緒に歩きながら、これほど良いものを見て、晴れやかだった。牧者はわたしに言った。「行って、石灰と細かい陶片を持って来なさい。取り上げられて建物に入れられた石の跡を、わたしが埋めるためです。塔の周りは、すべて平らにならなければならないからです」 26:10:2 わたしは、彼が命じたとおりにして、それを彼のもとに持って来た。彼は言った。「わたしを手伝いなさい。そうすれば、工事は間もなく終わるでしょう」そこで、彼は、建物に入って行った石の跡を埋めた。そして、塔の周りを掃いて、清くするよう命じた。 26:10:3 おとめたちは、ほうきを取って掃いた。そして、ごみをすべて塔から取り除き、水をまいた。すると、塔のその場所は、晴れやかで、このうえなく見栄えのよいものになった。 26:10:4 牧者はわたしに言った。「すべて清められました。主が塔を見回りにおいでになっても、わたしたちには何もお責めになることがありません」彼はこう言うと、立ち去ろうとした。 26:10:5 しかし、わたしは彼の袋をつかんだ。そして、彼がわたしに見せたものを解き明かしてくれるよう、主に誓って彼に願い始めた。彼はわたしに言った。「わたしは、少しのあいだ手が離せません。それから、すべてをあなたに解き明かします。わたしが来るまで、ここでわたしを待っていなさい」 26:10:6 わたしは彼に言った。「主よ、ここに一人でいて、わたしは何をしたらよいのですか」彼は言った。「あなたは一人ではありません。このおとめたちが、あなたと一緒にいるからです」わたしは言った。「では、わたしを彼女たちにおゆだねください」牧者は彼女たちを呼び寄せて、言った。「わたしが来るまで、この人をあなたがたに預けます」そして、彼は去って行った。 26:10:7 わたしは、一人で、おとめたちと一緒にいた。彼女たちは、いっそう晴れやかで、わたしに親切だった。とくに、彼女たちのうちで、いっそう栄光ある四人がそうだった。

26:11:1 おとめたちはわたしに言った。「牧者は、今日はここに来ませんよ」わたしは言った。「では、わたしはどうしたらよいのですか」彼女たちは言った。「夕方まで、彼を待っていてください。もし来たら、あなたと話をするでしょう。もし来なければ、彼が来るまで、ここでわたしたちと一緒にとどまるのですよ」 26:11:2 わたしは彼女たちに言った。「夕方まで彼を待ちます。しかし、もし来なければ、家に帰って、朝にまた戻って来ます」彼女たちはわたしに答えて言った。「あなたは、わたしたちにゆだねられたのです。わたしたちのもとから去って行くことはできませんよ」 26:11:3 わたしは言った。「では、わたしはどこにとどまるのですか」彼女たちは言った。「わたしたちと一緒に、兄弟として眠るのです。夫としてではありません。あなたは、わたしたちの兄弟だからです。これから先、わたしたちは、あなたと一緒に住むことになっています。わたしたちは、あなたをたいへん愛しているのです」しかし、わたしは、彼女たちと一緒にとどまるのが恥ずかしかった。 26:11:4 すると、彼女たちのうちで第一の者と思われるおとめが、わたしに口づけし、わたしを抱きしめ始めた。ほかのおとめたちは、彼女がわたしを抱きしめているのを見て、自分たちもわたしに口づけし始めた。そして、わたしを連れて塔の周りを回り、わたしと遊び始めた。 26:11:5 わたしも、前より若くなったかのようで、自分も彼女たちと遊び始めた。実際、ある者は輪になって踊り、ある者は舞い、ある者は歌っていた。わたしは、黙ったまま、彼女たちと一緒に塔の周りを歩き、彼女たちと一緒に晴れやかだった。 26:11:6 夕方になると、わたしは家に帰ろうとした。しかし、彼女たちはわたしを放さず、かえって、引き留めた。そして、わたしはその夜、彼女たちと一緒にとどまり、塔のそばで眠った。 26:11:7 実際、おとめたちは、自分たちの亜麻布の衣を地面に敷き、わたしを自分たちの真ん中に横たえた。そして、祈るほかには、まったく何もしなかった。わたしも、彼女たちと一緒に、彼女たちに劣らず、絶え間なく祈った。おとめたちは、わたしがこのように祈るのを喜んだ。そして、わたしは、翌日の第二の時まで、おとめたちと一緒にそこにとどまった。 26:11:8 それから、牧者が来た。そして、おとめたちに言った。「この人に、何かひどい

仕打ちをしなかったでしょうね」彼女たちは言った。「この人に尋ねてください」わたしは彼に言った。「主よ、彼女たちと一緒にとどまって、楽しみました」彼は言った。「夕食には何を食べましたか」わたしは言った。「主よ、夜通し、主のことばを夕食にいただきました」彼は言った。「彼女たちは、あなたをよく迎えましたか」わたしは言った。「はい、主よ」26:11:9 彼は言った。「では、まず何を聞きたいのですか」わたしは言った。「主よ、初めからお見せになったとおりに、お聞きしたいのです。主よ、お願いします。わたしがお尋ねするとおりに、そのとおりに明らかにしてください」彼は言った。「あなたが望むとおりに、そのとおりに解き明かしましょう。そして、何一つ、あなたに隠しはしません」

26:12:1 わたしは言った。「主よ、何よりもまず、このことをわたしに明らかにしてください。岩と門は、何なのですか」彼は言った。「この岩と門は、神の子です」わたしは言った。「主よ、どうして、岩は古く、門は新しいのですか」彼は言った。「聞いて、悟りなさい。悟りのない人よ。26:12:2 神の子は、そのすべての被造物よりも先におられる方です。それで、その被造物について、父の相談相手となられたほどです。そのため、岩も古いのです」わたしは言った。「主よ、では、門はなぜ新しいのですか」26:12:3 彼は言った。「神の子が、終わりの時の最後の日々に明らかになられたからです。そのため、門は新しくなったのです。救われることになっている者たちが、門を通って神の国に入るためです。26:12:4 門を通って入り、塔の建物に入れられた石と、入らずに再びもとの場所へ捨てられた石を、見ましたか」わたしは言った。「主よ、見ました」彼は言った。「そのように、その聖なる名を受けなければ、だれも神の国に入ることはないでしょう。26:12:5 もし、あなたがある町に入ろうとして、その町が周りを城壁で囲まれ、門を一つしか持っていないとします。そのときは、その町が持っている門を通らなければ、その町に入ることはできないからです」わたしは言った。「主よ、いったい、ほかにどうして、そうなりえるでしょうか」彼は言った。「だから、町にその門を通らなければ入れないのなら、それと同じように、人は神の国にも、ほかのしかたでは入れません。神に愛されている、その御子の名によるほかはないのです。26:12:6 塔を建てている群衆を見ましたか」わたしは言った。「主よ、見ました」彼は言った。「あの者たちは、みな栄光ある御使いです。だから、主は、彼らによって城壁で囲まれておられるのです。門は神の子です。これが、主のもとへのただ一つの入り口です。だから、だれも、その御子によらなければ、ほかのしかたで主のもとに入ることはないでしょう。26:12:7 六人の男と、その真ん中の、栄光ある、大いなる男を見ましたか。塔の周りをお歩きになって、石を建物から不合格となさった方です」わたしは言った。「主よ、見ました」26:12:8 彼は言った。「栄光ある男は神の子です。あの六人は栄光ある御使いたちで、右に左に、その方を支えています。これらの栄光ある御使いたちのうち、だれ一人として、その方なしに神のもとに入ることはないでしょう。その方の名を受けない者は、だれでも、神の国に入ることはないでしょう」

第九のたとえ　13〜15章　おとめたちの衣と、捨てられた石の解き明かし

26:13:1 わたしは言った。「では、塔は何なのですか」彼は言った。「この塔は教会です」 26:13:2 わたしは言った。「では、このおとめたちは、だれなのですか」彼は言った。「彼女たちは聖なる霊です。彼女たちが自分たちの衣を着せなければ、人は、ほかのしかたでは、神の国の中に見いだされることができません。もし、あなたが名だけを受けて、彼女たちから衣を受けなければ、何の益にもならないからです。このおとめたちは、神の子の力なのです。もし、あなたがその名を帯びていても、その方の力を帯びていなければ、その方の名を無駄に帯びていることになるでしょう。 26:13:3 あなたが見た、捨てられた石、その者たちは、名を帯びてはいました。しかし、おとめたちの装いを着てはいなかったのです」わたしは言った。「主よ、彼女たちの装いとは、どのようなものですか」彼は言った。「名そのものが、彼女たちの装いです。神の子の名を帯びる者はだれでも、彼女たちの名も帯びなければなりません。御子ご自身もまた、このおとめたちの名を帯びておられるのです。 26:13:4 あなたは、石が塔の建物に入って行き、おとめたちの手によって渡されて、建物にとどまるのを見ました。それらの石はみな、このおとめたちの力を身にまとっているのです。 26:13:5 そのため、あなたは、塔が岩と共に一枚岩となったのを見ているのです。それと同じように、御子によって主を信じ、これらの霊を身にまとう者たちも、一つの霊、一つのからだとなるでしょう。その衣の色も一つになるでしょう。このような、おとめたちの名を帯びている者たちの住まいは、塔の中にあるのです」 26:13:6 わたしは言った。「主よ、では、捨てられた石は、なぜ捨てられたのですか。門を通り、おとめたちの手によって塔の建物に積まれたのですから」彼は言った。「あなたは、すべてのことに心を配り、詳しく調べているのですから、捨てられた石について聞きなさい。 26:13:7 この者たちはみな、神の子の名を受けました。また、このおとめたちの力も受けました。そこで、これらの霊を受けて、力づけられ、神のしもべたちと共にいました。彼らには、一つの霊と、一つのからだと、一つの衣がありました。同じことを思い、義を行っていたからです。 26:13:8 そこで、しばらくすると、彼らは女たちにそそのかされました。あなたが見た、黒い衣を着て、肩を出し、髪をほどいた、姿の美しい女たちです。彼らは、この女たちを見て、彼女たちを欲し、その力を身にまといました。そして、おとめたちの衣と力を脱ぎました。 26:13:9 だから、この者たちは、神の家から捨てられ、あの女たちに引き渡されました。しかし、この女たちの美しさに欺かれなかった者たちは、神の家にとどまりました。これで、捨てられた石の解き明かしを得ましたね」

26:14:1 わたしは言った。「主よ、では、どうなのですか。この人々が、このような者であっても、悔い改めて、この女たちへの欲望を捨てるとします。そして、おとめたちのもとに戻り、彼女たちの力と行いのうちを歩むとします。神の家に入るのではありませんか」 26:14:2 彼は言った。「入ります。ただし、この女たちの行いを捨て、おとめたちの力を取り戻し、彼女たちの行いのうちを歩むならばのことです。建物の工事が中休みとなったのも、この人々が悔い改めるなら、塔の建物へ行けるようにするためだからです。しかし、悔い改めないなら、そのときは、ほかの者たちが入り、この人々は完全に追い出されるでしょう」 26:14:3 これらすべてのことについて、わたしは主に感謝した。主が、御名で呼ばれるすべての者を深くあわれんでくださったからだ。主は、ご自分に対して罪を犯したわたしたちのもとに、悔い改めの御使いを遣わし、わたしたちの霊を新たにしてくださった。わたしたちはすでに損なわれ、生きる望みもなかったのに、主はわたしたちのいのちを若返らせてくださったのだ。 26:14:4 わたしは言った。「主よ、今、わたしに明らかにしてください。なぜ塔は、地面の上にではなく、岩の上と門の上に建てられているのですか」彼は言った。「あなたは、まだ分別がなく、悟りがないのですか」わたしは言った。「主よ、わたしは、すべてをあなたにお尋ねしなければなりません。まったく何一つ分かることができないからです。すべてのことが大いなるもの、栄光あるもので、人には分かりにくいのです」

26:14:5 彼は言った。「聞きなさい。神の子の名は大いなるもので、何ものの内にも収まらず、全世界を担っています。だから、神の子がすべての被造物を担っておられるとします。それなら、御子にお召しを受け、神の子の名を帯び、その戒めのうちを歩む者たちのことは、どう思いますか。26:14:6 では、御子がどのような者たちを担っておられるか、分かりますか。心を尽くしてその名を帯びている者たちです。だから、御子ご自身が彼らの土台となられ、喜んで彼らを担っておられるのです。彼らが、その名を帯びることを恥じないからです」

26:15:1 わたしは言った。「主よ、おとめたちの名と、黒い衣を着た女たちの名を、わたしに明らかにしてください」彼は言った。「隅に立った、ほかより力強いおとめたちの名を聞きなさい。26:15:2 第一は信仰、第二は自制、第三は力、第四は辛抱強さです。ほかのおとめたちは、そのあいだに立っていて、次の名を持っています。素直さ、無垢、清さ、晴れやかさ、真実、悟り、一致、愛です。これらの名と神の子の名とを帯びる者は、神の国に入ることができるでしょう。

26:15:3 黒い衣を着た女たちの名も聞きなさい。彼女たちのうちでも、四人がほかより力があります。第一は不信仰、第二は無節制、第三は不従順、第四は欺きです。彼女たちに続く者たちは、悲しみ、悪、好色、短気、偽り、無分別、悪口、憎しみと呼ばれます。これらの名を帯びる神のしもべは、神の国を見ることはあっても、そこに入ることはないでしょう」26:15:4 わたしは言った。「主よ、深みから建物にはめ込まれた石は、何なのですか」彼は言った。「最初の、土台に積まれた十個は、第一の世代です。二十五個は、正しい人々の第二の世代です。三十五個は、神の預言者たちと、神に仕える者たちです。四十個は、神の子を宣べ伝える使徒と教師たちです」26:15:5 わたしは言った。「主よ、では、なぜおとめたちは、これらの石も、門を通して運んで、塔の建物のために渡したのですか」26:15:6 彼は言った。「この者たちが、最初にこれらの霊を帯びたからです。そして、互いにまったく離れませんでした。霊が人から離れることもなく、人が霊から離れることもありませんでした。かえって、霊は、彼らが眠りにつくまで、彼らのもとにとどまり続けたのです。もし、これらの霊を共に持っていなかったなら、彼らは、この塔の建物の役に立つ者とはならなかったでしょう」

第九のたとえ　16〜19章　水の印と、山々の解き明かし

26:16:1 わたしは言った。「主よ、さらに、わたしに明らかにしてください」彼は言った。「何を尋ね求めているのですか」わたしは言った。「主よ、なぜ、石は、これらの霊を帯びていたのに、深みから上って来て、塔の建物に積まれたのですか」26:16:2 彼は言った。「彼らは、生かされるために、水を通って上って来なければなりませんでした。自分たちの前のいのちの、死んだありさまを捨て去らなければ、ほかのしかたでは、神の国に入ることができなかったからです。26:16:3 そこで、この眠りについた者たちも、神の子の印を受けて、神の国に入りました。人は、神の子の名を帯びる前は、死んでいるからです。しかし、印を受けると、死んだありさまを捨て去り、いのちを受け取るのです。26:16:4 ですから、印は水なのです。だから、人々は、死んだ者として水の中に下り、生きた者として上って来ます。そこで、あの者たちにも、この印が宣べ伝えられました。そして、彼らは、神の国に入るために、それを用いました」26:16:5 わたしは言った。「主よ、なぜ、四十個の石も、すでに印を持っていたのに、彼らと共に深みから上って来たのですか」彼は言った。「この者たちは、神の子の名を宣べ伝えた使徒と教師たちです。彼らは、神の子の力と信仰のうちに眠りについた後、先に眠りについた者たちにも宣べ伝えたからです。そして、彼ら自身が、その者たちに、宣教の印を与えました。26:16:6 そこで、彼らは、その者たちと共に水の中に下り、また上って来ました。しかし、この者たちは、生きた者として下り、生きた者として上って来ました。一方、あの先に眠りについた者たちは、死んだ者として下り、生きた者として上って来たのです。26:16:7 そこで、彼らは、この者たちによって生かされ、神の子の名を知りました。そのため、この者たちと共に上って来て、塔の建物に共にはめ込まれ、切り整えられないまま、共に建てられたのです。彼らは、義と大いなる清さのうちに眠りについたからです。ただ、この印だけを持っていなかったのです。これで、この者たちの解き明かしも得ましたね」わたしは言った。「主よ、得ました。

26:17:1 では今、主よ、山々について、わたしに明らかにしてください。なぜ、山々の姿はそれぞれ違い、さまざまなのですか」彼は言った。「聞きなさい。この十二の山は、全世界に住む部族です。そこで、これらの部族に、使徒たちによって神の子が宣べ伝えられたのです」26:17:2 わたしは言った。「主よ、では、なぜ山々はさまざまで、その姿がそれぞれ違うのか、わたしに明らかにしてください」彼は言った。「聞きなさい。全世界に住むこの十二の部族は、十二の国民です。彼らは、思慮と知性がさまざまです。だから、あなたが見た山々がさまざまだったように、これらの国民の知性と思慮も、そのようにさまざまなのです。また、一つ一つの国民の行いも、あなたに明らかにしましょう」26:17:3 わたしは言った。「主よ、まず、このことを明らかにしてください。山々は、これほどさまざまなのに、その石が建物に積まれると、なぜ一つの色になって輝いたのですか。深みから上って来た石と同じようにです」26:17:4 彼は言った。「天の下に住むすべての国民は、聞いて信じ、神の子の名で呼ばれたからです。そこで、彼らは印を受けて、一つの思慮と一つの知性を持ちました。彼らの信仰は一つとなり、愛も一つとなりました。そして、名と共に、おとめたちの霊を帯びました。そのため、塔の建物は一つの色になり、太陽のように輝いたのです。26:17:5 しかし、彼らが一緒に入り、一つのからだとなった後、彼らのうちのある者たちは、自分を汚しました。そして、正しい人々の種族から追い出され、以前の彼らに戻ってしまいました。いや、むしろ、もっと悪くなったのです」

26:18:1 わたしは言った。「主よ、彼らは、神を知ったのに、どうして、もっと悪くなったのですか」彼は言った。「神を知らずに悪をはたらく者は、その悪のゆえに、何かの罰を受けます。しかし、神を知った者は、もはや悪をはたらくべきではなく、善を行うべきです。26:18:2 だから、善を行うべき者が悪をはたらくなら、神を知らない者よりも、大きな悪を行っていると思われるのではありませんか。そのため、神を知らずに悪をはたらく者たちは、死に定められています。し

かし、神を知り、その大いなるわざを見ていながら悪をはたらく者たちは、二重に罰せられ、永遠に死ぬでしょう。だから、このようにして、神の教会は清められるでしょう。26:18:3 あなたは、石が塔から取り除かれ、悪い霊たちに引き渡され、そこから追い出されるのを見ました。そして、清められた者たちは、一つのからだとなるでしょう。ちょうど、塔も清められた後、一つの石でできたもののようになったのと同じです。神の教会も、そのようになるでしょう。教会が清められ、悪い者、偽善者、冒涜する者、二心の者、さまざまな悪をはたらく者たちが捨てられた後のことです。26:18:4 これらの者たちが捨てられた後、神の教会は、一つのからだ、一つの思慮、一つの知性、一つの信仰、一つの愛となるでしょう。そのとき、神の子は、ご自分の民を清いものとして取り戻しておられます。そして、彼らのうちで喜びにあふれ、お楽しみになるでしょう」わたしは言った。「主よ、すべては大いなるもの、栄光あるものです。26:18:5 さらに、主よ、山々の一つ一つの力と行いを、わたしに明らかにしてください。主に信頼するすべての魂が、それを聞いて、主の大いなる、驚くべき、栄光ある御名をあがめるためです」彼は言った。「山々と十二の国民の、さまざまなありさまを聞きなさい。

26:19:1 第一の、黒い山から信じた者たちは、次のような者たちです。背いた者たち、主を冒涜する者たち、神のしもべたちを裏切った者たちです。この者たちには、悔い改めはなく、死があります。そのため、彼らは黒くもあります。彼らの種族もまた、不法なのです。26:19:2 第二の、はげた山から信じた者たちは、次のような者たちです。偽善者たち、悪を教える者たちです。だから、この者たちも、前の者たちに似ていて、義の実を持っていません。彼らの山に実がないように、このような人々も、名は持っていても、信仰についてはむなしいからです。そして、彼らのうちには、真実の実が何もありません。だから、この者たちには、すぐに悔い改めるなら、悔い改めが備えられています。しかし、ぐずぐずするなら、彼らには、前の者たちと共に死があるでしょう」26:19:3 わたしは言った。「主よ、なぜ、この者たちには悔い改めがあり、最初の者たちにはないのですか。彼らの行いは、ほとんど同じだからです」彼は言った。「この者たちに悔い改めが備えられているのは、自分たちの主を冒涜せず、神のしもべたちを裏切る者ともならなかったからです。しかし、利得の欲望のゆえに偽善を行い、それぞれが、罪を犯す人々の欲望にしたがって教えました。とはいえ、何かの罰は受けるでしょう。けれども、冒涜する者とも裏切る者ともならなかったゆえに、彼らには悔い改めが備えられているのです」

第九のたとえ　20〜24章　第三〜第七の山から信じた者たち

26:20:1 「第三の、いばらとあざみのある山から信じた者たちは、次のような者たちです。彼らのうち、ある者たちは富む人々で、ある者たちは多くの商売にまみれた者たちです。あざみは富む人々で、いばらは、さまざまな商売にまみれた者たちです。 26:20:2 だから、多くのさまざまな商売にまみれたこの者たちは、神のしもべたちに結びつきません。かえって、自分の事業にふさがれて、迷い出ています。また、富む人々は、彼らから何かを求められはしないかと恐れて、神のしもべたちになかなか結びつきません。だから、このような者たちは、神の国に入ることが難しいでしょう。 26:20:3 あざみの中をはだしで歩くのが難しいように、このような者たちも、神の国に入るのは難しいのです。 26:20:4 けれども、この者たちすべてに、悔い改めがあります。ただし、速やかな悔い改めです。以前の時に行わなかったことを、今、日々のうちに取り戻して、何か善いことを行うためです。だから、もし悔い改めて何か善いことを行うなら、神に生きるでしょう。しかし、自分の事業に居続けるなら、あの女たちに引き渡され、その女たちが彼らを死なせるでしょう。

26:21:1 第四の山には、多くの草があり、草の上の方は緑で、根もとの方は枯れていました。また、ある草は、日のために枯れていくのでした。この山から信じた者たちは、次のような者たちです。ある者たちは二心の者で、ある者たちは、主をくちびるには持っていても、心には持っていない者たちです。 26:21:2 そのため、彼らの土台は枯れていて、力を持っていません。そして、彼らの言葉だけが生きていて、行いは死んでいます。このような者たちは、生きてもおらず、死んでもいません。だから、彼らは二心の者たちに似ています。二心の者たちもまた、緑でもなく、枯れてもいないのです。生きてもおらず、死んでもいないからです。 26:21:3 これらの草は、日を見て枯れました。それと同じように、二心の者たちも、患難のことを聞くと、自分の臆病のゆえに偶像を拝み、自分たちの主の御名を恥じるのです。 26:21:4 だから、このような者たちは、生きてもおらず、死んでもいません。けれども、この者たちも、すぐに悔い改めるなら、生きることができるでしょう。しかし、悔い改めないなら、すでに、彼らのいのちを奪い去る女たちに引き渡されているのです。

26:22:1 第五の、緑の草があって、でこぼこな山から信じた者たちは、次のような者たちです。信者ではありますが、物覚えが悪く、身勝手で、自分を気に入っています。すべてを知りたがっていますが、何一つ知りません。 26:22:2 この身勝手さのゆえに、悟りが彼らから離れ、愚かな無分別が彼らのうちに入りました。そして、彼らは、自分を悟りのある者としてほめ、分別がないのに、ひとりよがりの教師になりたがっています。 26:22:3 だから、この思い上がりのゆえに、多くの者が、自分を高くして、むなしくされました。身勝手さとむなしい自信は、大きな悪霊だからです。だから、彼らのうちの多くの者が捨てられました。しかし、ある者たちは、自分の無分別を知って、悔い改め、信じて、悟りのある人々に自分を従わせました。 26:22:4 このような残りの者たちにも、悔い改めが備えられています。彼らは悪い者とはならず、むしろ、愚かで悟りのない者となったからです。だから、この者たちは、もし悔い改めるなら、神に生きるでしょう。しかし、悔い改めないなら、自分たちに悪をはたらく女たちと共に住むでしょう。

26:23:1 第六の、大きなひびと小さなひびがあって、そのひびにしおれた草のある山から信じた者たちは、次のような者たちです。 26:23:2 小さなひびのある者たちは、互いに対して責める思いを持っている者たちです。そして、自分たちの悪口のせいで、信仰においてしおれています。けれども、彼らのうちの多くの者は悔い改めました。そして、残りの者たちも、わたしの戒めを聞くとき、悔い改めるでしょう。彼らの悪口は小さいからです。そして、彼らはすぐに悔い改めるでしょう。 26:23:3 大きなひびのある者たちは、自分たちの悪口に粘り強くとどまり、互いに恨んで、恨みを抱き続ける者となっています。だから、この者たちは、塔から投げ捨てられ、その建物から不合格とされました。だから、このよう

な者たちは、生きることが難しいでしょう。26:23:4 わたしたちの神であり主である方は、すべてのものを支配し、ご自分の被造物すべてに対する権威を持っておられます。その方が、自分の罪を告白する者たちに恨みをお抱きにならず、かえって、あわれんでくださるのです。それなら、人間は、朽ちる者で罪に満ちているのに、人を滅ぼすことも救うこともできるかのように、その人に恨みを抱くのですか。26:23:5 悔い改めの御使いであるわたしは、あなたがたに言います。このような心の持ち方をしている者はみな、それを捨て去り、悔い改めなさい。そうすれば、主は、あなたがたの以前の罪をいやしてくださるでしょう。ただし、あなたがたが、この悪霊から自分を清めるならばのことです。そうでなければ、あなたがたは、その悪霊に引き渡されて、死に至るでしょう。

26:24:1 第七の山には、緑の晴れやかな草があり、山全体が豊かでした。そして、あらゆる種類の家畜と空の鳥が、その山で草を食み、食まれた草はますます生き生きとしました。この山から信じた者たちは、次のような者たちです。26:24:2 彼らは、いつも素直で、無垢で、幸いな者でした。互いに対して何の責める思いも持たず、かえって、いつも神のしもべたちのことで喜びにあふれていました。また、これらのおとめたちの聖なる霊を身にまとい、いつもすべての人にあわれみの心を持っていました。そして、自分たちの労苦から、すべての人に、とがめもせず、ためらいもせずに、まかないました。26:24:3 だから、主は、彼らの素直さと、まったき幼子のような心をご覧になって、その手の労苦のうちに彼らを栄えさせてくださいました。そして、彼らのあらゆる行いのうちに、彼らに恵みをお与えになりました。26:24:4 悔い改めの御使いであるわたしは、このような者であるあなたがたに言います。いつまでも、このような者でいなさい。そうすれば、あなたがたの子孫は、とこしえに消し去られることはないでしょう。主は、あなたがたをお試しになり、わたしたちの数に書き入れてくださったからです。そして、あなたがたの子孫は、みな、神の子と共に住むでしょう。あなたがたは、御子の霊から受けたのです」

第九のたとえ　25〜28章　第八〜第十一の山から信じた者たち

26:25:1「第八の山には、多くの泉があり、主の被造物すべてが、その泉から水を与えられていました。この山から信じた者たちは、次のような者たちです。26:25:2使徒と教師たちです。彼らは、全世界に宣べ伝え、主のことばを、品位をもって清く教えました。そして、悪い欲望のために少しもごまかさず、かえって、いつも義と真実のうちを歩みました。聖霊を受けたとおりにです。だから、このような者たちの行く道は、御使いたちと共にあります。

26:26:1第九の、荒れ野のようで、人を滅ぼす這うものと獣のいる山から信じた者たちは、次のような者たちです。26:26:2しみのある者たちは、悪く仕えた執事たちです。彼らは、やもめとみなしごの暮らしを奪い取り、仕えるために受けた奉仕から、自分のために利を得ました。だから、もし同じ欲望に居続けるなら、彼らは死んだのであり、いのちの望みは何一つありません。しかし、もし立ち帰り、自分の奉仕を清く全うするなら、生きることができるでしょう。26:26:3表面の荒れた者たちは、否んだ者たちで、自分たちの主に立ち帰らなかった者たちです。かえって、荒れ地となり、荒れ野のようになりました。神のしもべたちに結びつかず、かえって、一人で離れていて、自分の魂を失っています。26:26:4ぶどうの木が、ある垣根の中に置き去りにされ、手入れを怠られると、損なわれていきます。雑草のために荒れ、時がたつと野生になって、もはやその持ち主の役に立ちません。それと同じように、このような人々も、自分を見限り、野生となって、自分たちの主の役に立たない者になっているのです。26:26:5だから、この者たちには、悔い改めがあります。ただし、心から否んだと見いだされないならばのことです。しかし、もしだれかが心から否んだと見いだされるなら、その人が生きることができるかどうか、わたしには分かりません。26:26:6わたしがこう言うのは、今の日々のことではありません。だれかが否んで、それから悔い改めを受けるためではないのです。今、自分の主を否もうとする者は、救われることができないからです。しかし、以前に否んだ者たちには、悔い改めが備えられているようです。だから、もしだれかが悔い改めようとするなら、塔が仕上がる前に、速やかにすべきです。そうでなければ、女たちによって損なわれ、死に至るでしょう。26:26:7欠けた者たちは、陰険で、悪口を言う者たちです。そして、あなたが山で見た獣は、この者たちです。獣が自分の毒で人を滅ぼし、殺してしまうように、このような人々の言葉も、人を滅ぼし、殺してしまうのです。26:26:8だから、この者たちは、自分たちのうちにある行いのゆえに、自分の信仰から欠けています。けれども、ある者たちは悔い改めて、救われました。そして、このような残りの者たちも、悔い改めるなら、救われることができます。しかし、悔い改めないなら、あの女たちによって死ぬでしょう。彼らは、その女たちの力を持っています。

26:27:1第十の、何匹かの羊を覆い守る木々のあった山から信じた者たちは、次のような者たちです。26:27:2監督たちと、旅人をもてなす者たちです。彼らは、偽善なしに、いつも喜んで、自分たちの家に神のしもべたちを迎え入れました。また、監督たちは、いつも、乏しい人々とやもめたちを、自分たちの奉仕によって絶えず覆い守り、いつも清くふるまいました。26:27:3だから、この者たちはみな、主によって、いつまでも覆い守られるでしょう。ですから、これらのことを行った者たちは、神のもとで栄光ある者たちです。そして、彼らの場所は、すでに御使いたちと共にあります。ただし、終わりまで主への務めを果たし続けるならばのことです。

26:28:1第十一の、実をたわわにつけ、さまざまな実で飾られた木々のあった山から信じた者たちは、次のような者たちです。26:28:2神の子の名のために苦しみを受けた者たちです。彼らは、心を尽くして、進んで苦しみを受け、自分のいのちを投げ出しました」26:28:3わたしは言った。「では、主よ、なぜ、木々はみな実をつけているのに、そのうちのあるものの実は、ほかより見た目がよいのですか」彼は言った。「聞きなさい。かつてその名のゆえに苦しみを受けた者はみ

な、神のもとで栄光ある者です。そして、その者たちすべての罪が除き去られました。神の子の名のゆえに苦しみを受けたからです。では、なぜ彼らの実がさまざまで、あるものがまさっているのか、聞きなさい。26:28:4 権力者のもとに引いて行かれ、取り調べられても否まず、かえって進んで苦しみを受けた者たちがいます。この者たちはみな、主のもとで、なおいっそう栄光ある者です。この者たちの実が、まさっている実です。しかし、臆病になってためらった者たちもいます。彼らは、否もうか告白しようかと心の中で考えてから、苦しみを受けました。その者たちの実は、ほかより劣っています。この思いが、彼らの心に上ったからです。しもべが自分の主を否むという、この思いは悪いのです。26:28:5 だから、これらのことを考えているあなたがたは、この思いが心に居座って、神に対して死ぬことのないよう、気をつけなさい。また、その名のために苦しみを受けているあなたがたは、神をあがめるべきです。神が、あなたがたをふさわしい者とみなしてくださったからです。それは、あなたがたがこの名を担い、あなたがたの罪がすべていやされるためです。26:28:6 だから、自分を幸いな者と思いなさい。それどころか、あなたがたのうちのだれかが神のゆえに苦しみを受けるなら、大きなわざを行ったと思いなさい。主は、あなたがたにいのちを恵んでくださるのに、あなたがたは分かっていません。あなたがたの罪が、重くのしかかっていたからです。もし主の御名のために苦しみを受けていなかったなら、あなたがたは自分の罪のゆえに、神に対して死んでいたでしょう。26:28:7 否むか告白するかでためらっているあなたがたに、わたしはこれらのことを言います。あなたがたには主がおられる、と告白しなさい。否んで、獄に引き渡されることのないためです。26:28:8 異邦人は、しもべのだれかが自分の主人を否むなら、そのしもべたちを罰します。それなら、すべてのものに対する権威を持っておられる主は、あなたがたに何をなさると思いますか。これらの思いを、あなたがたの心から取り除きなさい。いつまでも神に生きるためです」

第九のたとえ　29〜33章　第十二の山と丸い石、牧者の勧め

26:29:1「第十二の、白い山から信じた者たちは、次のような者たちです。彼らは、幼い赤子のような者たちです。その心には、どんな悪意も上らず、悪とは何かを知りませんでした。かえって、いつも幼子のような心のままでいました。26:29:2だから、このような者たちは、疑いなく神の国に住むことになります。何事においても神の戒めを汚さず、かえって、生涯のすべての日々、幼子のような心をもって、同じ思慮のままでいたからです。26:29:3だから、いつまでもこのままでいて、悪意を持たずに赤子たちのようになるあなたがたは、いっそう栄光ある者となるでしょう。先に挙げたすべての者よりもです。赤子たちはみな、神のもとで栄光ある者であり、その方のもとで第一の者だからです。だから、自分から悪を取り除き、無垢を身にまとうあなたがたは、幸いです。あなたがたは、すべての者に先立って、神に生きるでしょう」26:29:4彼が山々のたとえを語り終えた後、わたしは彼に言った。「主よ、今、石について、わたしに明らかにしてください。平原から取り上げられ、塔から取り除かれた石の代わりに建物に積まれた石です。また、建物に積まれた丸い石と、まだ丸いままの石についてもです」

26:30:1彼は言った。「これらすべてについても、聞きなさい。平原の石は、取り上げられて、捨てられた石の代わりに塔の建物に積まれました。この石は、白い山の根です。26:30:2白い山から信じた者たちは、みな無垢だと見いだされました。だから、塔の主は、この者たちをこの山の根から塔の建物に入れるよう、お命じになりました。これらの石が塔の建物に入って行くなら、いつまでも輝いていて、そのうちの一つも黒くならないことを、ご存じだったからです[1]。26:30:3もし、ほかの山々からお加えになっていたなら、もう一度その塔を見回って清める必要が、おありだったでしょう。しかし、この者たちはみな、白いと見いだされました。信じた者たちも、これから信じる者たちもです。同じ種族だからです。この種族は幸いです。無垢だからです。26:30:4今、丸くて輝く石についても聞きなさい。これらもまた、みな白い山から来たのです。では、なぜ丸いと見いだされたのか、聞きなさい。彼らの富が、彼らを真実から少し暗くし、曇らせました。けれども、神から離れたことは一度もありませんでした。その口からは、悪い言葉が一つも出ませんでした。かえって、あらゆる義と、真実の力が出たのです。26:30:5だから、主は彼らの心をご覧になって、彼らが真実に味方でき、善い者であり続けることもできると、お分かりになりました。そこで、彼らの富を削り取るようお命じになりました。すべてを取り除くのではないのです。残されたものから、何か善いことができるためです。そして、彼らは神に生きるでしょう。善い種族の者だからです。そういうわけで、彼らは少し削り取られて、この塔の建物に積まれたのです。

26:31:1しかし、残りの石は、まだ丸いまま残っていて、その建物にはめ込まれませんでした。まだ印を受けていなかったからです。この石は、もとの場所に片づけられました。たいへん丸いと見いだされたからです。26:31:2けれども、この世と、彼らの富のむなしさが、彼らから削り取られなければなりません。そのとき、彼らは神の国に合う者となるでしょう。彼らは、どうしても神の国に入らなければならないからです。主は、この無垢な種族を祝福してくださったのです。だから、この種族からは、だれ一人失われることはありません。たとえ彼らのうちのだれかが、極悪の悪魔に試みられて何か過ちを犯しても、すぐに自分の主のもとへ駆け戻るのです。26:31:3悔い改めの御使いであるわたしは、赤子のように無垢なあなたがたを、みな幸いな者とみなします。あなたがたの分は善いもので、神のもとで栄光あるものだからです。26:31:4また、この印を受けたあなたがたすべてに、わたしは言います。素直さを持ちなさい。恨みを抱いてはなりません。自分の悪意のうちにも、苦々しい恨みのうちにも、とどまり続けてはなりません。一つの霊となって、これらの悪い分裂をいやし、自分たちから取り除きなさい。羊の主が、彼らのことをお喜びになるためです。26:31:5主は、すべての羊が無傷で見いだされ、その中から失われたものがないなら、お喜びになるでしょ

う。しかし、もしその中のどれかが失われていると見いだされるなら、牧者たちに災いがあるでしょう。26:31:6 また、もし牧者たち自身も失われていると見いだされるなら、彼らは群れの主に何と言うのでしょうか。羊のせいで失われた、と言うのでしょうか。信じてもらえないでしょう。牧者が羊から何かをこうむるなど、信じられない事だからです。むしろ、彼らは自分たちの偽りのゆえに罰せられるでしょう。わたしもまた牧者です。わたしは、あなたがたについて、きわめて厳しく申し開きをしなければなりません。

26:32:1 だから、塔がまだ建てられているうちに、自分をいやしなさい。26:32:2 主は、平和を愛する人々のうちに住んでおられます。主は、平和を大切にしておられるからです。けれども、争いを好む人々や、悪意に身を滅ぼした人々からは、遠く離れておられます。だから、霊を、受けたとおり無傷のまま、その方にお返ししなさい。26:32:3 もしあなたが、新しい無傷の衣を布さらしに渡し、無傷で返してほしいのに、裂いて返されたなら、受け取りはしないからです。すぐにかっとなって、彼をののしって責め立て、こう言うのではないでしょうか。『わたしは、無傷の衣をあなたに渡した。なぜ、それを裂いて、役に立たないものにしたのか。あなたがつけた裂け目のせいで、使えない』それなら、あなたは、これらの言葉をみな、布さらしに言うのではないでしょうか。彼があなたの衣につけた裂け目についてです。26:32:4 だから、このように自分の衣のことで心を痛め、無傷で受け取れないと不平を言うのなら、主があなたに何をなさると思いますか。主は、無傷の霊をあなたにお与えになったのに、あなたは、それをまったく役に立たないものにしてしまいました。その主のために、何の用にも立たないほどにです。その霊は、あなたに損なわれて、使い道のないものになり始めたからです。だから、その霊の主は、あなたのこの行いのゆえに、あなたに死の罰をお与えになるのではないでしょうか」26:32:5 わたしは言った。「確かに、恨みにとどまり続けているとお見いだしになる者はみな、その方が罰をお与えになるでしょう」彼は言った。「その方の寛容を踏みにじってはなりません。そうではなく、むしろ、その方をあがめなさい。その方は、あなたがたの過ちに対してこれほど辛抱強く、あなたがたのような方ではないからです。あなたがたの益になる悔い改めをしなさい。

26:33:1 上に書かれたこれらのことはみな、悔い改めの御使いである牧者のわたしが、神のしもべたちに見せ、語ったものです。だから、もしあなたがたが信じ、わたしの言葉を聞いて、そのうちを歩み、自分の道を正すなら、生きることができるでしょう。しかし、もし悪意と恨みにとどまり続けるなら、そのような者のうち、だれ一人神に生きることはないでしょう。わたしは、語るべきことをみな、あなたがたに語りました」26:33:2 牧者自身が、わたしに言った。「あなたは、わたしにすべてを尋ねましたか」わたしは言った。「主よ、そのとおりです」彼は言った。「では、なぜ、建物に入れられた石の跡について、わたしに尋ねなかったのですか。わたしたちが、その跡を埋めたことです」わたしは言った。「主よ、忘れていました」26:33:3 彼は言った。「今、それらについて聞きなさい。その石は、今、わたしの戒めを聞いて、心を尽くして悔い改めた者たちです。主は、彼らの悔い改めが善く清いもので、彼らがそのうちにとどまり続けることができるのを、ご覧になりました。そこで、彼らの以前の罪を消し去るようお命じになりました。これらの跡は、彼らの罪だったからです。そして、見えなくなるよう、平らにされました」

訳注

1 ここから先はギリシア語の写本が失われ、おもに古いラテン語訳による。

第十のたとえ　御使いの訪れと、最後の勧め

27:0:0 第十のたとえ

27:1:1 わたしがこの書を書き終えた後、わたしをこの牧者にゆだねたあの御使いが、わたしのいた家に来て、寝台の上に座った。この牧者は、その右に立った。それから、御使いはわたしを呼んで、こう言った。27:1:2「わたしは、あなたとあなたの家を、この牧者にゆだねました。あなたが彼に覆い守られることができるためです」わたしは言った。「主よ、そのとおりです」彼は言った。「だから、あなたは、あらゆる苦しみとあらゆる残酷さから覆い守られたいと望みますか。また、あらゆる善い行いと言葉においてうまくいき、義のあらゆる力を持ちたいと望みますか。それなら、この者の戒めのうちを歩みなさい。わたしがあなたに与えた戒めです。そうすれば、あなたは、あらゆる悪を従わせることができるでしょう。27:1:3 この者の戒めを守るなら、この世のあらゆる欲望と甘さが、あなたに従うようになるからです。また、あらゆる善い仕事において、うまくいくことが、あなたについて来るでしょう。この者の品位と節度を、あなたのうちに受け入れなさい。そして、すべての人に言いなさい。彼は主のもとで大きな栄誉と尊厳のうちにあり、大きな権威を持つ長で、自分の務めにおいて力ある者だ、と。全世界で、この者にだけ、悔い改めの権威が与えられているのです。この者が力ある者だと、あなたには思えますか。けれども、あなたがたは、この者の品位と、彼があなたがたに対して持つ慎みを、軽んじています」

27:2:1 わたしは彼に言った。「主よ、この方にお尋ねください。この方がわたしの家におられるようになってから、わたしは何か秩序に外れたことをしたでしょうか。それによって、この方のお気を損ねたでしょうか」27:2:2 彼は言った。「わたしも、あなたが何も秩序に外れたことをしておらず、これからもしないことを知っています。そのため、わたしは、これらのことをあなたと話しているのです。あなたが、このまま続けるためです。この者は、わたしのもとで、あなたのことを良く伝えたからです。さて、あなたは、ほかの人々にこれらの言葉を語りなさい。悔い改めた者たちや、これから悔い改める者たちも、あなたと同じ思いを持つためです。そして、この者がわたしのもとで、わたしが主のもとで、彼らについて良く伝えるためです」27:2:3 わたしは言った。「主よ、わたしも、すべての人に主の大いなるわざを語り聞かせています。以前に罪を犯した者たちはみな、これらのことを聞けば、喜んで悔い改め、いのちを取り戻すだろうと、わたしは望んでいます」27:2:4 彼は言った。「だから、この奉仕にとどまり続け、それを成し遂げなさい。この者の戒めを行う者はだれでも、いのちを得るでしょう。そして、この者も、主のもとで大きな栄誉を得るでしょう。しかし、この者の戒めを守らない者はだれでも、自分のいのちから逃げ、彼に背を向けるのです。彼らは彼の戒めに従わず、かえって、自分を死に引き渡します。そして、彼らはみな、自分の血の責めを負う者となります。しかし、あなたに言います。これらの戒めに仕えなさい。そうすれば、罪のいやしを得るでしょう。

27:3:1 また、わたしは、このおとめたちをあなたのもとにつかわしました。あなたと共に住むためです。彼女たちが、あなたに親しく接するのを見たからです。だから、あなたは彼女たちを助け手として持っています。この者の戒めを、いっそうよく守ることができるためです。このおとめたちなしに、これらの戒めが守られることはありえないからです。また、彼女たちが喜んであなたと共にいるのが、わたしには見えます。けれども、あなたの家から決して離れないよう、わたしは彼女たちに命じておきましょう。27:3:2 あなたは、ただ自分の家を清めなさい。清い家になら、彼女たちは喜んで住むからです。彼女たちは、清く、純潔で、勤勉で、みな主のもとで恵みを得ているのです。だから、もし彼女たちにとって、あなたの家が清いままなら、彼女たちはあなたと共にとどまり続けるでしょう。しかし、もし少しでも何か汚れが生じるなら、すぐにあなたの家から離れ去るでしょう。このおとめたちは、どんな汚れも決して愛さないからです」27:3:3 わたしは彼に言った。「主よ、わたしは、彼女たちに気に入られることを望

んでいます。彼女たちが、いつまでも喜んでわたしの家に住むようにです。また、あなたがわたしをおゆだねになったこの方は、わたしをお責めになりません。それと同じように、彼女たちもわたしを責めないでしょう」27:3:4 彼は牧者に言った。「わたしは知っています。神のしもべであるこの人は、生きることを望んでいます。そして、これらの戒めを保ち、おとめたちを清らかさのうちに置くでしょう」27:3:5 彼はこう言うと、再びわたしを牧者にゆだねた。そして、おとめたちを呼んで、彼女たちに言った。「あなたがたが喜んでこの人の家に住んでいるのが見えるので、この人とその家を、あなたがたに預けます。あなたがたが、この人の家から決して離れ去らないためです」彼女たちは、これらの言葉を喜んで聞いた。

27:4:1 それから、彼はわたしに言った。「この奉仕において、雄々しくふるまいなさい。すべての人に主の大いなるわざを語り聞かせなさい。そうすれば、あなたは、この奉仕において恵みを得るでしょう。だから、これらの戒めのうちを歩む者はだれでも、生き、その生涯において幸せになるでしょう。しかし、おろそかにする者はだれでも、生きることはなく、その生涯において不幸になるでしょう。27:4:2 善を行うことのできる者がみな、やめることのないよう、すべての人に言いなさい。善い行いに励むことは、彼らの益になります。さて、わたしは言います。すべての人が、困窮から救い出されなければなりません。乏しくて、日々の暮らしの中で困窮に苦しむ者もまた、大きな責め苦と苦境のうちにいるのです。27:4:3 だから、このような魂を苦境から救い出す者は、自分のために大きな喜びを得ます。このような困窮に悩まされる者は、鎖につながれた者が苦しみもだえるのと同じ責め苦に、さいなまれるからです。多くの者が、このような災いのゆえに、それに耐えることができず、自ら死を招くのです。だから、このような人の災いを知りながら、その人を救い出さない者は、大きな罪を犯し、その人の血の責めを負う者となります。27:4:4 だから、主から受けたあなたがたはみな、善い行いをしなさい。行うのを遅らせているあいだに、塔の建物が完成してしまわないためです。あなたがたのゆえに、塔を建てる工事は中休みとなったからです。だから、急いで善を行わなければ、塔は完成し、あなたがたは締め出されるでしょう」27:4:5 彼はわたしと語り終えると、寝台から立ち上がり、牧者とおとめたちを連れて去って行った。しかし、あの牧者とおとめたちを、わたしの家へ送り返す、とわたしに言った。

ヘルマスの牧者

2026年11月23日版
著者　ヘルマス
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/shepherd-of-hermas/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/shepherd-of-hermas
全文を、ギリシア語とラテン語の原文（Ποιμήν）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。